

大日本貨幣史

三

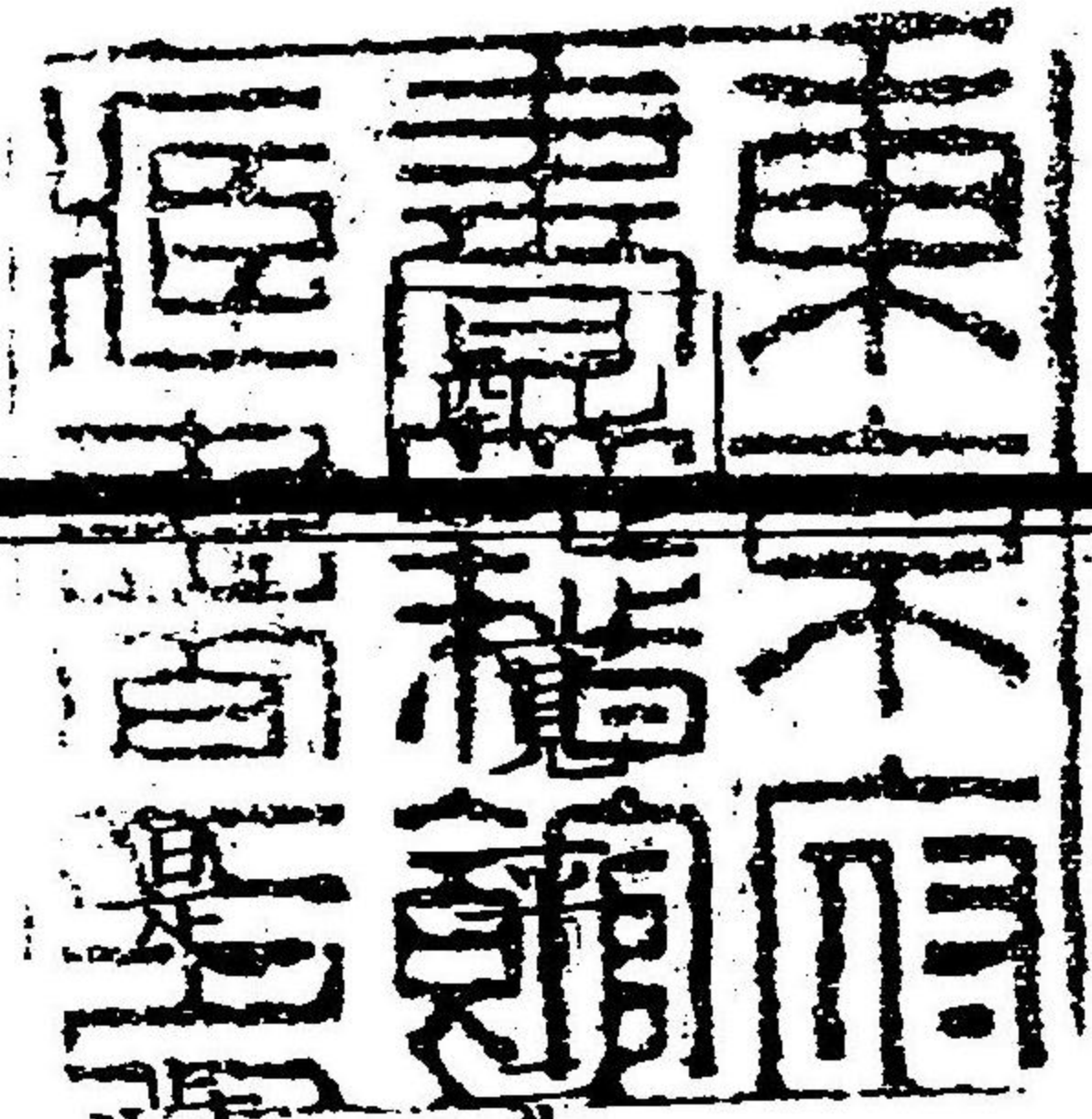
20.
40

東 京 圖 書 館				
四 冊	一 七 号	六 架	一 函	類

明治九年刊行

大日本貨幣史

大藏省



大日本貨幣史卷三

三貨部

紙幣寮御雇吉田賢輔纂述

明治十年圖書局交會

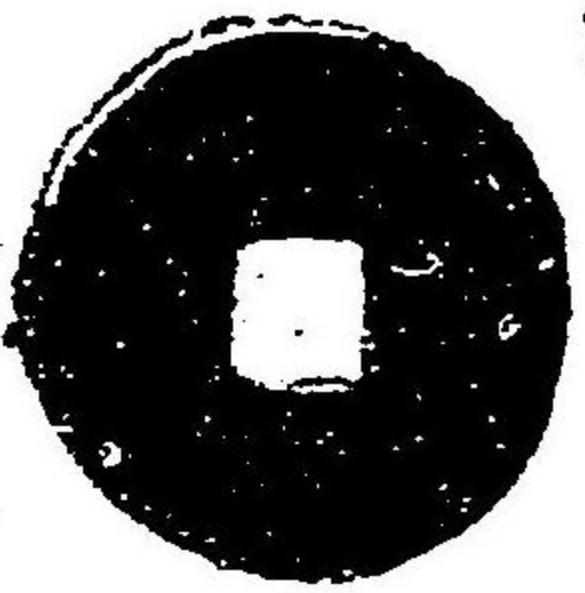
宇多天皇

九年寬平大寶錢ヲ鑄ル銅錢ナリ

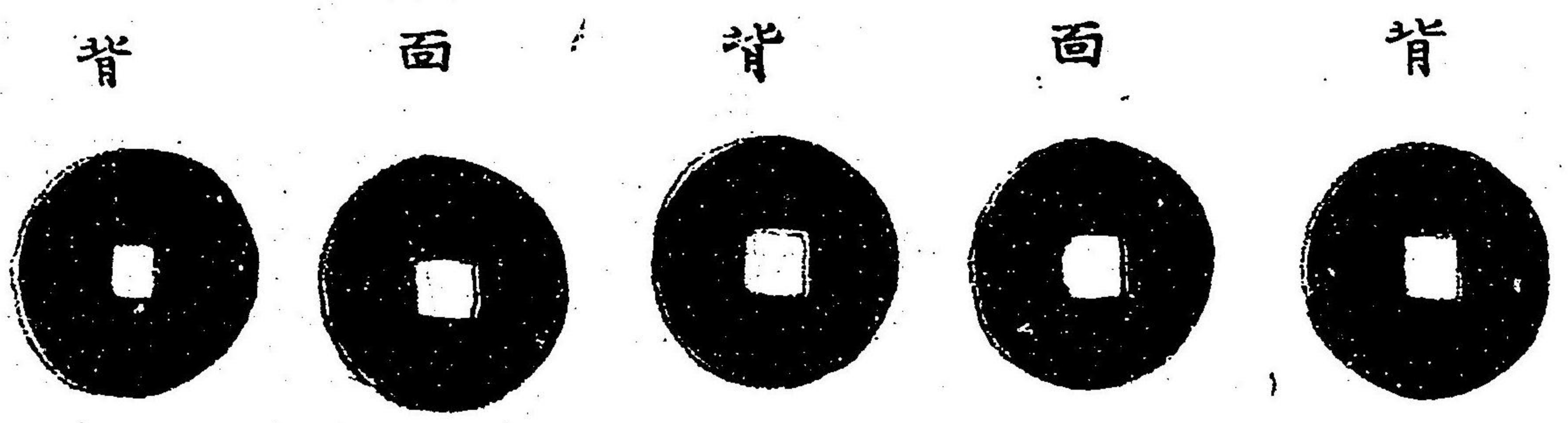
是歲五月寬平大寶錢ヲ鑄拾芥抄○古菅原道

真錢文ヲ書ス泉

銅錢



徑六分強
重七分五厘



徑六分強
重五分

徑六分
重四分

謹按錢ヲ録スル諸書ニ據レハ此錢ハ徑六分五厘重九分又ハ重壹錢壹分ナルニ亦之アリ

醍醐天皇

癸亥

延喜三年私ニ唐物ヲ買フヲ禁ス
是歲八月一日ノ勅ニ曰ク頃年如聞唐人商船來着ノトキ諸院諸宮諸王臣ノ家等官使未タ到ラサルノ前使ヲ遣テ爭ヒ買ヒ又墾内富豪

ノ輩心ニ遠物ヲ愛シテ直タカシヲ踊カレ買易スト茲
ニ因テ貨物ノ價直定准不平ナリ是則チ關司
勤過ヲ慥ニセス府吏檢察ヲ簡畧ニスルノ致
ストコロナリ律ニ曰ク官司未タ交易セサル
ノ前私ニ蕃人ト共ニ交易セハ盜ニ准シテ論
セン罪ハ徒三年令ニ云ク官司未タ交易セサ
ルノ前私ニ諸蕃ト共ニ交易スルヲ得ス人ニ
糾シ獲ラレハ其物ヲ二分ニシテ一分ハ犯人
ヲ賞シ一分ハ没官シ若シ官司所部ニ捉獲タ
ラシハ皆ナ没官セヨト府司須ラク法條ニ因

准シテ其檢校ヲ慎シムヘシ而ルヲ寬縱ニシ
テ行ハス人ヲレテ押侮セシム宜シク更ニ下
知シテ公家未タ交易セサルノ間ハ嚴ニ禁遏
ヲ加ヘテ復々乖キ違フ勿レ若シ猶ホ制ヲ犯
サハ物ヲ没シ罪ヲ科シ曾テ寬宥セサレ類聚
格三代

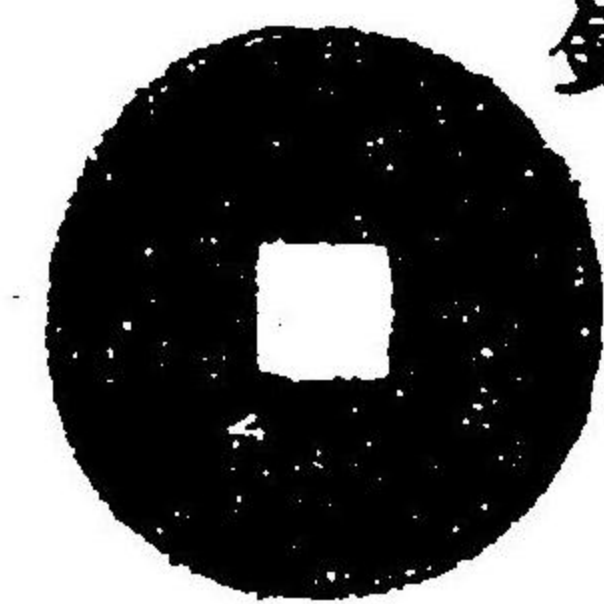
卯丁

七年延喜通寶錢ヲ鑄ル銅錢ナリ
是歲十一月三日丙子寬平大寶錢ヲ改メテ延
喜通寶ト爲シ一ヲ以テ舊ノ十ニ當テ新舊并

行セシム日本此錢本年ヨリ天德元年ニ至ル

抄芥紀畧錢文ハ醍醐天皇ノ宸翰ナリ古錢背文考○泉彙

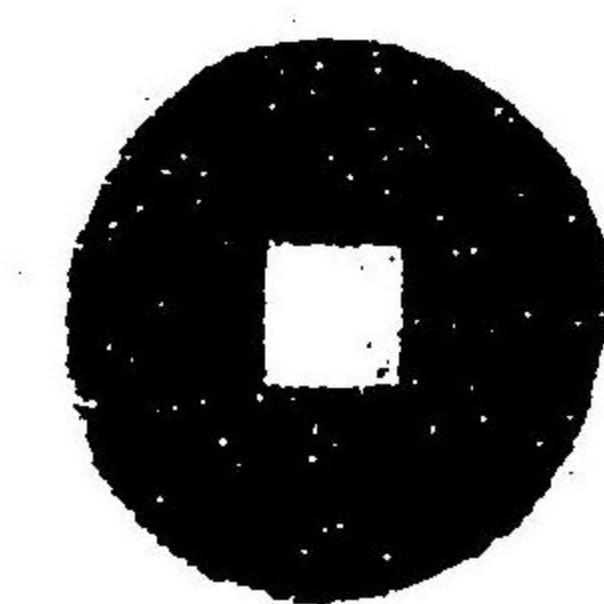
銅錢



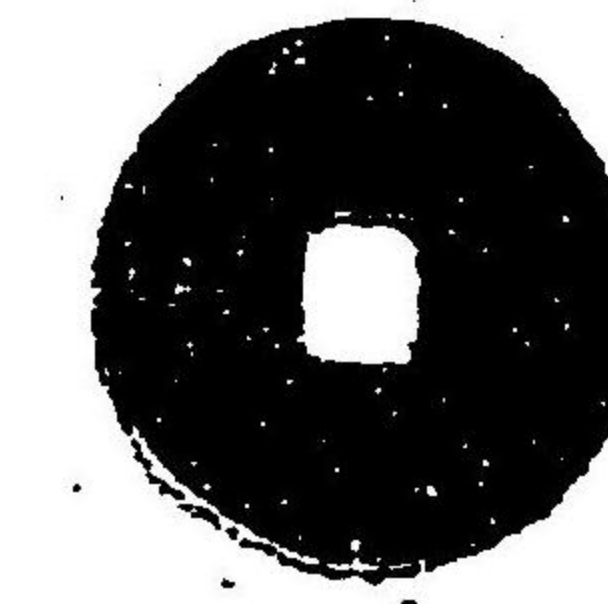
面

重壹分

徑六分

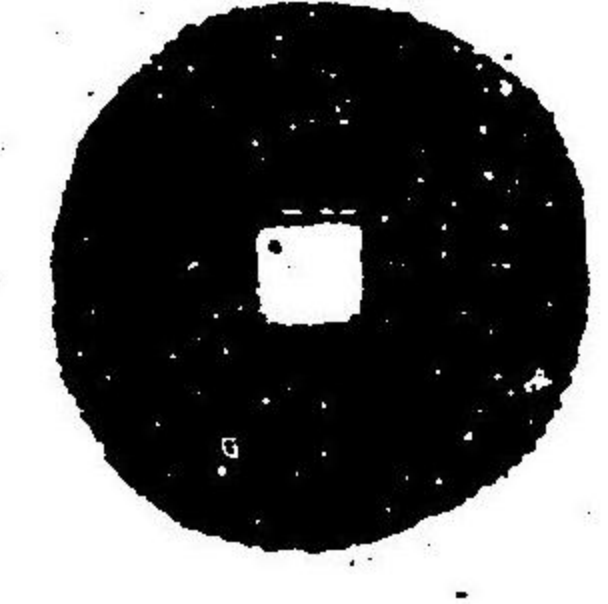


背



面

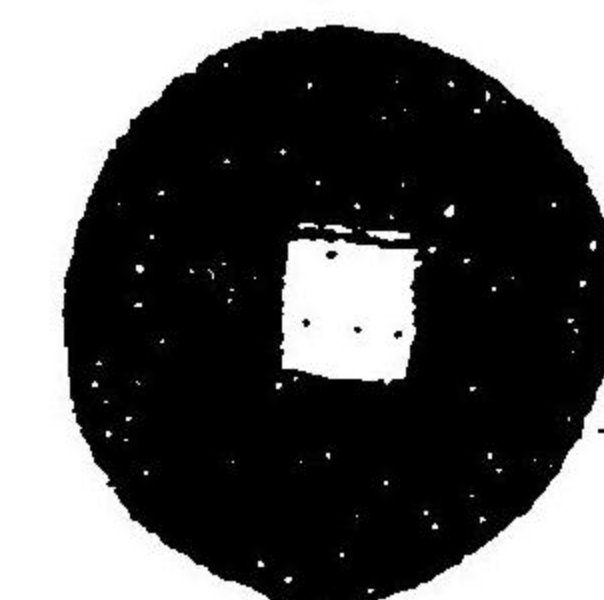
徑六分



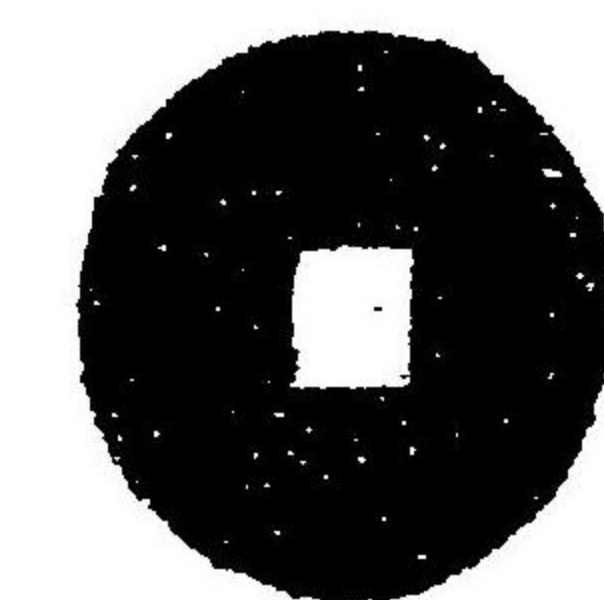
背

重七分

面



背



徑六分
重五分五厘

謹按此時鉛錢ヲモ鑄其錢尚今ニアリト
錢ヲ録スル書ニ云ヘリ

三善清行ノ上疏ニ天下人民三分ノ二ハ
皆ナ禿首者ナリ此レ皆ナ家ニ妻子ヲ蓄
ヘ口ニ腥膻ヲ啖フ形ハ沙門心ハ屠兒其

甚レキモノハ聚テ群盜ヲ為シ窮ニ錢貸
ヲ鑄ル云々トアリ然レハ延喜年間窮ニ
錢ヲ鑄ルノ僧侶アリシト見ユ暴惡亦甚
シ右上疏ハ大日本史ニ見ユ

辰戌

八年新錢ヲ諸寺ニ奉ス

是歲十月十三日新錢ヲ諸寺ニ奉ス日本紀畧

亥丁

延長五年ハ
延喜式ノ成
リシ年ナリ

延長五年延喜式ヲ撰ス
是歲延喜式ヲ撰ス和漢契錢貸ニ關セル條アリ

左ノコトレ

一 式部省ノ條ニ曰ク凡ソ周防國人ハ鑄錢司
ノ官人ニ任スルヲ得ス

一 凡ソ鑄錢司ノ考選文ハ周防國朝集使ニ附
ス

一 民部省ノ條ニ曰ク凡ソ備中長門豐前等ノ
國ノ鑄錢司ニ送ル銅鈔ノ返抄ハ稅帳ニ副
之ヲ進ム

一 主計寮ノ條ニ曰ク凡ソ鑄錢ノ年料ノ銅鈔
ハ備中長門豐前等ノ國ヨリ毎年鑄錢司ニ

採送レ即司ノ返抄ヲ以テ調庸ノ抄帳ニ勘會ス

凡ソ鑄錢司ノ進ムル所ノ年料ノ錢ハ進ムル所ノ數ニ隨ヒ且ツ網丁ニ附レ收文ヲ收メ年終ニ至リ總帳ヲ進メレメ勘會ス訖テ乃チ返抄ヲ與フ

一主稅寮ノ條ニ曰ク備後國ノ正稅二十四萬束鑄錢司ノ俸料二萬八千束周防國ノ正稅二十一萬束鑄錢司ノ俸料二萬八千束凡ソ鑄錢司ノ官人以下任ニ到ルノ日國司

ニ准レ四分一ノ借貸ヲ給ス

凡ソ鑄錢年料ノ銅鉛ハ備中國銅八百斤長門國銅二千五百十六斤十兩二分四銖鉛千五百十六斤拾兩貳分四銖豐前國銅二千五百十六斤拾兩貳分四銖鉛千四百斤每年採送レ即鑄錢司ノ收文ヲ以テ官ニ進メ所司ニ下レ稅帳ニ勘會セシム

凡ソ備中長門豐前等ノ國銅鉛ヲ採ル料ノ稻ハ斤別ニ三束九把六分ニ充ツ
一刑部省ノ條ニ曰ク凡ソ私鑄錢ハ其作具并

錢銅等ノ物皆ナ没官ス

一大藏省ノ條ニ曰ク凡ソ鑄錢司ヨリ貢スル

所ノ錢文字明カナラサルモ體勢ヲ失ハス

行用ヲ妨ケサルハ擇ヒ棄ル莫_レ式_{延喜}

朱雀天皇

庚子

天慶三年賊周防ノ鑄錢司ヲ焚ク

是歲十月二十二日甲寅藤原純友太宰府ヲ陷

ル十一月七日戊辰純友周防ノ鑄錢司ヲ焚ク

日本
紀畧

村上天皇

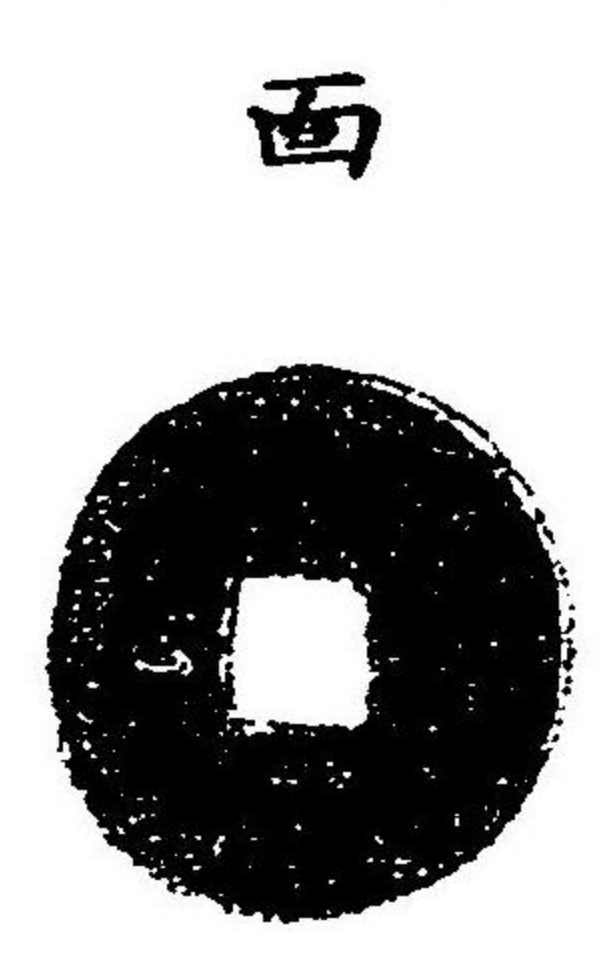
戊午

天德二年乾元大寶錢ヲ鑄ル銅錢ナリ

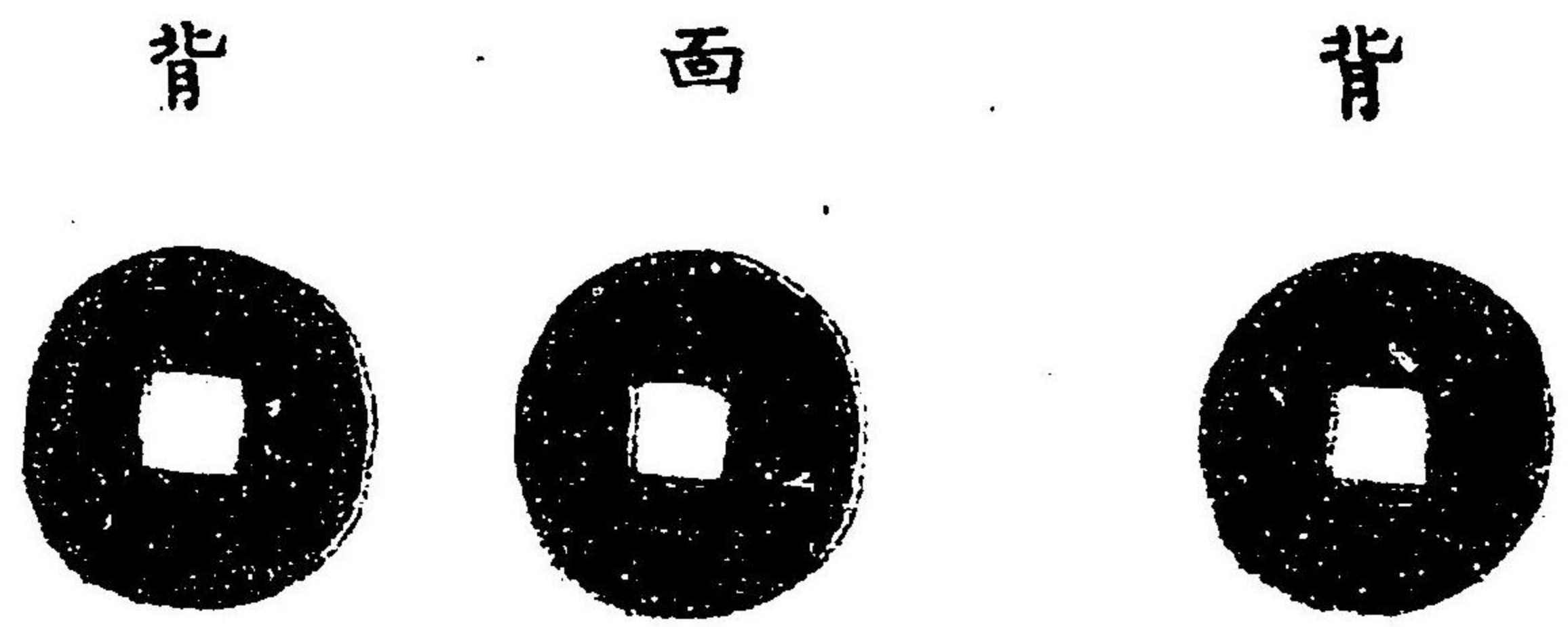
是歲三月二十五日延喜通寶ヲ改メテ乾元大

寶ト爲ス新錢ノ文ハ阿保懷之ノ書ナリ<sub>日本
紀畧</sub>

銅錢



徑六分
重七分



徑六分
重五分

謹按九曆天德二年三月二十八日ノ條ヲ
見レハ是トキ鈔錢ヲモ造ラレタルナリ
是ヨリ以來天正年中ニ至ルマテ凡ソ六

百年間鑄錢ノ有無定カナラス但 後醍
醐天皇ノトキ乾坤通寶錢ヲ鑄タマフコ
ト史ニ見ユレトモ其錢形ヲモ見ルヲ得
ス而シテ斯ル六百年ノ永キ時間行用セ
ル錢ハ大抵本朝ノ古錢并漢土ヨリ來リ
タル錢ナレハ其來リタル錢數ノ夥多ナ
ルコト想見ルヘシ間或ハ本朝ニ於テ漢
土ノ錢ニ似セタルモノヲ私鑄シタルモ
ノモアリシナラン抑乾元大寶錢以來錢
貨ニ關係セル事情右ノ如クナレハ先ツ

茲ニ和同錢ヨリ乾元大寶錢マテノ因革ヲ述ン蓋シ和同錢ヨリ以前ハ其因革ヲ詳ニス可ラサレハ姑ラク和同錢ヲ始メトスルニ其次ハ萬年通寶錢ニテ舊錢ノ和同錢十文ヲ新錢ノ壹文ニ當テ通行セシメタマヒシナレハ即チ新舊九文ノ差アルナリ其萬年通寶ハ神功開寶錢ヲ鑄タマフニ及ンテ并行シタルト見ユレトモ前文ノコトク新舊錢價ノ差アルニヨリ物情擾亂シケレハ新舊ノ錢皆ナ價ヲ同

フシテ行ハシメタマフコトニナリタリ其後隆平永寶錢ヲ鑄タマフニ及ンテ又新錢ノ壹文ヲ舊錢ノ十文ニ當ツ但シ舊錢ハ四年ヲ限リ通用ヲ停メタマヒシナリ其後富壽神寶錢ヲ鑄タマフトキハ新舊ノ差ノ有無明カナラス兼和昌寶錢ヲ鑄タマフニ及ンテ又新錢ノ壹文ヲ舊錢ノ拾文ニ當ツ其後長年大寶錢ヲ鑄タマフニ及ンテ又新錢ノ壹文ヲ舊錢ノ十ニ當ツ其後饒益神寶錢ヲ鑄タマフニ及ンテ

又新ノ一ヲ舊ノ十ニ當ツ其後貞觀永寶
錢ヲ鑄タマフニ及ンテ又新ノ一ヲ舊ノ
十ニ當ツ其後寬平大寶錢ヲ鑄タマフト
キハ其差ノ有無詳カナラス其後延喜通
寶錢ヲ鑄タマフニ至テ又新ノ一ヲ舊ノ
十ニ當ツ其後乾元大寶錢ヲ鑄タマフト
キハ其差ノ有無詳カナラス但レ此大寶
錢ハ康保二年ニ及ンテ此錢ヲノミ通行
シ舊錢ヲ廢シタマフト見ユサテ錢價ノ
因革右ノコトクナレハ大抵新錢ヲ鑄タ

マフトキハ其一ヲ舊錢ノ十ニ當テタマ
フナリ和同錢ヨリ乾元大寶錢マテノ因
革大畧此ノコトシ

未己

三年新錢ヲ頒賜ス○新錢ヲ諸社ニ奉ス
是歲四月五日新錢ヲ親王以下諸官人ニ賜フ
日本 紀畧 ○同月七日新錢ヲ諸社諸寺ニ奉シ同月
十七日新錢ヲ伊勢大神宮ニ奉ス日本 紀畧

丑乙

康保二年舊錢ヲ停メ新錢ヲ用フ

是歲三月舊錢ヲ停メ新錢ヲ用フ是レハ前ニ
應和三年七月公卿舊錢ノ并行ヲ停メ新錢ヲ
用ント請フニヨリ之ヲ聽セルナリ禁秘抄

謹按舊錢ヲ停メ新錢ヲ行ハシメタマフ
トアレハ新舊ノ間ニ不便ナルコトアリ
シナルヘシ恐クハ亦其價值ニ差アリシ
ナラム新錢トハ乾元大寶ノコトナルヘ
シ

大日本傳
大正

未癸

圓融天皇

永觀元年大赦

是歲大赦但私鑄錢ハ赦限ニアラス續本朝通鑑

一條天皇

亥丁

永延元年加茂禰宜賀茂在實古錢ヲ獻ス○錢貨
ヲ用ユルコトヲ制止ス

是歲三月十六日戊寅賀茂上社禰宜賀茂在實
社頭鳥居ノ側ニ於テ古錢七百八十二文ヲ掘

リ得テ之ヲ獻ス其文三アリ和同開珍ト曰ヒ
萬年通寶ト曰ヒ神功開寶ト曰フ因テ神祇官
陰陽寮ヲシテ通用スヘキヤ否ノコトヲ占ト

セシム日本紀畧 ○十一月二日錢貸ヲ用ユル

コトヲ制止ス扶桑畧記 ○百練抄

謹按日本紀畧永觀年中ノ條ニ錢嫌尤甚
トアリ又破錢ヲ嫌フトアリ儲本文ノ錢
貸ノコトハ錢ヲモチユルヲ禁シタマヒ
シナリ然ニ佛事ニハ錢ヲ用ユヘシト時
ノ諸卿ノ上申アリ佛毒ニ醉ル甚シ

申庚

後一條天皇
寬仁四年大赦

是歲四月二十二日大赦大辟以下罪輕重トナ
ク悉ク赦除ス但私鑄錢ハ此限ニアラス類聚
抄

酉辛

治安元年大赦

是歲二月二日大赦大辟以下罪輕重トナク咸
皆ナ赦ス但私鑄錢ハ此限ニアラス日本紀畧

戊壬

二年大赦

是歲七月十四日大赦大辟以下罪輕重トナク

私鑄錢モ咸皆ナ赦ス日本紀畧

丑丁

長曆元年攝津ヨリ銅ヲ貢ス○貢銅ヲ七社ニ奉獻ス

是歲四月十三日乙卯攝津能勢郡ヨリ銅ヲ貢

ス大日本史○八月三日幣ヲ七社ニ奉シ攝津國ノ

貢銅ヲ奉獻ス扶桑畧記

寅庚

後冷泉天皇

永義五年勅シテ泰山府君ヲ祭り銀錢ヲ供ス

是歲十月十八日勅シテ泰山府君ヲ祭り銀錢

二百四十貫文并其他ノ物若干ヲ以テ奠供ト

為ス朝野群載

謹按永久二年泰山府君ヲ祭ル文ニモ亦

銀錢ノコトアリ蓋シ恐クハ擬錢ナラン

然レトモ先輩錢ヲ録スルモノ或ハ之ヲ

米リ以テ當時銀錢アリトス因テ姑ク記

シテ後考ヲ埃ツ

堀河天皇

嘉承二年大赦

是歲大赦、但私鑄錢ハ赦限ニアラス續本朝通鑑

支丁

近衛天皇

仁平元年大赦

未辛

是歲大赦、私鑄錢ハ赦限ニアラス續本朝通鑑

高倉天皇

兼安三年沙金ヲ宋ニ贈ル

是歲先是宋國ヨリ書并信物ヲ奉ス、廷議其書

辭ノ無禮ナルヲ以テ空シク却クヘシトイフ

後白河法皇聽カス、是歲ニ至テ書オヨビ捺革

三十張沙金壹百兩ヲ宋國ニ送り之ニ報ス大日本

史本

巳癸

未乙

安元元年大赦

是歳大赦私鑄錢ハ赦限ニアラス續本朝通鑑

治養元年大赦

是歳大赦私鑄錢ハ此限ニアラス續本朝通鑑

酉丁

戌戊

二年平重盛砂金千兩南籙百ヲ祈禱料ニ奉ス○
重盛金錢ヲ皇子ニ獻ス

是歳十一月十二日重盛砂金千兩南籙百ヲ祈
禱料トス源平盛衰記○同日皇子降誕重盛金錢九

拾九文ヲ皇子ニ獻ス平家物語

謹按平家物語ニ煖遼其異本ニ軟丁東鑑

ニ南廷砂石集ニ軟挺明月記ニ南良トア

ルハ皆同シク南籙ノコトニテ是ハ中古

長キ時間沙金ト共ニ獻貢賞賜等ニ用ヒ

シモノナリサテ本文ノ金錢ハ恐ラク通

賃ニアラスレテ擬錢ナルヘシト思ハル

レトモ先輩錢ヲ録スルモノ之ヲ采リ當

時金錢アリトス因テ姑ラク之ヲ記ス抑

貨幣ノ因革ヲ見シニハ其賃アレハ隨テ

其事ヲ揭明セサルヲ得ス故ニ南鐔ト稱
 スルモノアレハ則其例ヲ登紀ス而シテ
 此南鐔ト稱スルモノハ丁銀ノ類ナリト
 聞ケトモ如何ナル形制ナルカ知ルヘカ
 ラス前キニ古南鐔ト稱スル銀貨數種ヲ
 見タレトモ蓋シ是ヨリ遙カ後ノ世ノモ
 ノト思ハルナリ

後鳥羽天皇

癸丑

建久四年宋錢ヲ停ム

是歲七月四日ノ宣旨ニイハク自今以後永ク

宋朝ノ錢貨ヲ停止ス法曹至要抄

謹按本朝ノ錢寬平通寶以下延喜通寶乾

元大寶等次第ニ惡クナリタリ然ルニ漢

土ノ錢多ク來リ其錢本朝ノ錢ニ比スレ

ハ更ニ善キユヘ人民彼錢ヲ貴ヒ我錢ヲ

賤ムニヨリテ右宋錢ヲ停ムトノ宣旨ア

リシナルヘシ而シテ斯ク銅錢ハ次第ニ

惡クナリシガ銅佛ヲ造ルコトハ次第ニ

盛ニナリテ 白河天皇ノ時 天皇ノ鑄造シママヒタル銅佛大小三千以上ニ及ヒタリトノコト農政本論ニ見ユ

後堀河天皇

成丙

嘉祿二年準布ヲ停メ銅錢ヲ行フ

是歲八月一日甲申令レテ準布ヲ停メ銅錢ヲ

用ヒシム 東鑑脱漏 ○ 大日本史

寅庚

寛喜二年米價ヲ定ム

未己

四條天皇

是歲六月二十四日米價ヲ定メテ一斛ヲ錢壹貫文ト爲ス 百練抄 ○ 大日本史

嘉禎元年鎌倉ニ於テ銅錢ヲ以テ洪鐘ヲ鑄ル

是歲六月二十九日庚寅銅錢三十貫餘ヲ加ヘ

テ洪鐘ヲ改鑄ス是レハ同月中銅錢三百貫文

ヲ以テ之レヲ鑄テ成ラス因テ改鑄シタルナ

東鑑

後深草天皇

酉己

建長元年沽價法ヲ定ム

是歲十月八日沽價法ヲ定ム

大日本史

寅甲

六年雜物ノ價ヲ定ム

是歲十月十一日令レテ炭壹駄代百文ト定ム

東鑑

龜山天皇

亥癸

弘長三年切錢ヲ用ルヲ禁ス

是歲九月十日令シテ曰ク切錢ノコト近來多

クアリ今ヨリ以後之ヲ停止ス

東鑑○大日本史

謹按青木敦書ノ說ニ是ハ銅ヲ薄ク長ク

鑄造シ之ヲ切テ錢トシ以テ通用セシナ

ルハレトイヘリ然リト雖トモ蓋シ切錢

トハ猶破錢ト云フガコトク輪廓坎欽文

字不明ノ錢ノコトヲ云フナルヘリ然レ

ハ當時通用ノ錢薄惡ナルモノ多シト見

ユ

元ノ至元十
四年ニ當ル

丑丁

後宇多天皇

建治三年商人ヲ元ニ遣シ金ヲ持シ銅錢ニ易ヘ

シ山

是歳商人ヲ元ニ遣シ金ヲ持シ銅錢ニ易ヘシ

元之ヲ許ス善隣國寶記
東鑑末

謹按此トキ黄金ヲ元ニ贈リ銅錢ニ易ヘ

シメ足利義満亦黄金ヲ明ニ贈リ而シテ

義満ノトキ明ヨリ銅錢ヲ我ニ贈リ義教

ノトキ又明ヨリ銅錢ヲ贈リ義政三回銅

錢ヲ明ニ求ム斯ク多ク銅錢ヲ要需シタ

ルニ昔ヨリ長キ時代金銀ノ外國ニ輸出
セシコトノ多キハ人ノ議スルトコロナ
リ然リト雖トモ本朝往古金銀ノ貴重タ
ルヲ知リ之ヲ通行シタルノ方法ハ大抵
僅カニ之ガ斤兩ヲ秤リ寶貨ノ定形ヲ為
ニ及バズシテ用ヒレナリ間金錢銀錢等
ト爲シテ用ヒレコトアレトモ其數恐ク
ハ寥寥蓋シ往古金銀ノ用多クハ佛具玩
器又ハ馬鞍甲冑刀劍衣服等ノ飾ニ供シ
又ハ賞牌ノコトク有功ノ人ニ與ヘ又ハ

外國交際ノ儀物トナレ而シテ民間一般
 ニ普通流用セシトコロノ通貨ハ銅錢ニ
 テ殆ント其用足りシナリ何トナレハ僅
 ヲノ銅錢ニテ人民ノ日用必需ニ應レ得
 シユヘナリ然ルニ後世ニ至リ銅錢ニテ
 其用足ラサルヨリ金銀ヲ多ク通貨ニ造
 リテ銅錢ヲ助クルニ及ヒタリ而シテ是
 レハ多ク天正ノ前後ヨリ諸大名ノ國々
 ニ於テ之ヲ造リシナリ且ツ右天正ノコ
 ロヨリ寛永年間洋教禁制ノ擧アルニ至

ルマテハ洋船ノ我ニ來ル甚々多ク何レ
 ノ海口モ之ヲ禁スルコトナク我大名豪
 商所有船隻ノ海外ニ往クコトモ甚々多
 ケレハ其勢亦銅錢ノミニテ其用足ラサ
 ルカタメ金銀貨ノ用益多キニ至リシナ
 ルヤレ然レトモ尚金銀銅ノ價位モ廣ク
 之ヲ内外ニ規ラサリレユヘ大ヒニ其宜
 ヲ失ヒタリ然レハ金銀ノ外國ニ輸出ス
 ルヲ議スル人ハ亦本朝古來ノ事ヲモ考
 究スルヲ要ス

成甲

後醍醐天皇

建武元年乾坤通寶錢ヲ鑄ル銅錢ナリ

是歲二月二十八日丙戌詔シテ曰ク國家ノ錢

アル尚シ天平寶字ヨリ天徳ニ至ルマテ改鑄

十次然ルニ近古外境ノ貸民間ニ濫布セレヨ

リ國錢行ハレス甚タ彝典ニ違フ因テ今新タ

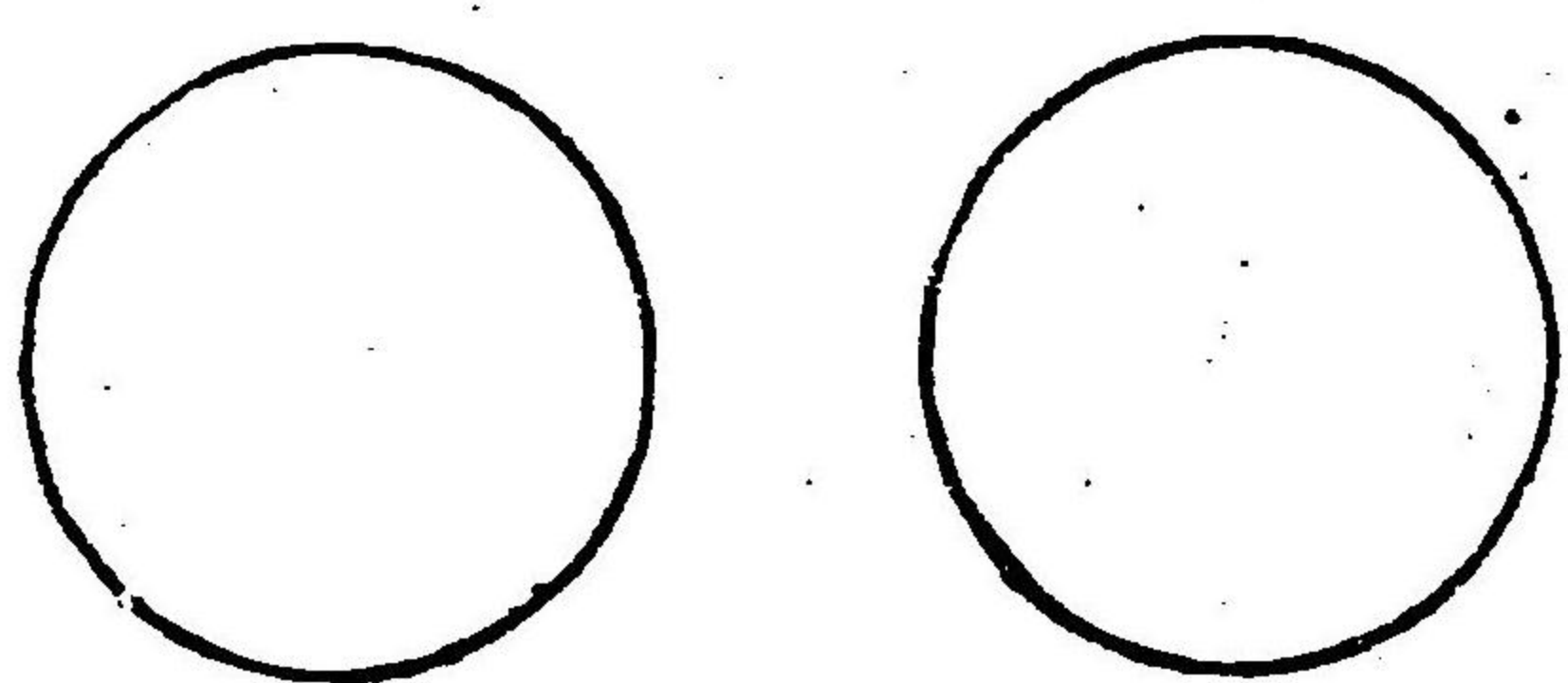
ニ官鑄ヲ命シ以テ用ヲ濟ヒ民ニ便ニセント

ス其文ヲ乾坤通寶トイフ銅楮并用シテ交易

滯ル勿_レ武_{大日本史}○_{但原註ニ建}

武二年記ヲ引クトアリ

銅錢



謹按此 詔ニ據テ見レハ當時通行ノ錢

ハ前ニモイフコトク大抵外國ノ品ナル

ユヘ新タニ錢ヲ鑄タマヒシナルヘシ然

レトモ乾坤通寶錢ハ何様ナル錢ナルヤ

其形制知ルヘカラス其時世ヲ察スルニ
蓋シ建武中興泰平ノ日甚ク少ナケレハ
錢ヲ鑄ルノ暇亦少ナク隨テ其鑄タル所
ノ錢數モ亦多カラスシテ止ミシユヘ令
其形ヲモ見ル能ハサルナラン然レトモ
他日之ヲ獲ルモ計リカタケレハ空圈ヲ
設ク

後小松天皇

巳辛

未癸

應永八年足利義滿黃金ヲ明ニ贈ル

是歲五月十三日義滿書ヲ明主ニ投シ黃金千

兩及ヒ其他ノ物ヲ贈ル善隣國寶記○康
富記○室町記畧

十年唐船錢ヲ積ミ相摸ニ漂着ス因テ其錢ヲ取
リ之ヲ行フ

是歲唐船相摸三浦ニ漂着シ船中多ク唐錢ヲ
積ム足利滿兼之ヲ取リ世ニ行フ國家金銀錢
譜○但原註

武家盛衰記
ヲ引クトアリ

謹按永樂錢ハ他國ノ錢ナレトモ其錢ノ

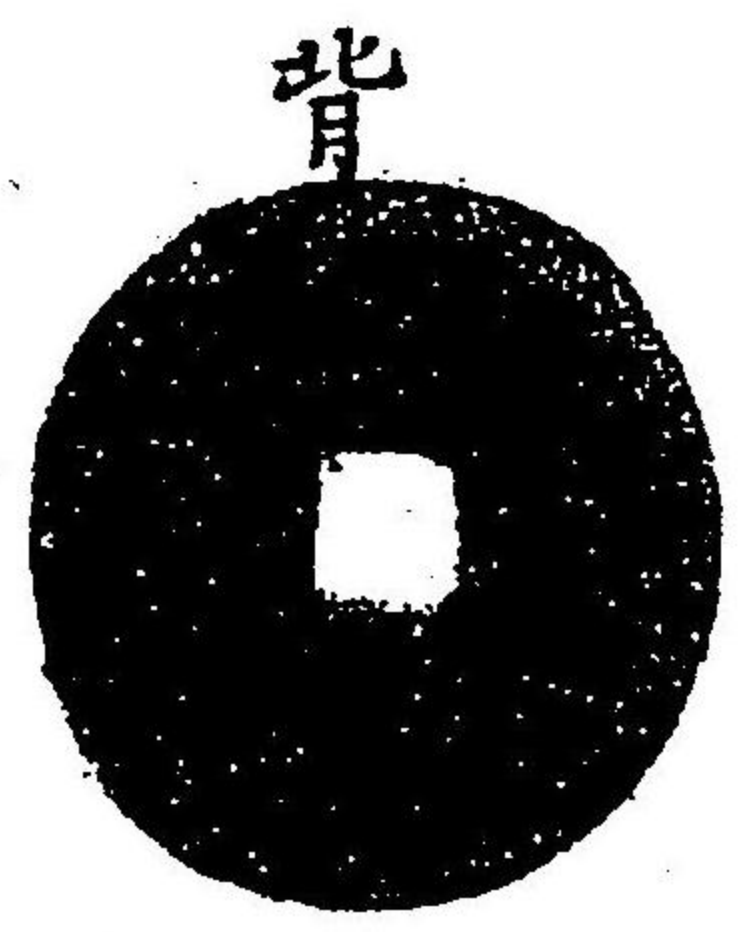
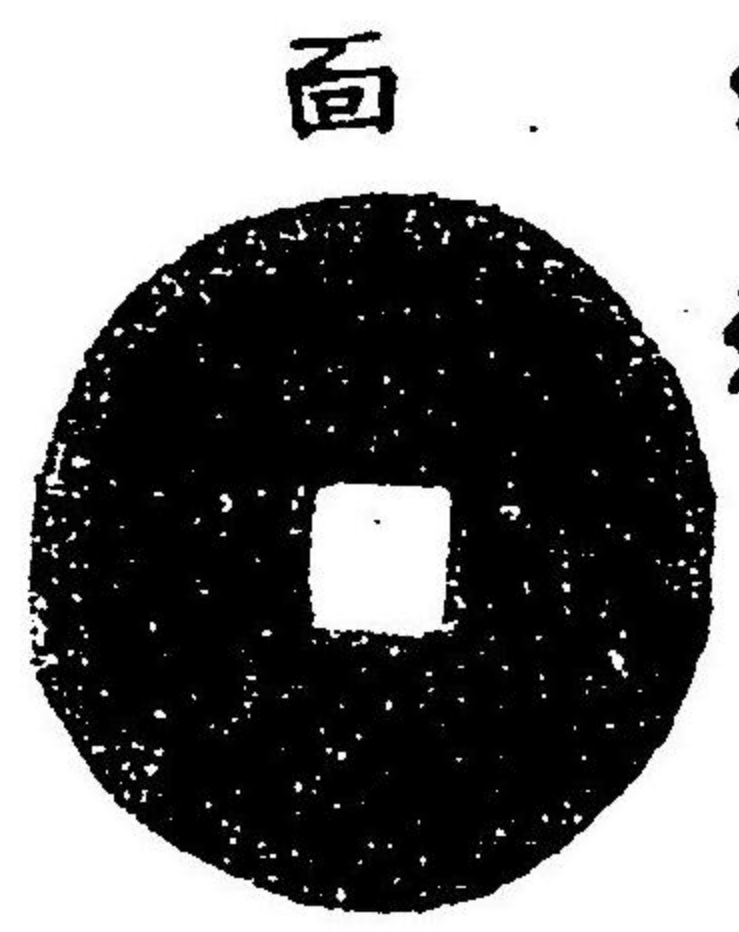
善ナルガタメ長キトキノ間本朝ノ錢ノ
コトク用ヒ遂ニ永高永勘定トイフコト
起リ金銀田賦トモ此錢ヲ準則トシテ價
直ヲ立ルニ至レリ因テ今此錢ノコトヲ
記セント欲シ數書ヲ繕トクニ大抵此唐
船ニ積ミ來リタル錢ヲ永樂錢トス然レ
トモ應永十年ハ永樂元年ニ當リタルニ
彼ノ書ヲ見レハ永樂錢ハ永樂九年ニ於
テ之ヲ鑄ルトアリ然レハ是歲永樂錢ノ
アルヘキヤウナレ故ニ今此史ニ於テハ

只唐錢トノミ之ヲ記ス錢數モ亦數書不
同ナレハ只多トノミ之ヲ記ス然レトモ
數書ニイフ所ヲ見及ヒ滿兼ノ處置ヲ察
スルニ其錢數ノ莫大ナルコト明カナリ
サテ又寛正中義政ヨリ明主ニ送ル書
ヲ見ルニ永樂年間多給銅錢トイフコト
ヲ載セタリ然レハ永樂二十二個年ノ間
ニ唐錢多ク來リシナリ故ニ亦其間ニ永
樂錢モ來リシナルヘシ或ハイフ應永十
年ハ二十年ノ二字ヲ脱シタル訛ナリト

此說ノ當否ハ知ル可ラサレトモ前ニモ
イフコトク永樂年中即應永年間其錢既
ニ來リシナルヘレ因テ今見聞スル所ニ
據テ永樂錢本朝ニ通行セル時代ノ事情
ヲ茲ニ槩說セン蓋シ初メ此錢ノ多ク本
朝ニ通行セシハ關東ニテ即關東人民皆
永樂錢ヲ好ミ用ルコトニナリタリシガ
其後關東數州北條カ封地ニテアリシコ
ロ鑄ト稱スルトコロノ錢ヲ永樂錢ト同
價ニ通用セシユヘ之ヲ嫌フモノ多ク爭

論絶ハサレハ氏康ノ云ビケルニ錢ハ諸
種アレトモ永樂錢ニ及フモノナレ自今
以後關東ニテハ永樂錢ヲ用ヒ他錢ヲ廢
セン是一ニハ錢ノ善惡同日ノ論ニアラ
サルカタメニハ人民ノ爭論ヲ止メン
カタメ三ニハ賣買ノ暇ヲ費ヤサ、ラン
カタメナリ云々ト乃チ其旨ヲ高札ニ書
テ令シタリ因テ關東數州皆ナ永樂錢ヲ
ノミ用ヒ鑄ヲハ選ヒ棄テシカハ鑄ハ次
第二其用ノ廢セシニヨリ京畿ノ方ニ遷

銅錢



直徑八分

謹按永樂通寶大小輕重種々不同アレト
モ徑八分重壹錢内外ノモノヲ善品トナ
スト聞ク

寅甲

後花園天皇

永享六年明ヨリ銅錢ヲ贈ル

是歲六月明主使ヲ遣シ來テ銅錢三十萬貫ヲ

贈ル續皇朝史畧○但レ原註ニ薩
戒記者聞御記ヲ引クトアリ

未辛

寶徳三年琉球人錢ヲ贈ル

是歲七月琉球人錢一千貫ヲ贈ル足利義政之

ヲ獻ス異稱日
本傳

申甲

寛正五年義政書ヲ明ニ送り銅錢ヲ求ム
是歳義政書ヲ明主ニ送り曰ク永樂年間多ク
銅錢ヲ給サレシガ近來此コトナレ故ニ公庫
索然何ヲ以テ民ヲ利セン欽レテ急ニ周スル
ヲ待ツ善隣國
實記

後土御門天皇

未乙

文明七年義政書ヲ明ニ送り銅錢ヲ求ム
是歳義政書ヲ明ニ送り銅錢及ヒ典籍ヲ求ム

戊戌

其書ニイハク銅錢散失公庫索然土瘠ヒ民貧
レ永樂年間此賜ノ多キヲ記ス今須ムル所ハ
此物ヲ急トス善隣國
實記

十年明ヨリ銅錢ヲ贈ル

是歳明ヨリ文明七年ノ求ヲニ應レ銅錢五萬
文ヲ我ニ贈ル近藤寺
重筆記

卯癸

十五年義政銅錢ヲ明ニ求ム

是歳三月義政書ヲ明主ニ送り曰ク久シク焚

蕩ノ餘ヲ兼テ銅錢地ヲ掃テ盡キ官庫空虛何
 ヲ以テ民ヲ利スルヲ得ン今求ムル所ハ此ニ
 アリ錢拾萬貫ヲ得テ所求ニ充ルトキハ賜モ
 ノユレヨリ大ナルハナシ之ヲ願フ善隣國
實記
 謹按足利氏ノ錢ヲ明ニ求ムルマ彼レニ
 佞スルノ甚シキ其贈リタル書中彼レニ
 對シテ彼ノ年號ヲ掲ケ臣某ト記スルニ
 至ル本朝ヲ辱カシムルノ罪實ニ辭スハ
 カラス然リト雖トモ借錢ハ元ト借錢セ
 サルタメノ工夫ナリトイフ語アレハ足

利氏縱ニ錢ヲ求ムトモ世ヲ益シ民ヲ利
 シ融通ノ道ノ梗塞セルヲ開カンタメノ
 意ニテ能ク其方法ヲ立テ之ヲ用ヒ以テ
 一時止ムヲ得サルノ權道ニ出ラシナラハ
 其罪猶或ハ減降スヘシ然ルニ其所行ヲ
 考フレハ然ラス益驕奢ヲ極メ淫逸ヲ縱
 ニシ曾テ世ヲ益シ民ヲ利セルノコトナ
 ケレハ畢竟罪ニ罪ヲ重キタルノミトイ
 フバシ

申庚

明應九年錢ヲ選フヲ禁ス

是歳九月十日令シテ云ク近年恣ニ錢ヲ選フ

是レ甚タ然ルヘカラス若シ此令ニ違背スル

モノアラハ嚴科ニ配セン建武以來式目追加

後柏原天皇

取戊

永正五年惡錢ヲ禁シ及ヒ錢ヲ選フヲ禁ス

是歳八月七日令アリ其令條一ニ云ク惡錢ヲ

賣買スルヲ許サス其二ニ云ク錢ヲ選フコト

近年先規ニ超ユ世ノタメ人ノタメ戒メサル
ヘカラス古今ノ渡唐錢皆ナ通用スヘシ建武以來式目追加

謹按此時代通用ノ錢ハ大抵唐錢ナルハ

ケレハ惡錢トハ蓋シ唐錢ノ文字全タカ

ラサルモノ又ハ破壊セシモノ又ハ本朝

ニテ鑄タル薄惡ノ錢等ナルヘシ泉貨鑑

ニイフ山名氏京師ヘ亂入セシ時京師ニ

テ銅佛ヲ毀チ錢ヲ鑄タリト是亦或ハ惡

錢ナランサテ古今渡唐錢皆通用スヘシ

トイラハ渡唐錢種々不同アレトモ善ナルモノハ皆通用スヘントノコトナルヘシ
永正元年會津ニテ通用ノ錢ハ大觀通寶ナルコト會津四家合考ニアリ又天文二十四年甲斐ニテ錢南京トイフコト行ハレシコト甲斐妙法寺日録ニアリト近藤守重筆記ニ云ヘリ其說ニ錢南京トハ永樂錢流行ノコトナリト唐錢ヲ多ク用ヒタルコト想ヒ見ルベシ

西乙

正親町天皇

天正十三年豐臣氏金五千枚銀三萬枚ヲ大名小名ニ與フ

是歲秋初豐臣氏金五千枚銀三萬枚ヲ大名小名ニ與フ大閣記

謹按豐臣家譜ニハ之ヲ天正十七年五月ト記シ其金數ヲ金銀三十六萬五千兩ト載ス故ニ論者或ハ之ヲ兩回アリシ事ト

是レ然ルヤ否ヤ姑ラク之ヲ置ク借大
 判小判ヲ造ルハ天正十六年ト云ヒ傳フ
 ルニ茲ニ金銀幾枚トアルユハ寶貨事略
 ニモ天正十六年前既ニ大判丁銀等アリ
 シトイヘリ蓋シ織田氏ノトキヲ大判ノ
 始メトスバシ抑古ヨリ金銀ノコト史書
 ニ往々見ユレトモ天正年中ニ至ルマテ
 ハ遂ニ金銀貨ノ形制及因革ヲ詳知スヘ
 カラス然レハ天正以來ノコトヨリレテ
 其因革并形制ヲ論スヘシ

後陽成天皇

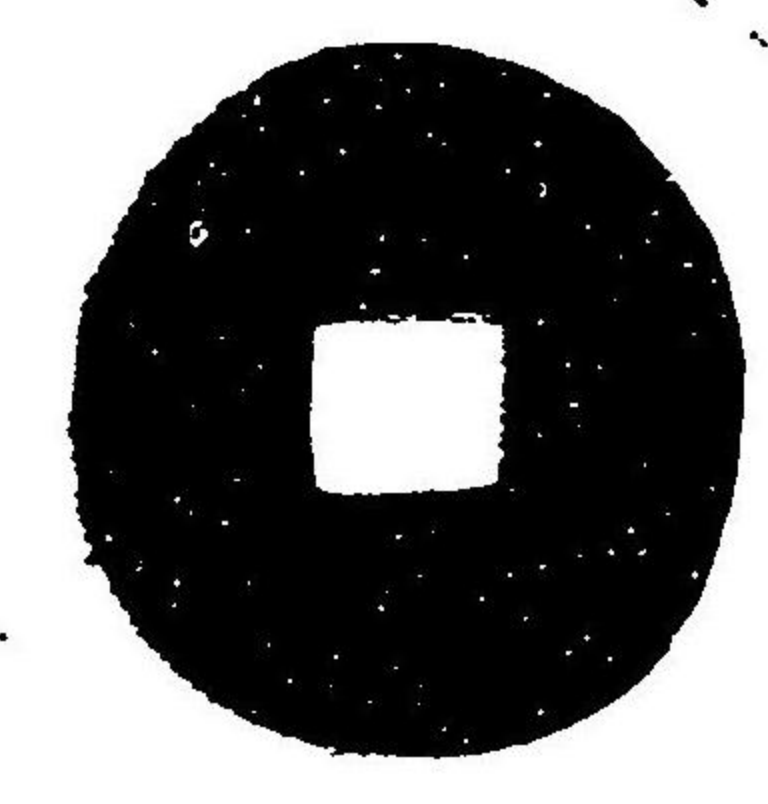
丁支

天正十五年天正通寶錢ヲ鑄ル銀錢及ヒ銅錢ナ

是歲天正通寶ノ銀錢及ヒ銅錢ヲ鑄ル泉彙○

銀錢

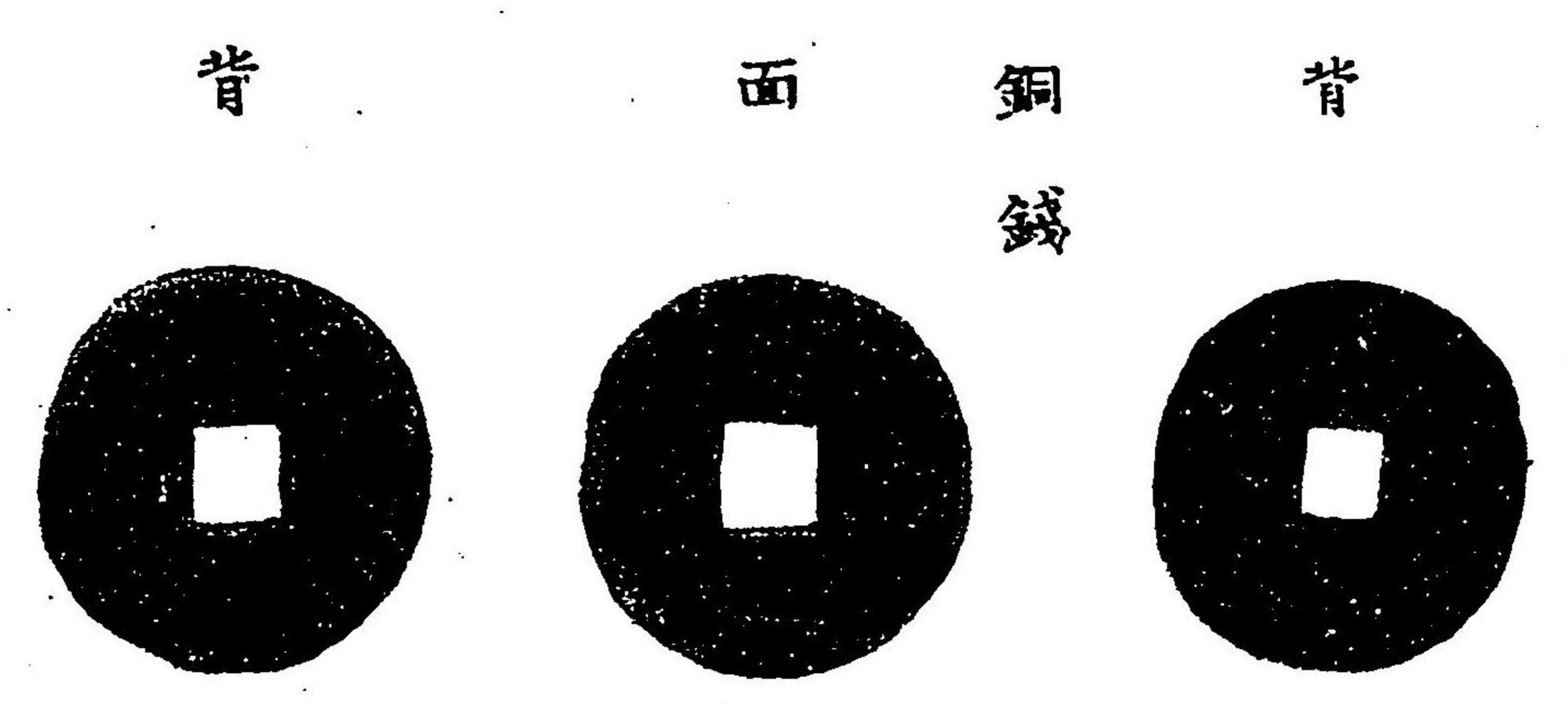
面



徑七分五厘強
重壹分八厘強

大坂府人塚喜藏
所藏ノ品ナリ

大日本貨幣史



徑八分
重八分五厘

謹按昆陽漫錄ニ天正慶長ノ間ニ關東ノ
人民鉛錢ヲ鑄テ用ヒタルモノアリトイ

ノ之ニ據レハ此時代ニ鉛錢モアリシト
見ユ

大日本貨幣史卷三終

大日本貨幣史 卷三 三十三

九日亦復常史

九日亦復常史

大日本貨幣史

四

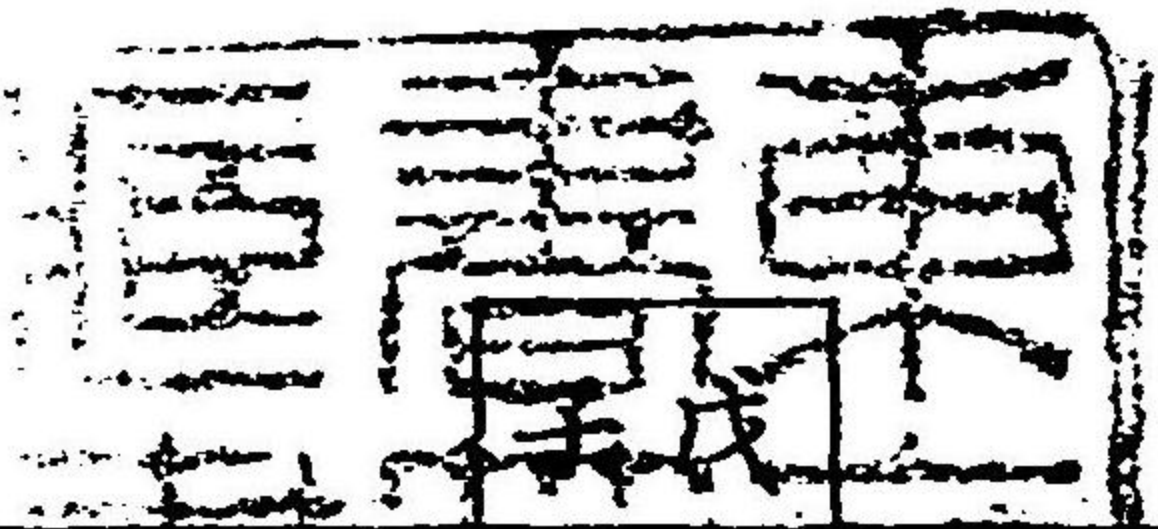
206
40

東泉園書					
四冊	一七号	六架	一函	屬	類

明治九年刊行

大日本貨幣史

大藏省



大日本貨幣史卷四

三貨部

紙幣寮御雇吉田賢輔纂述

後陽成天皇

十六年大判金并小判金ヲ造ル



大判金貨并小判金貨ヲ造ル但シ是ヨリ

前大判及ヒ丁銀既ニ之アリ實貨事畧

謹按是歳ニ鑄造シタル大小判金ハ何レ

ノ品ナルヤ確説ナシ蓋シ天正ノ頃始テ

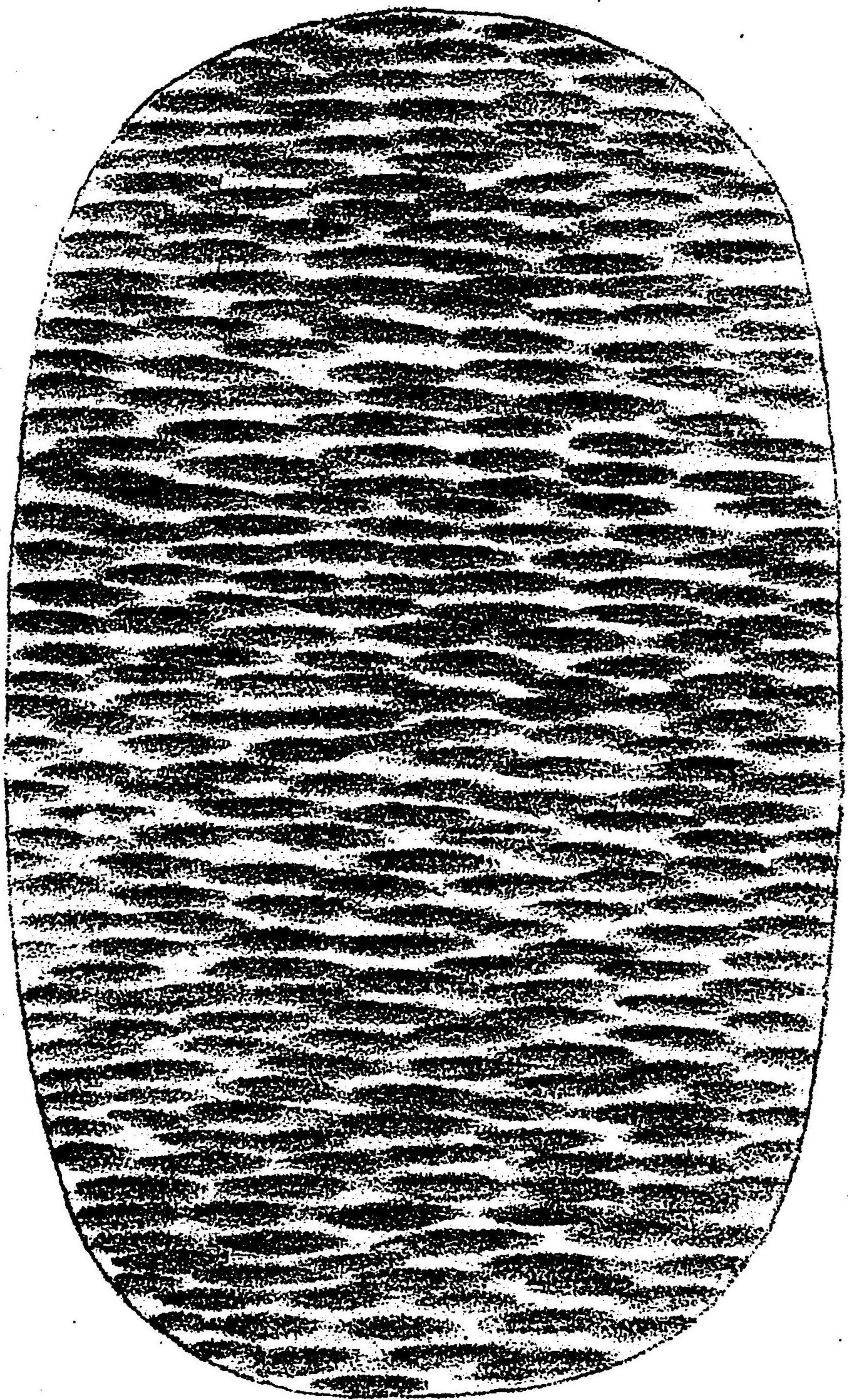
大判金小判金ヲ造リ文祿年中武藏墨判
小判金駿河墨判小判金ヲ造リ慶長年中
始テ壹分判金ヲ造ル是レ近世貸制ノ由
テ基ツクトコロナリ意フニ天正ノ頃ヨ
リ各種各形ノ通貨ヲ試造シ然ル後ニ始
テ大小判金分判金等ニ一定セシナルヘ
シ因テ天正ノ頃鑄造シタルモノナリト
云ヒ傳フルトコロノ金銀貸ハ假令其鑄
造ノ年月ヲ詳カニ知ルヲ得ス又ハ一般
世用ノ通貨トナリシニ似サルモノモ亦

或ハ茲ニ具列ス然リト雖トモ左ニ載ス
ル貸圖許多ニシテ贅ニ近キニヨリ古貸
幣ハ只其一ニヲ舉ケ例ヲ示サハ足ルヘ
シ何ソ過多ノ圖ヲ載スルニ及ハント云
フ人アリ然レトモ許多ノ貸圖ヲ見ルト
キハ貨幣ノ因革ヲ論センカタメ思過半
ナルヘク且ツ貨幣ノ因革ヲ詳カニスル
トキハ今古國政ノ善惡得失開化不開化
ヲモ知ルヘシ因テ許多貸圖ヲ具列スル
コト左ノコトニ空シク較閱スヘシ

無名大判金

縱四寸九分五厘
横三寸零五厘
重四拾四錢七分

三貨圖彙所掲
圖ナリ



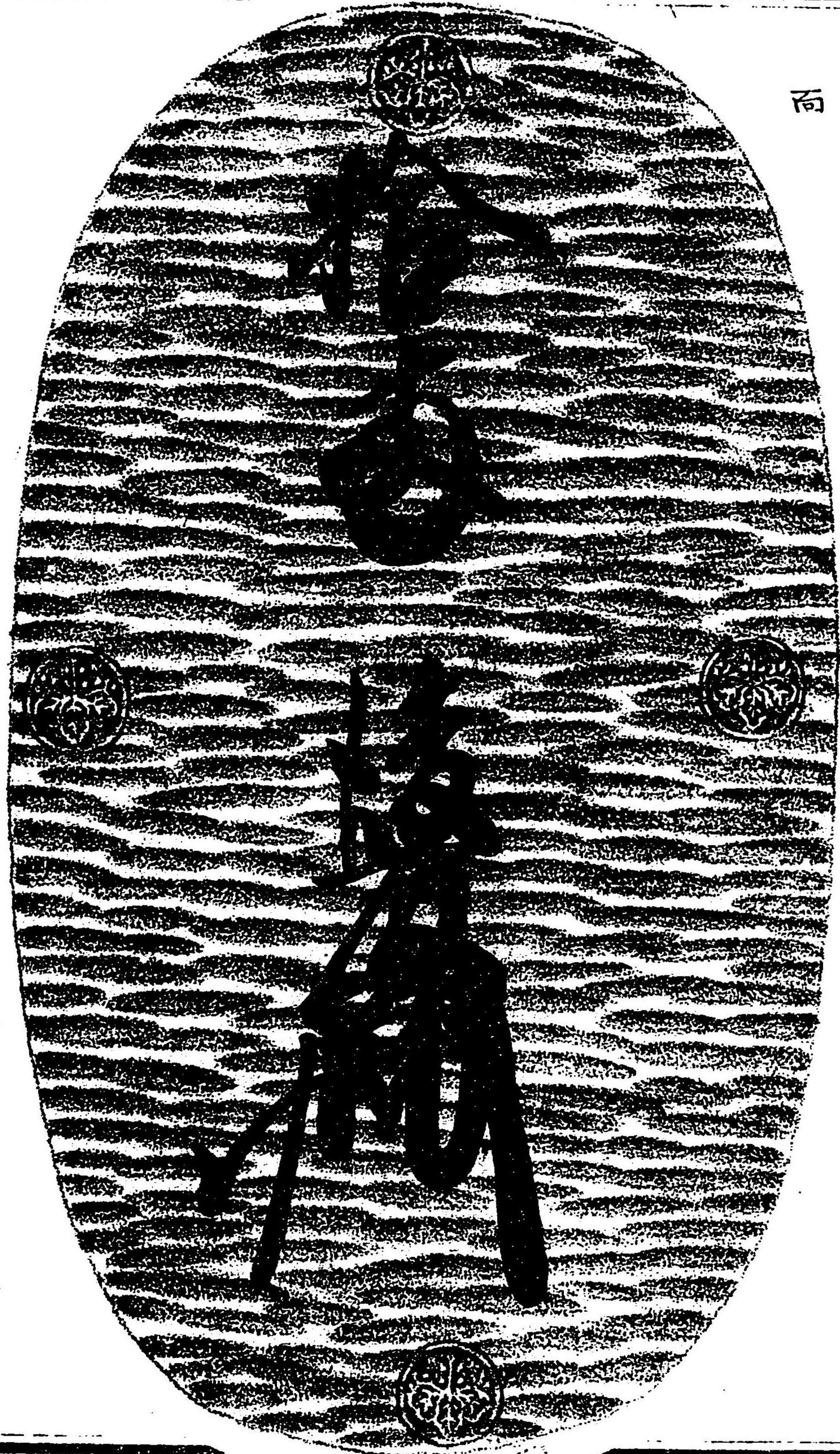
謹按右無名大判金ノ説ハ經濟録并三貨
圖彙ニアリ且ツ圖彙ニ所載ノ圖ハ眞貨
ヨリシテ直ニ寫セシ圖ナリ右二書ノ説
ニ據ルニ此判金ハ寶永年間濃州關ノ農
夫其宅地ヲ堀リシトキ獲タル貨ニテ其
形ハ大抵近世ノ判金ノコトクナリ然レ
トモ文モナク刻印モナキハ甚異ナルユ
ヘ右ノ農夫之ヲ京ニ携ヘ兌金舗ニ問ヒ
ケルニ兌金舗答ヘテ曰ク是ハ織田氏ノ
トキノ判金ナリ文モナク刻印モナキハ

純精ノ金ナルユヘ世ニ通用シテ偽造ノ
患ナケレハナリ而シテ少分ノ用ニ供ス
ルトキハ之ヲ鑿ニテ切り之ヲ秤リテ用
ヒシナリ云々ト然レハ織田氏ノトキ斯
クノコトキ大判金アリシナルヘレ因テ
鑄造年月ヲ詳カニセサレトモ天正ノ一
例トレテ茲ニ載ス然レトモ純精ノ金ナ
リトイフ説ハ審カナラス
左ニ載スル天正大判金大佛大判金太閤
大判金等ハ皆ナ其價格ヲ詳記スルノ書

ナケレハ他日之ヲ分析シ其表ノ成ルヲ
待テ之ヲ載セントス因テ今之ヲ省ク

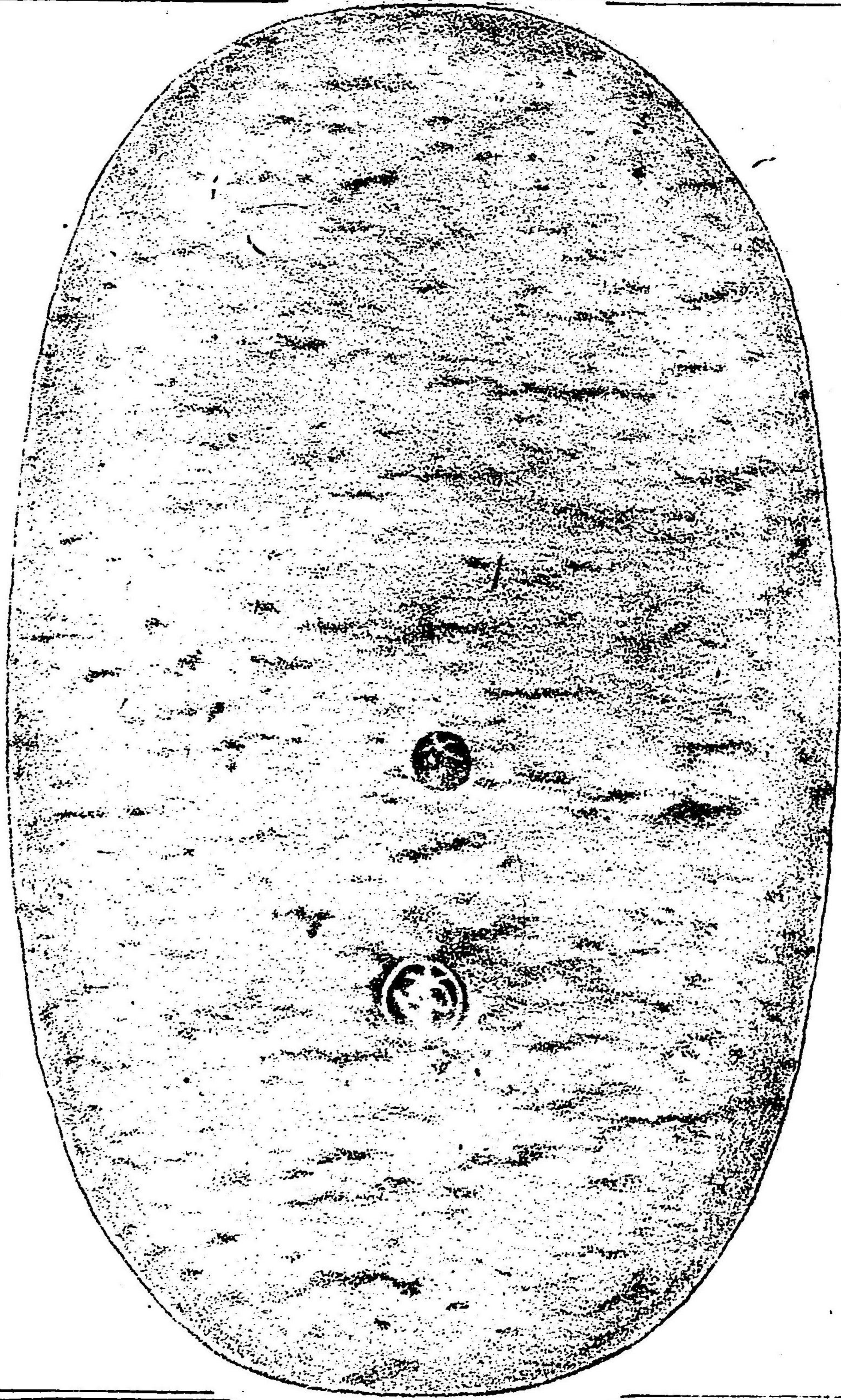
造幣寮所蔵品ナリ

天正大判金



縦五寸六分五厘
横三寸四分
重四拾三錢三分

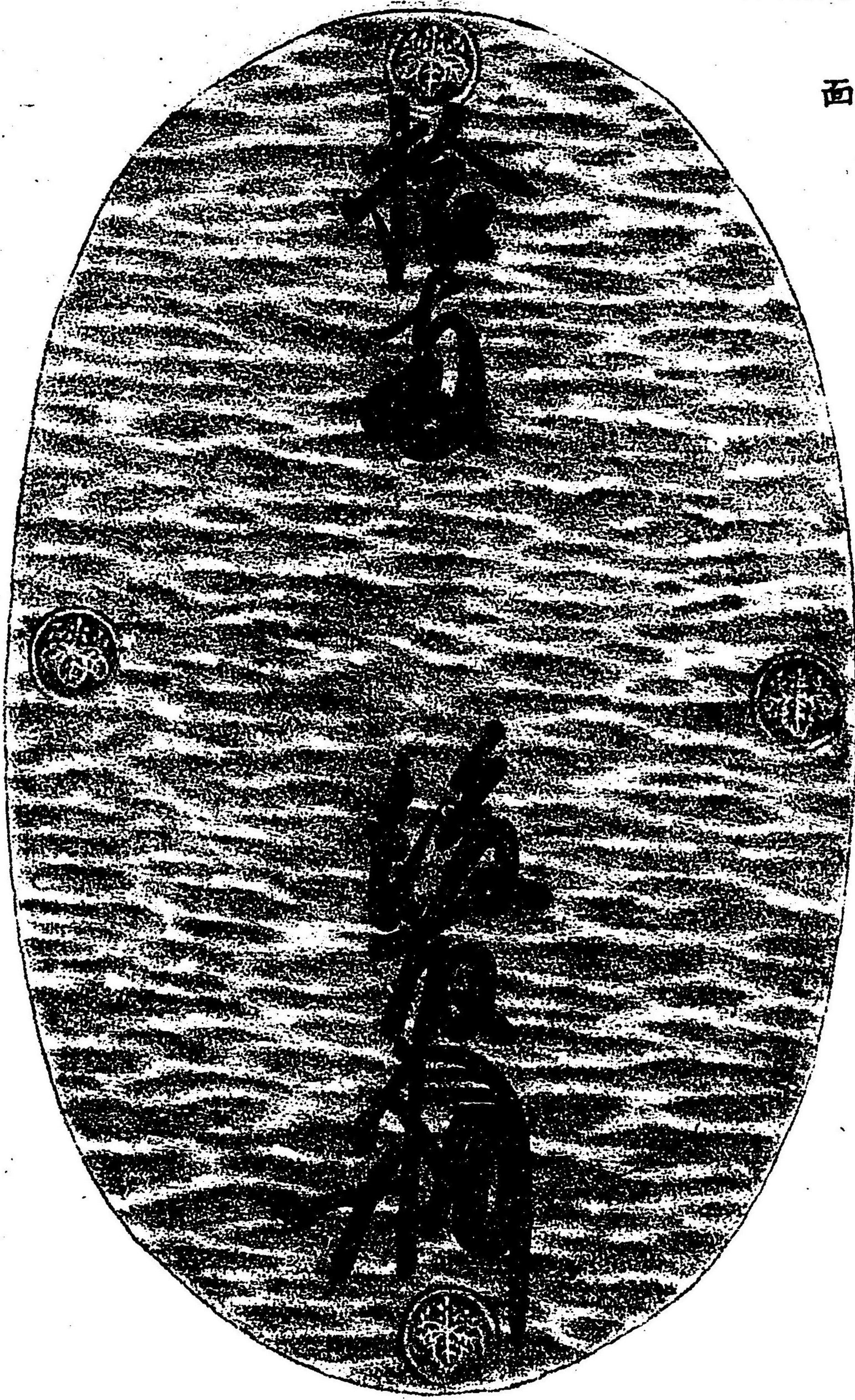
背



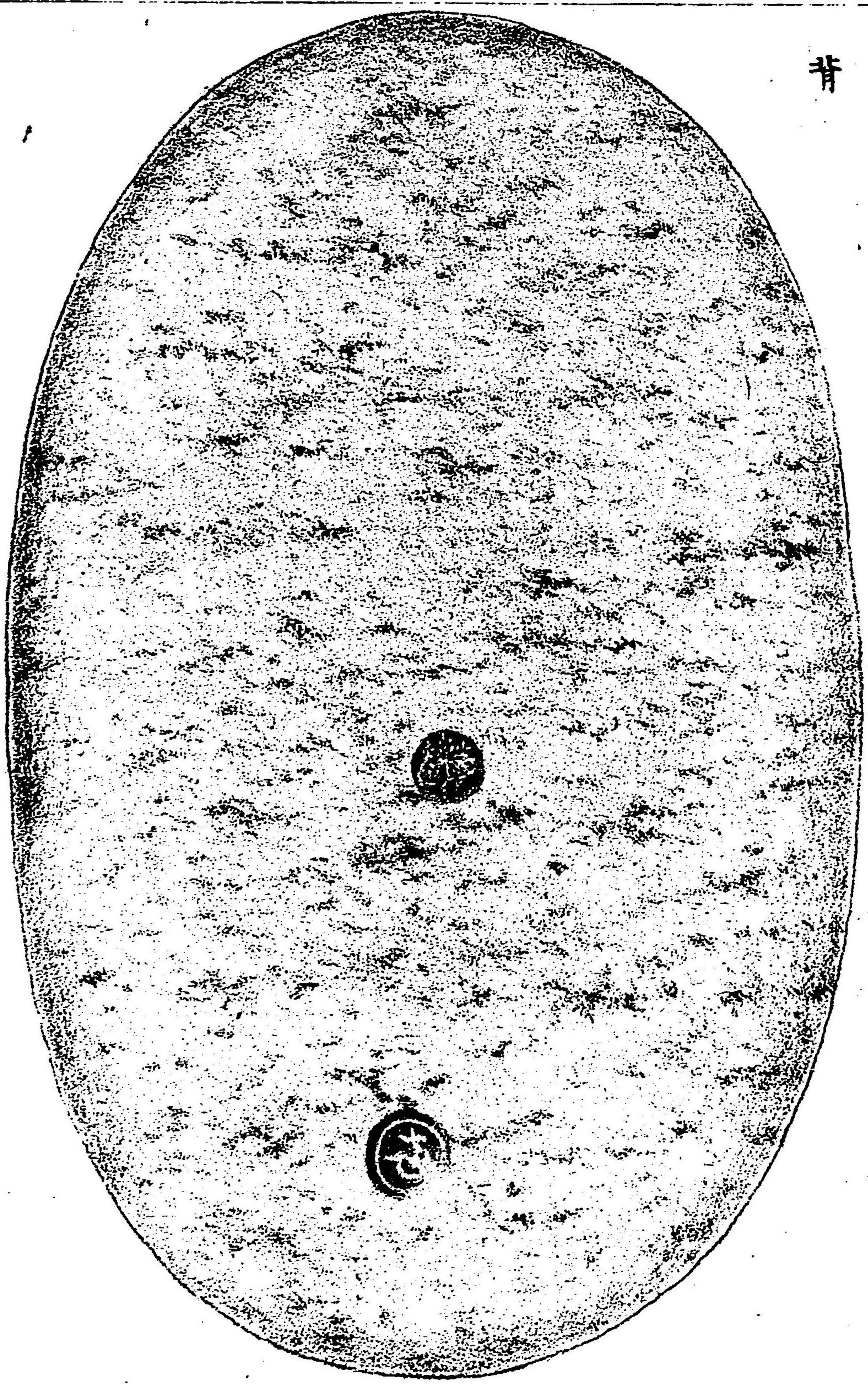
天正大判金
面

縱五寸四分五厘
橫三寸五分
重四拾三錢貳分五厘

芝齋所載ノ品
ナリ

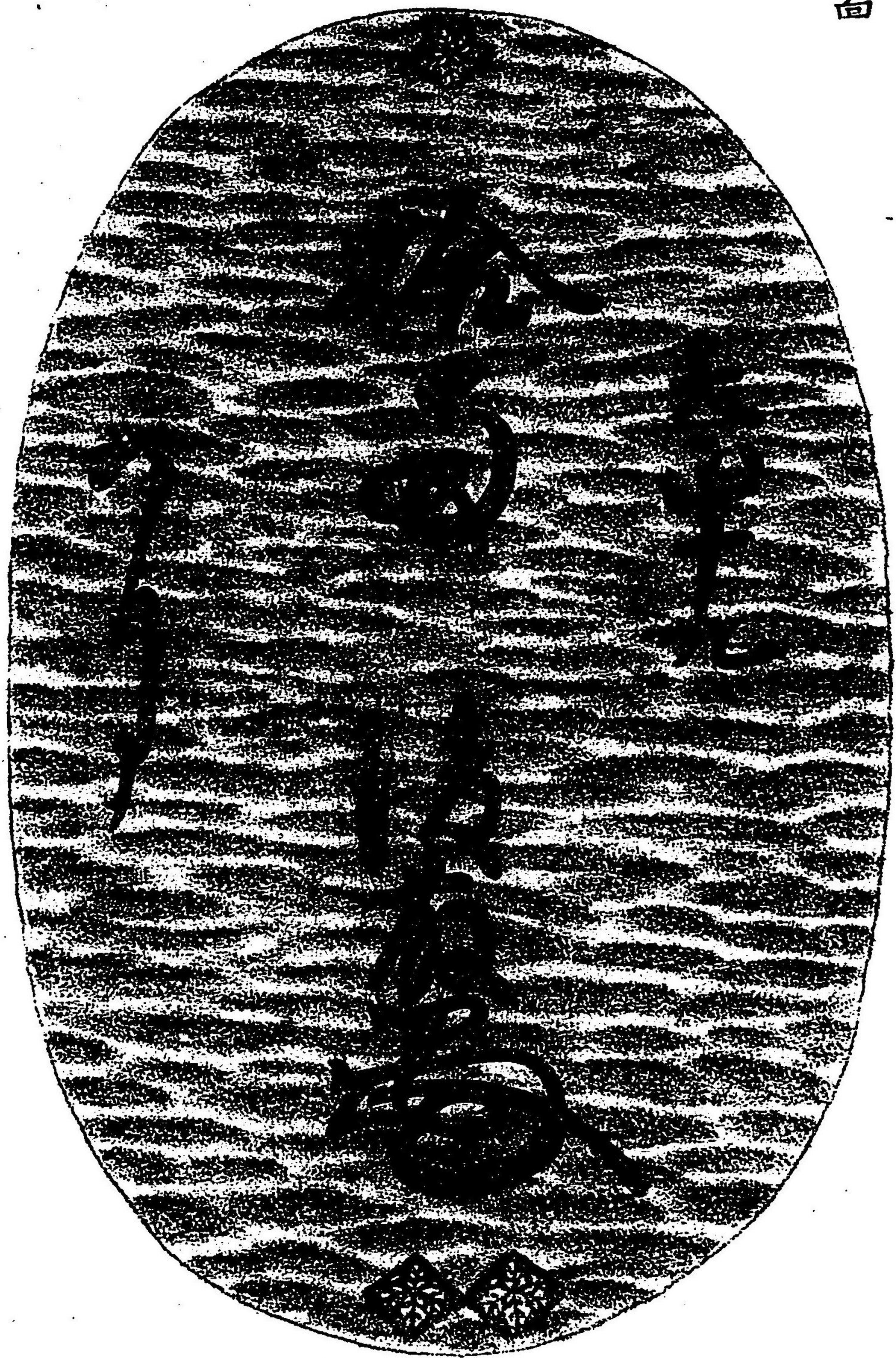


背



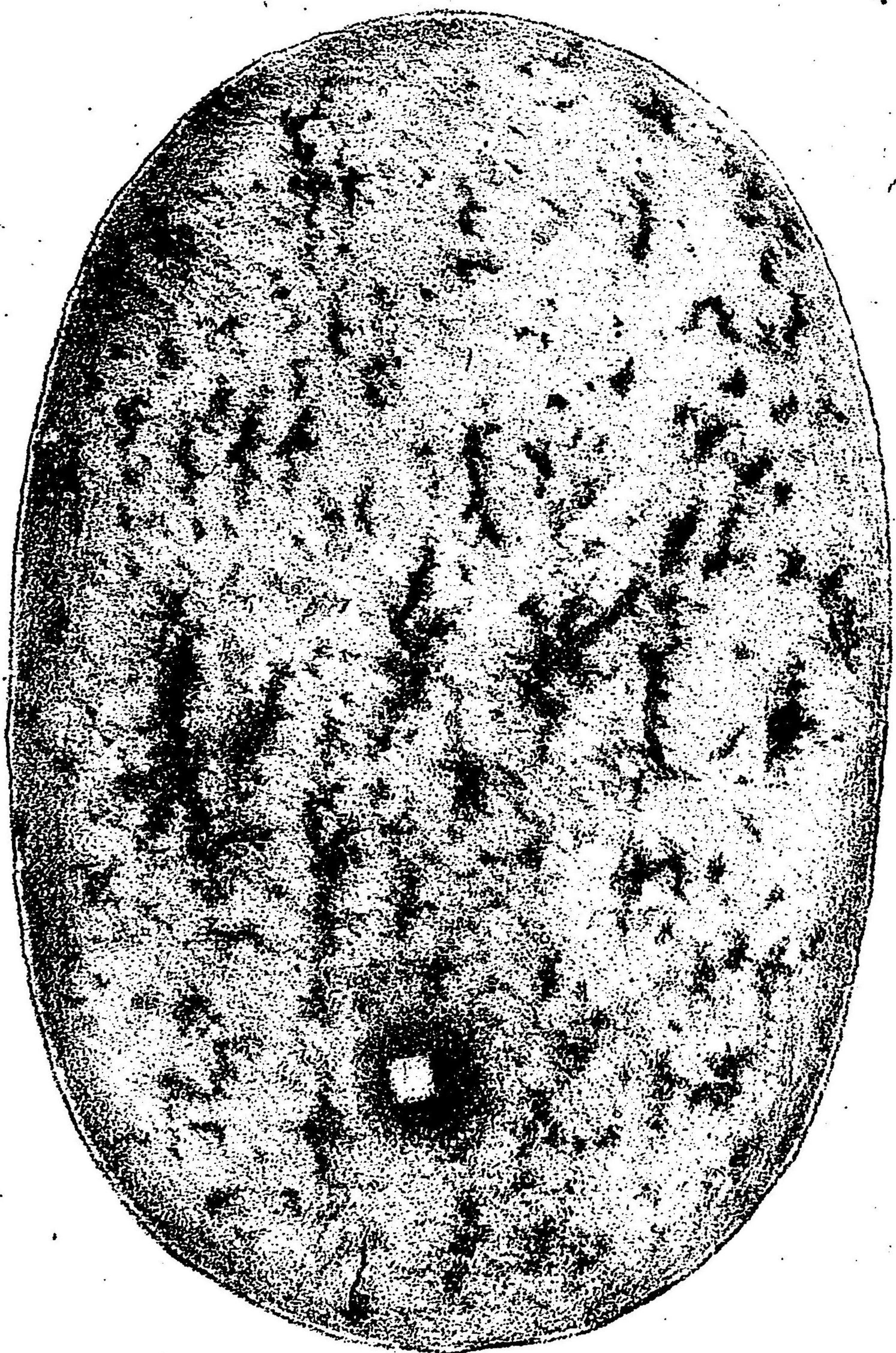
造幣寮所藏ノ品
ナリ

天正菱大判金
面



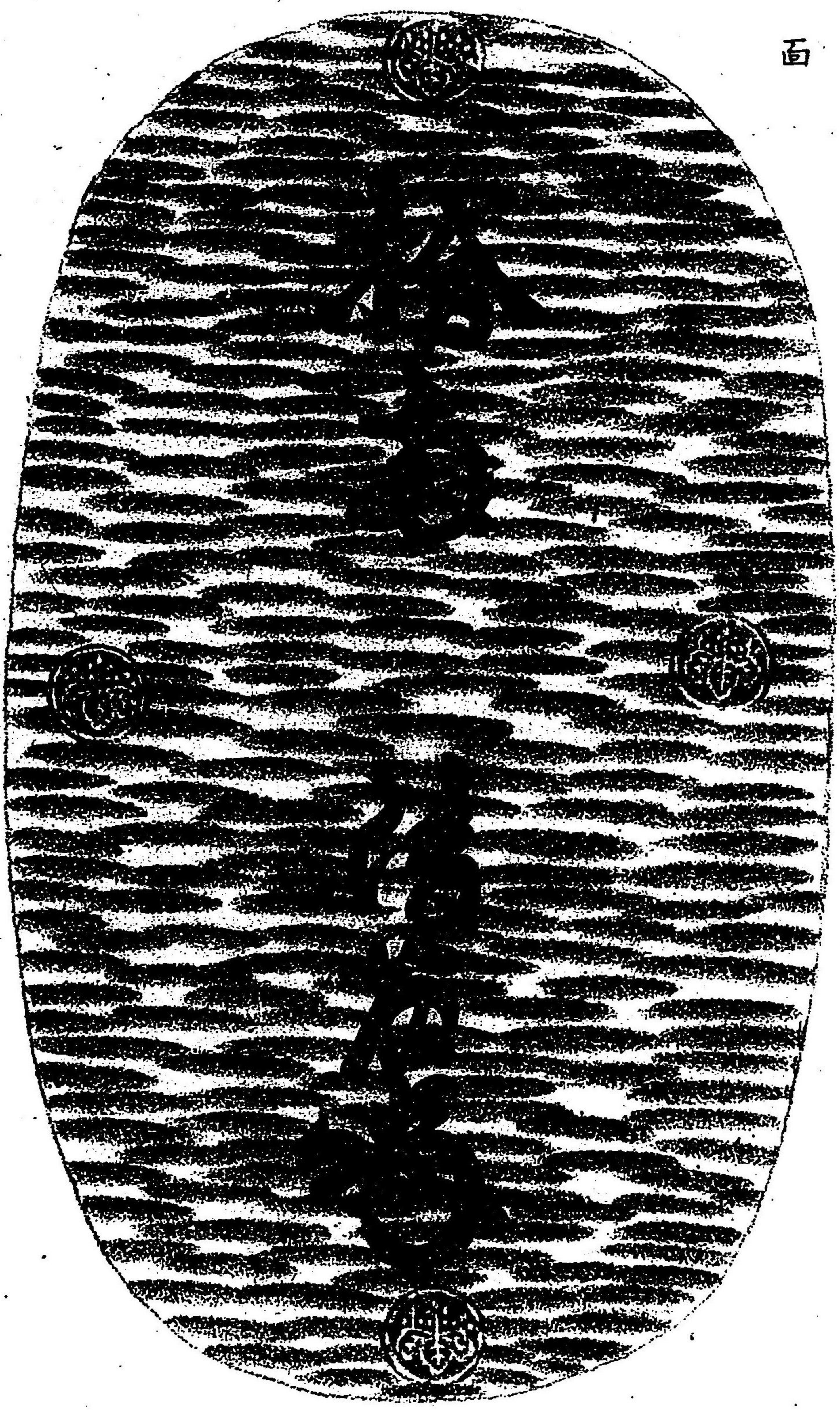
縦四寸九分五厘
横三寸三分五厘
重四拾四錢

背

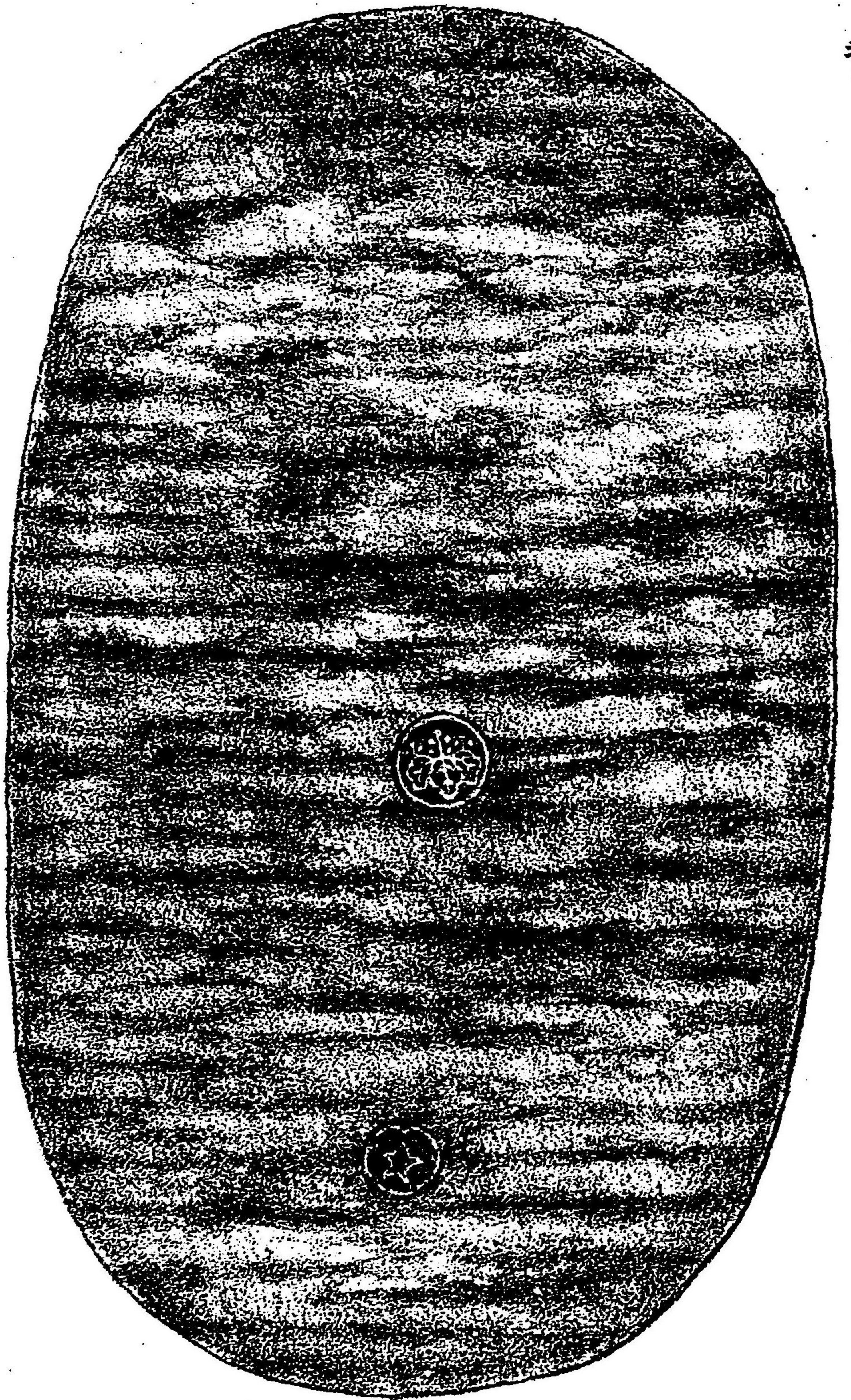


天正大判金
 天正十六年
 天正十七年
 天正十八年
 天正十九年
 天正二十年
 天正二十一年
 天正二十二年
 天正二十三年
 天正二十四年
 天正二十五年
 天正二十六年
 天正二十七年
 天正二十八年
 天正二十九年
 天正三十年
 天正三十一年
 天正三十二年
 天正三十三年
 天正三十四年
 天正三十五年
 天正三十六年
 天正三十七年
 天正三十八年
 天正三十九年
 天正四十年
 天正四十一年
 天正四十二年
 天正四十三年
 天正四十四年
 天正四十五年
 天正四十六年
 天正四十七年
 天正四十八年
 天正四十九年
 天正五十年
 天正五十一年
 天正五十二年
 天正五十三年
 天正五十四年
 天正五十五年
 天正五十六年
 天正五十七年
 天正五十八年
 天正五十九年
 天正六十年
 天正六十一年
 天正六十二年
 天正六十三年
 天正六十四年
 天正六十五年
 天正六十六年
 天正六十七年
 天正六十八年
 天正六十九年
 天正七十年
 天正七十一年
 天正七十二年
 天正七十三年
 天正七十四年
 天正七十五年
 天正七十六年
 天正七十七年
 天正七十八年
 天正七十九年
 天正八十年
 天正八十一年
 天正八十二年
 天正八十三年
 天正八十四年
 天正八十五年
 天正八十六年
 天正八十七年
 天正八十八年
 天正八十九年
 天正九十年
 天正九十一年
 天正九十二年
 天正九十三年
 天正九十四年
 天正九十五年
 天正九十六年
 天正九十七年
 天正九十八年
 天正九十九年
 天正一百年

三貸圖彙所掲
圖ナリ



面

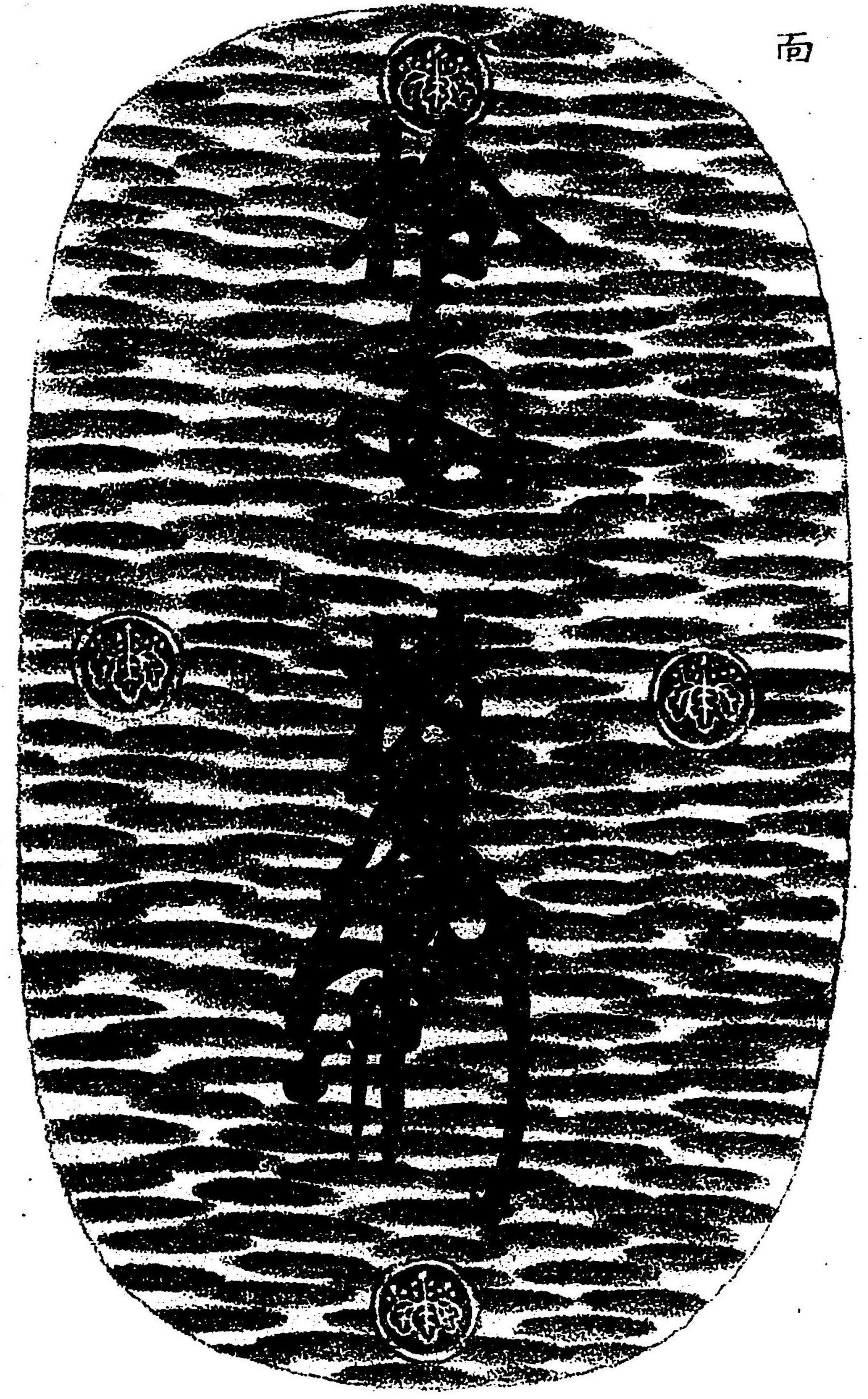


背

天正大判金

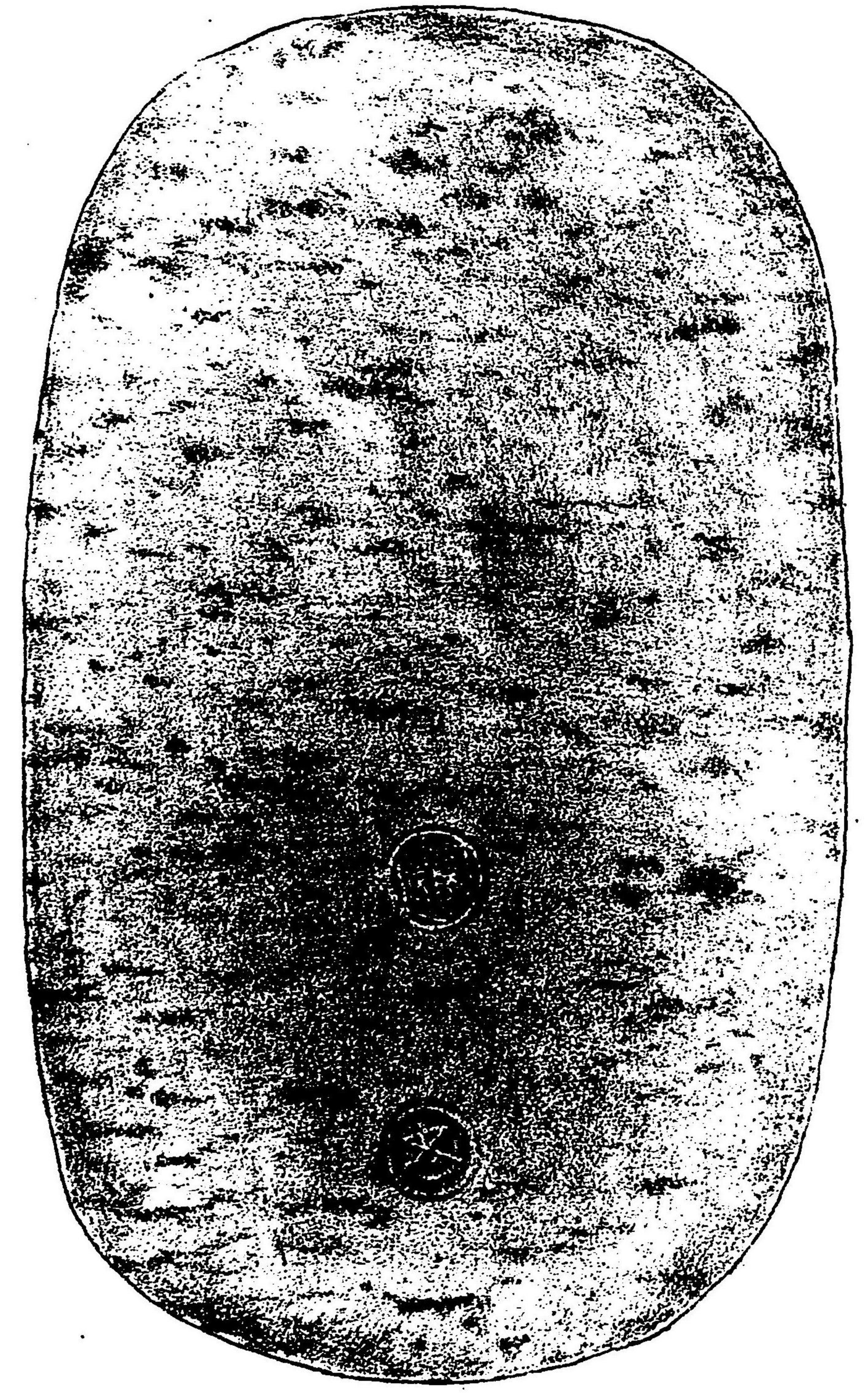
縱五寸
横三寸壹分
重四拾四錢二分

面



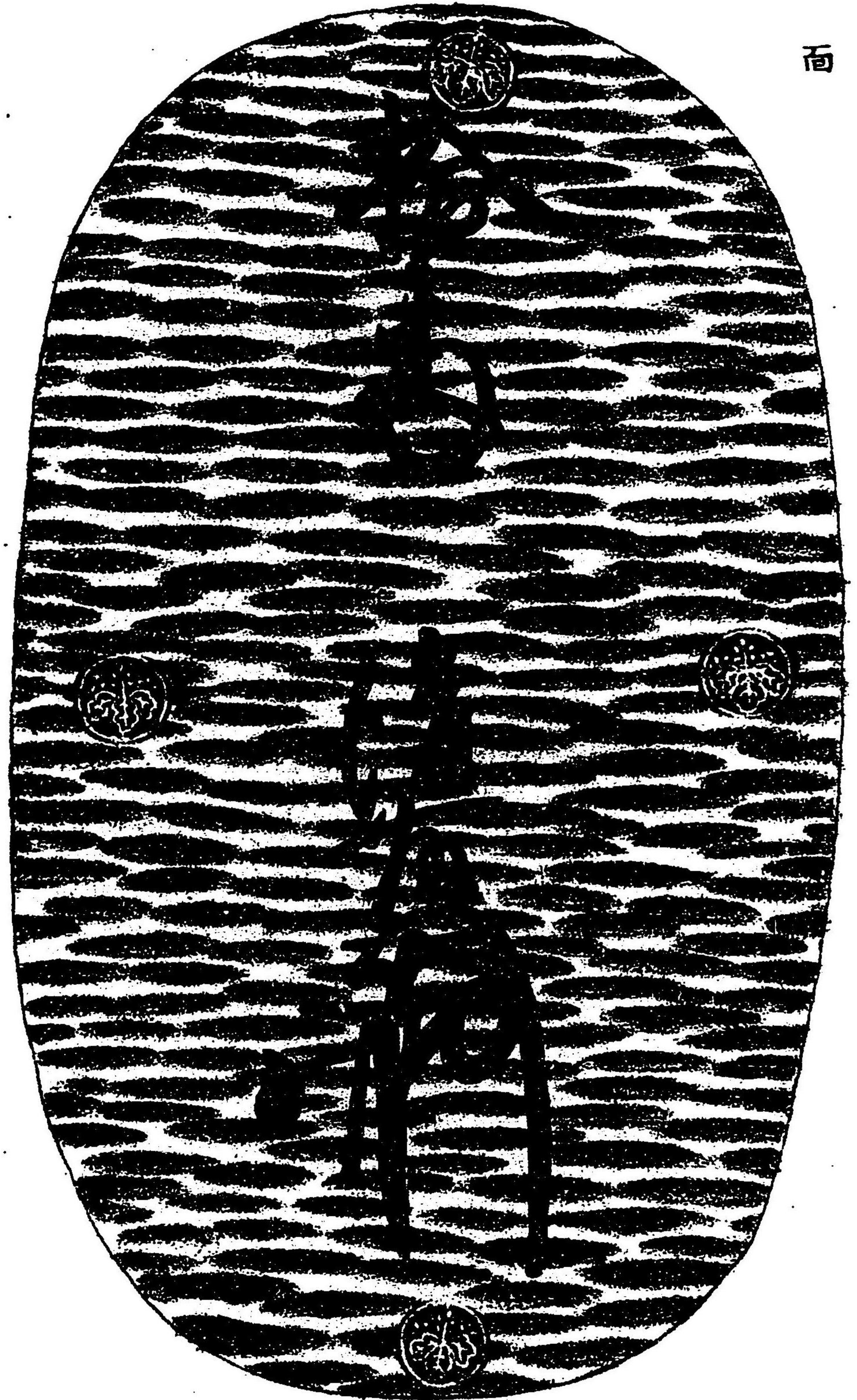
三貨圖彙所掲ノ
圖ナリ

背



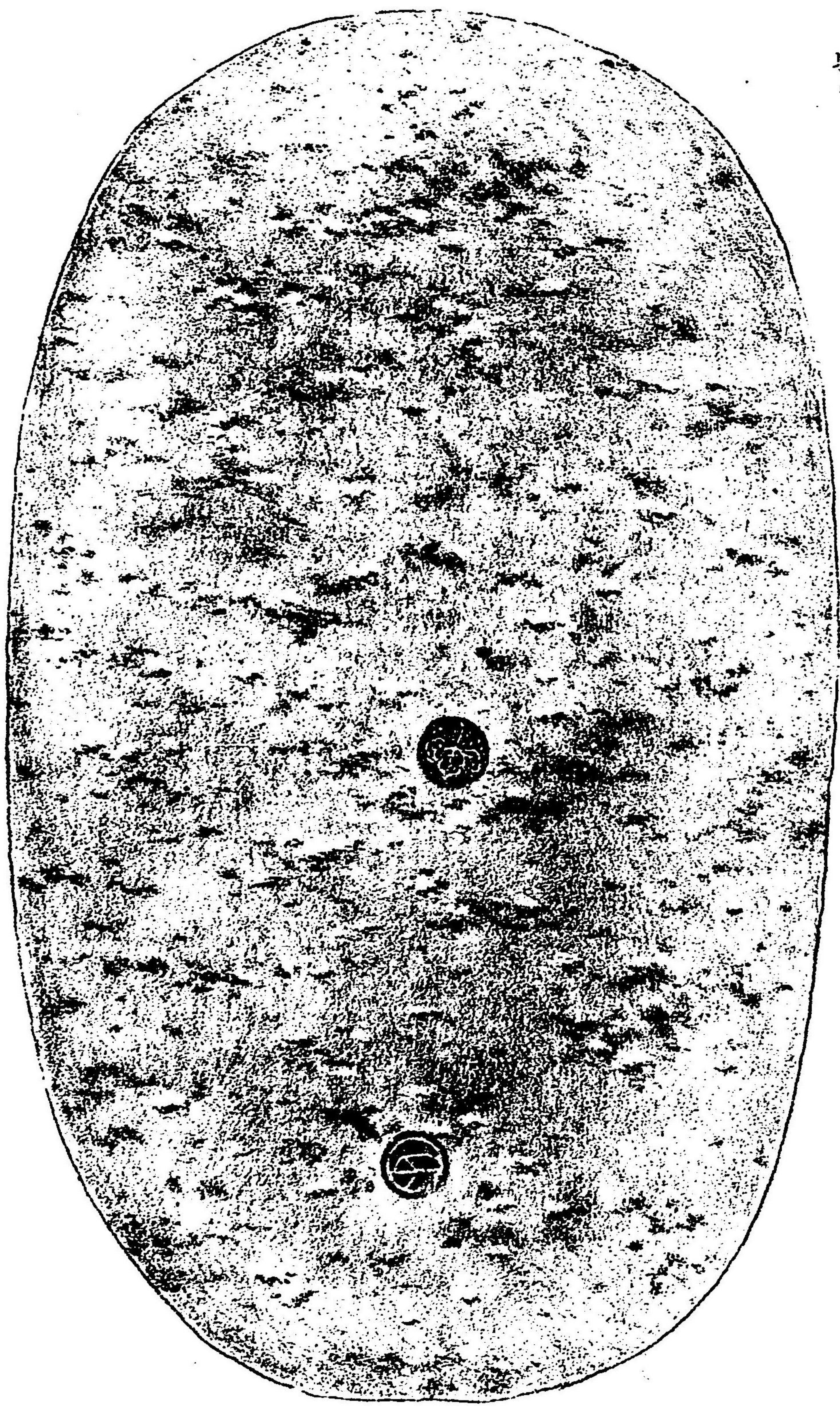
天正大判金

縱五寸貳分
橫三寸貳分
重四拾四錢三分



三寶圖景所掲ノ
圖ナリ

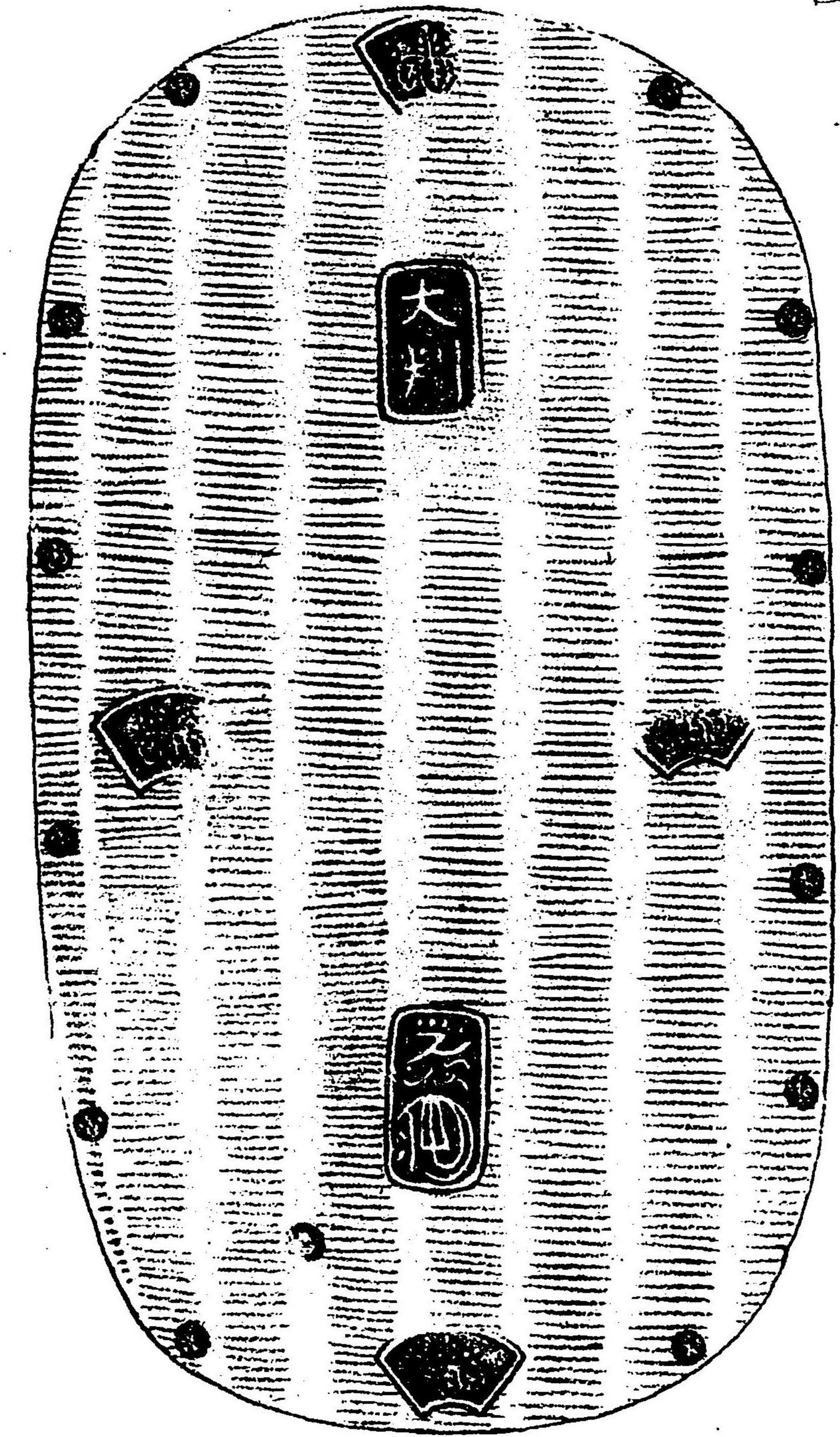
背



太閤大判金

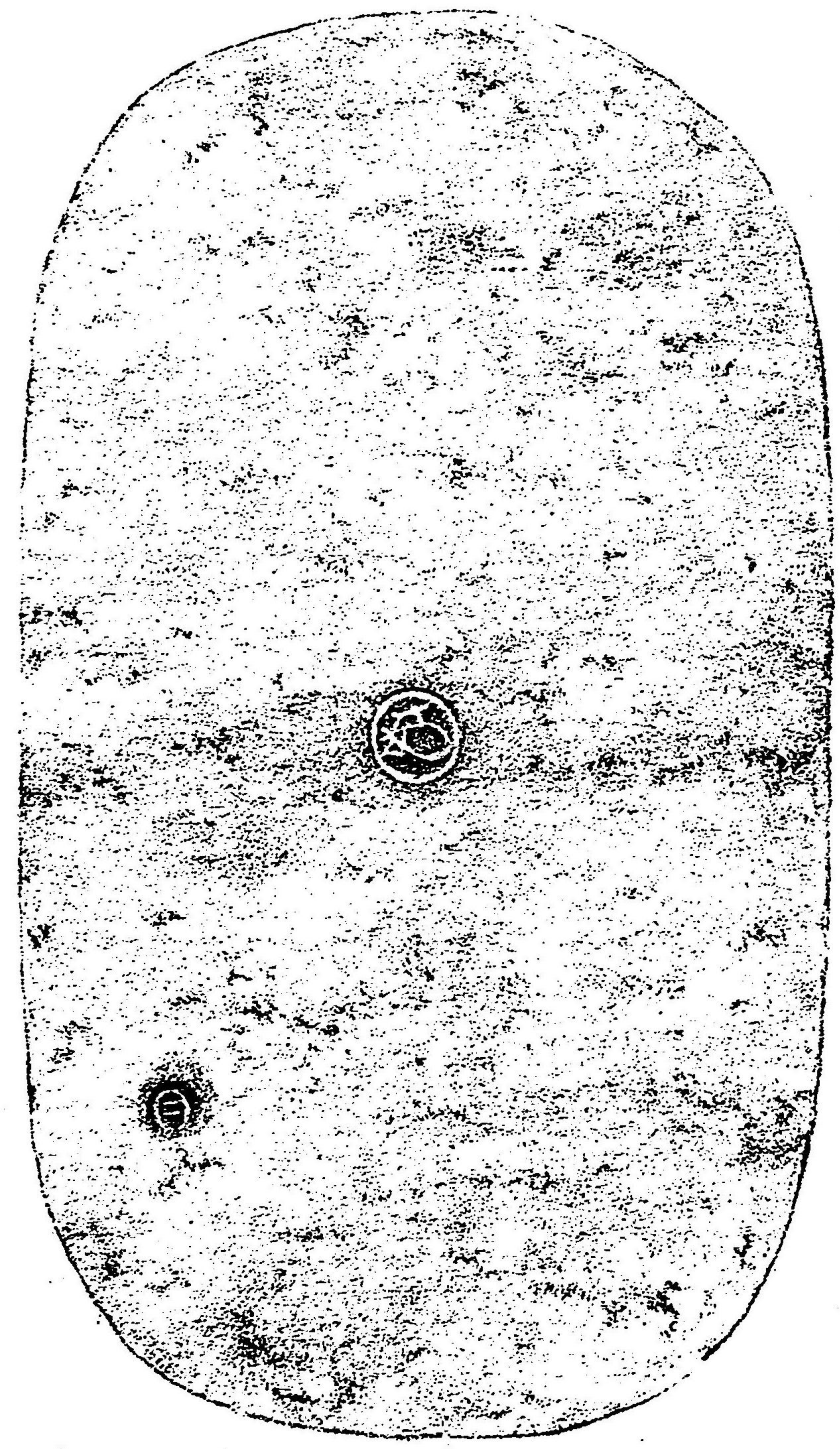
縱四寸八分
横貳寸八分
重三拾八錢

面



造幣寮所藏ノ品
ナリ

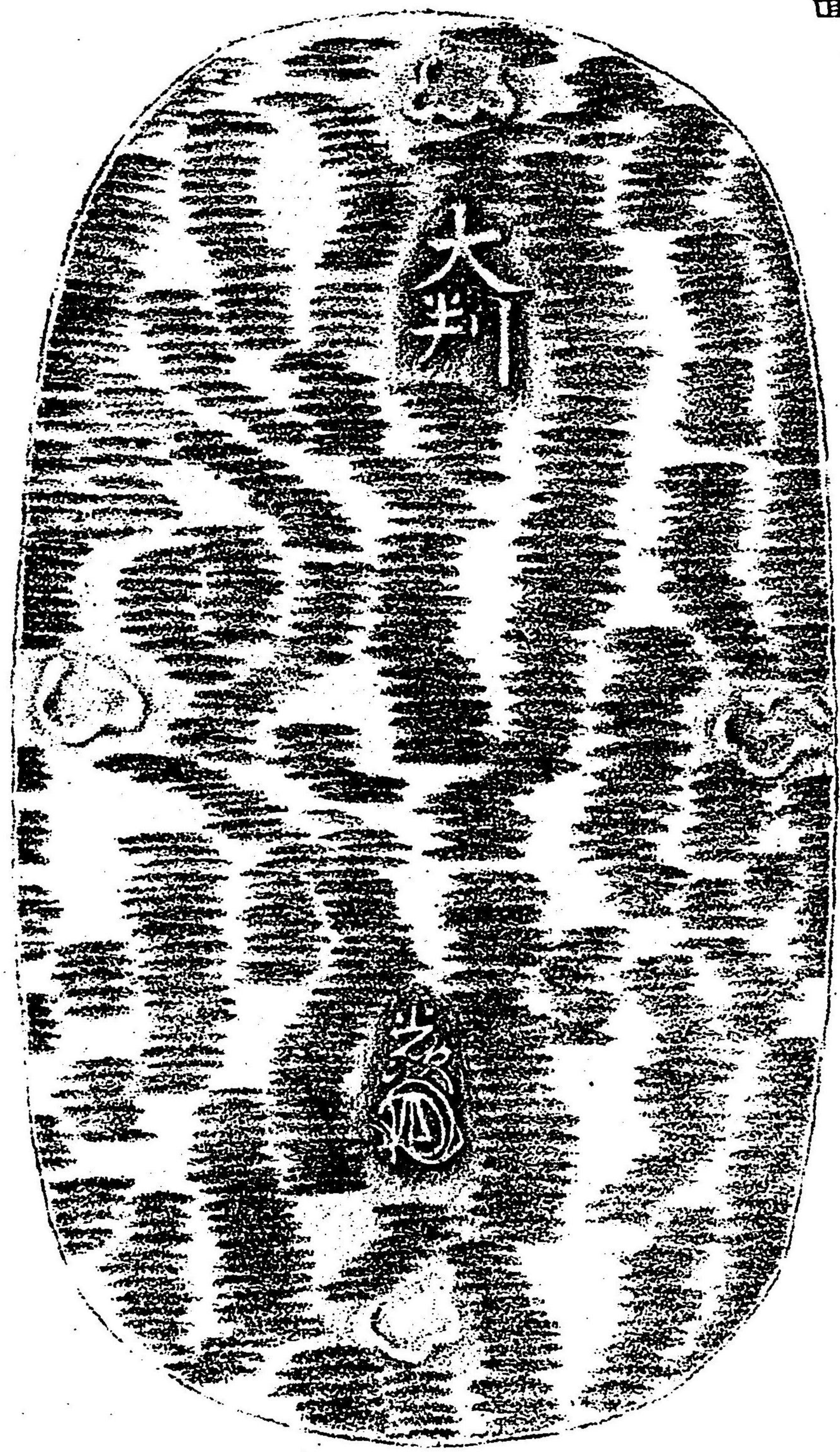
背



古大判金

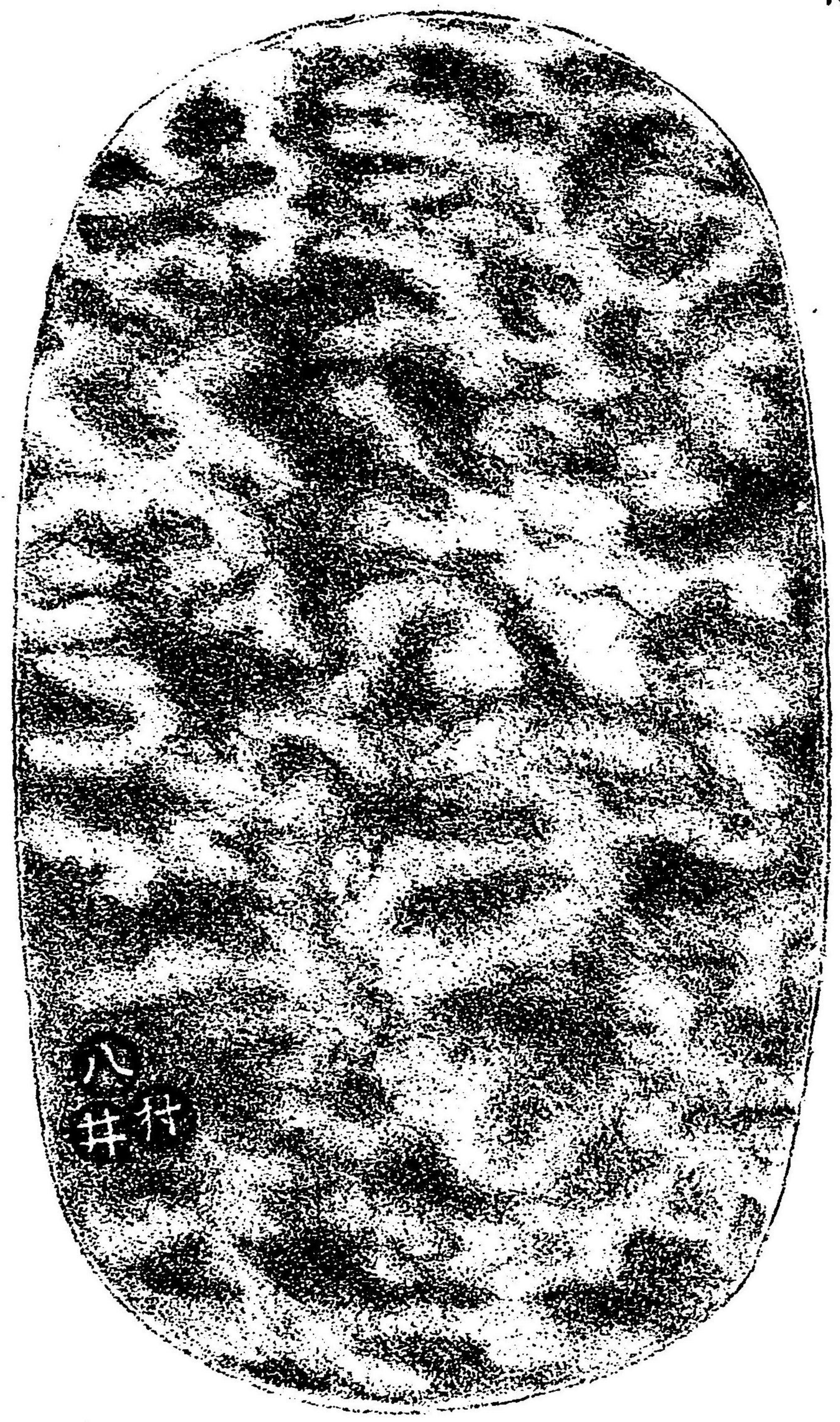
縱五寸
横三寸
重四拾貳毫五分

面



三貸圖景所掲ノ
圖ナリ

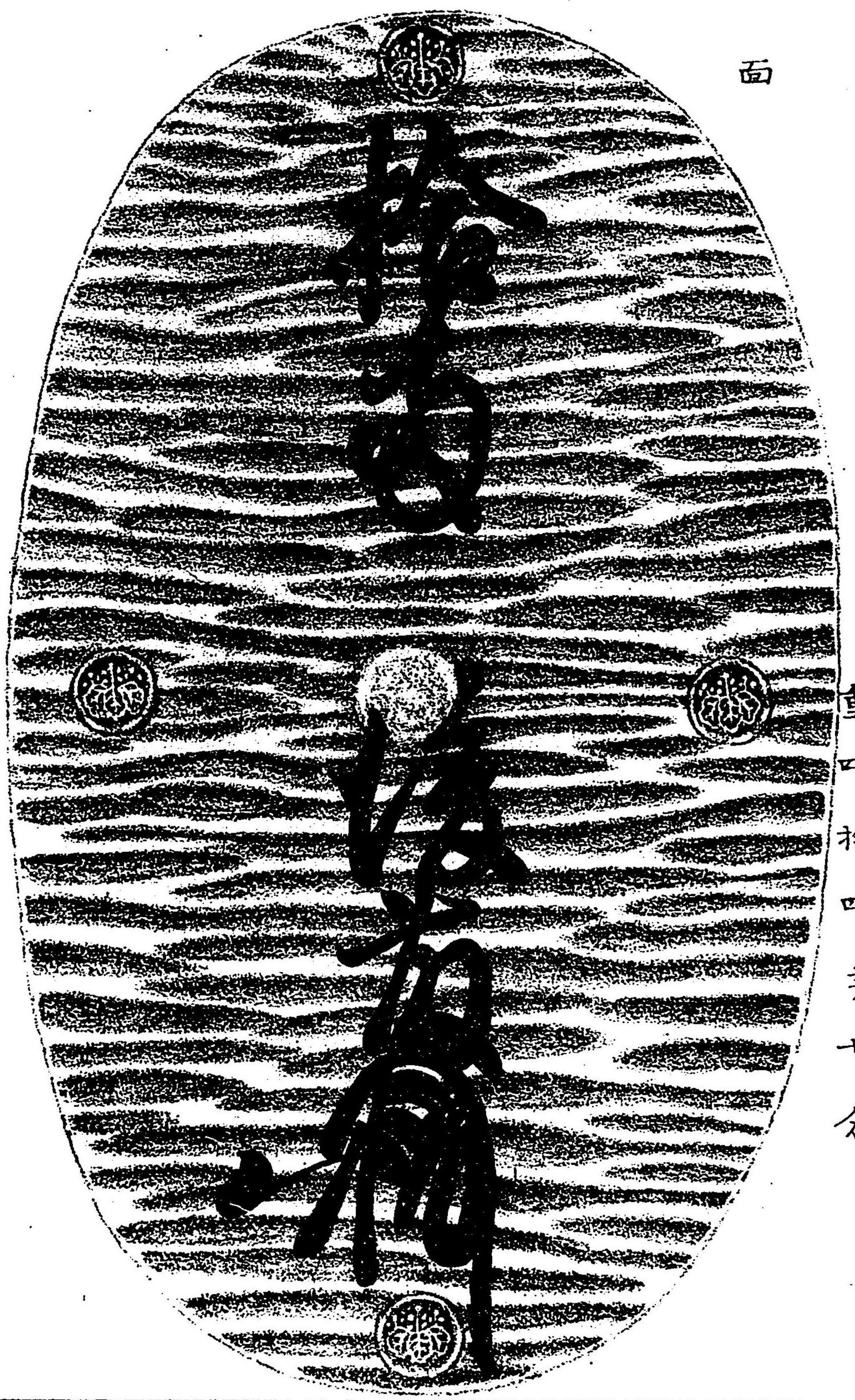
背



大佛大判金

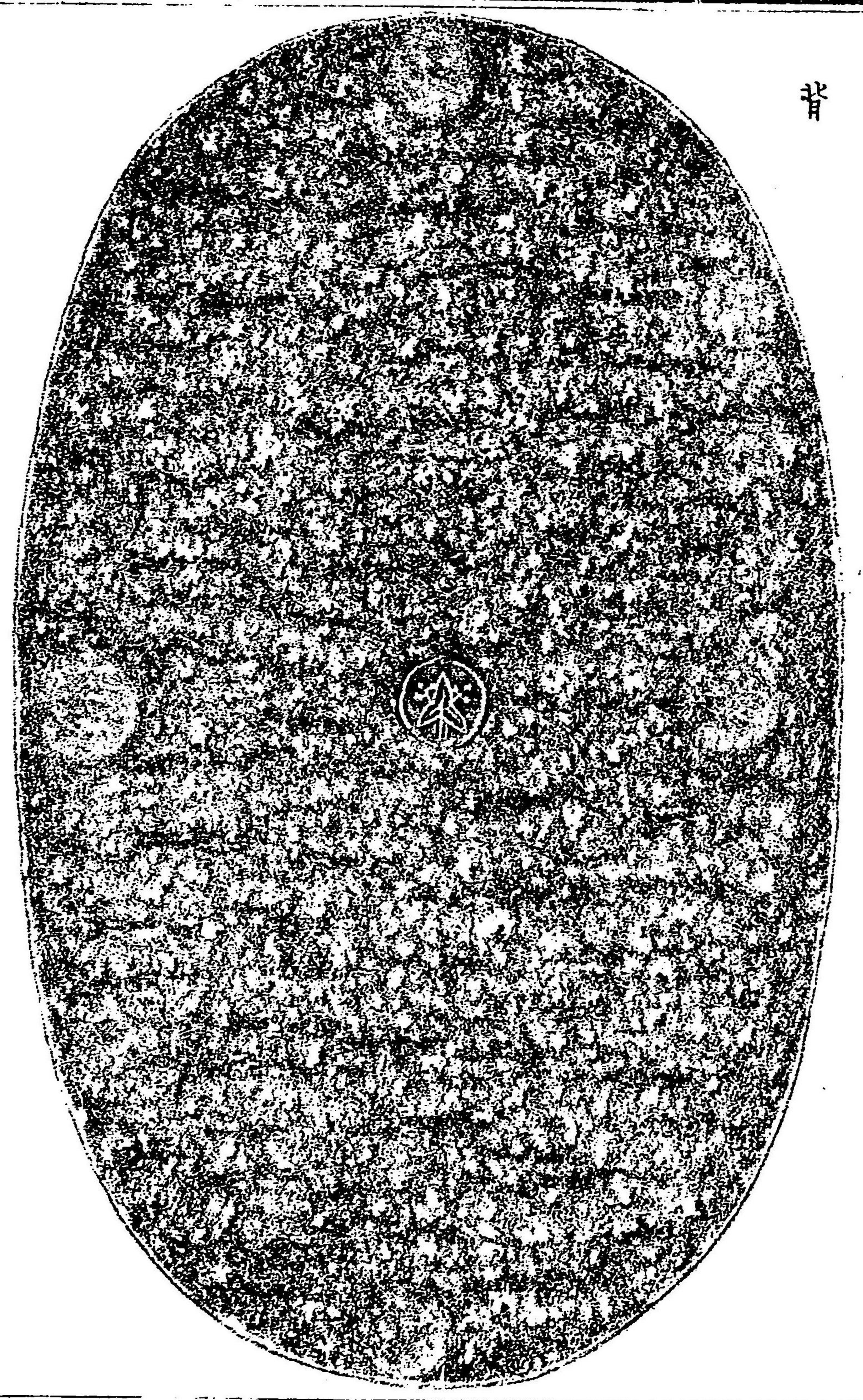
縦五寸五分五厘
横三寸五分弱
重四拾四錢七分

面



大坂府人塚善藏
所藏ノ品ナリ

背



大佛大判金

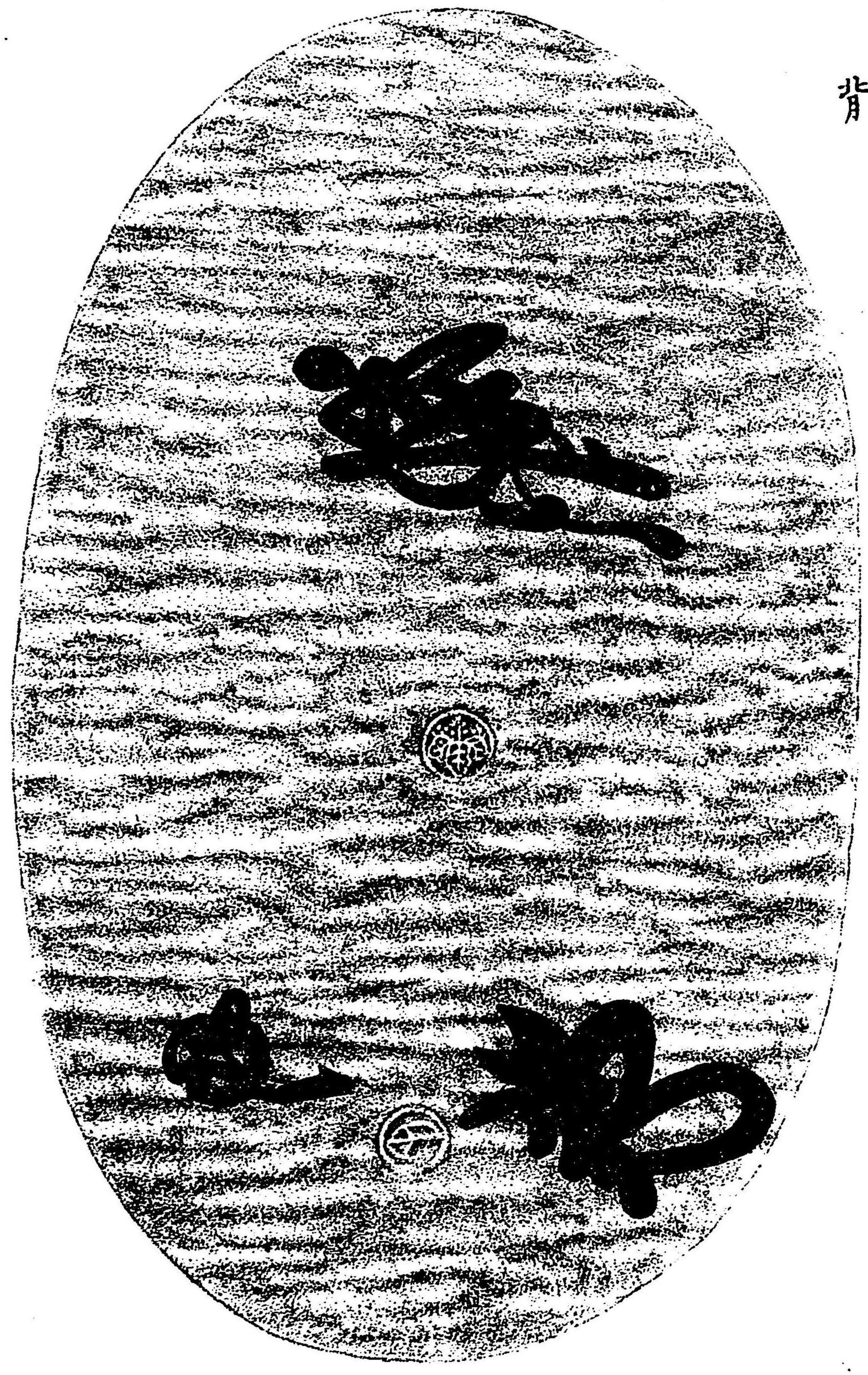
大佛大判金

縱五寸五分
横三寸五分
重四拾四錢二分

三貨圖案所揚
圖ナリ



背

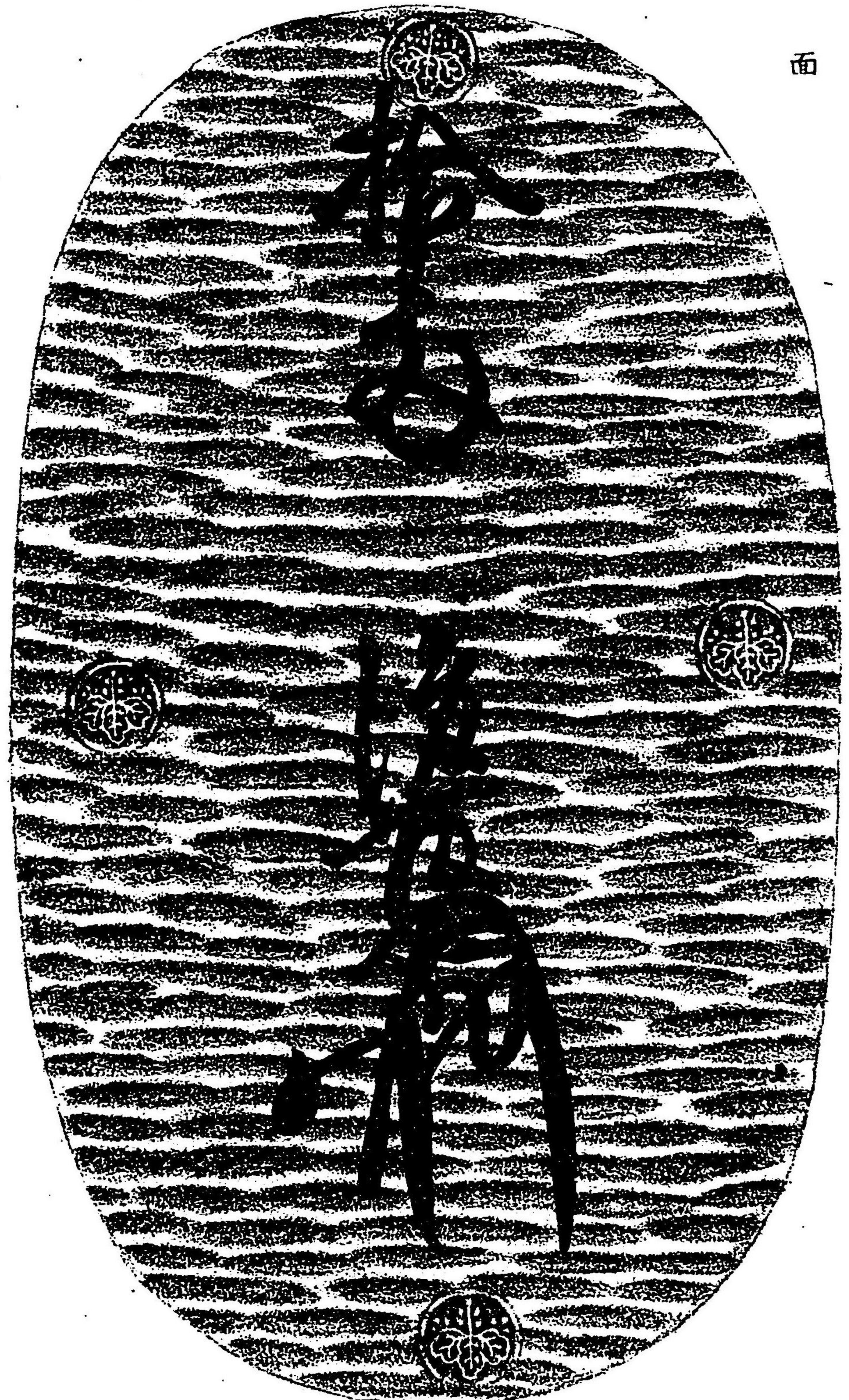


大佛大判金
卷四
十四
大佛大判金

大佛大判金

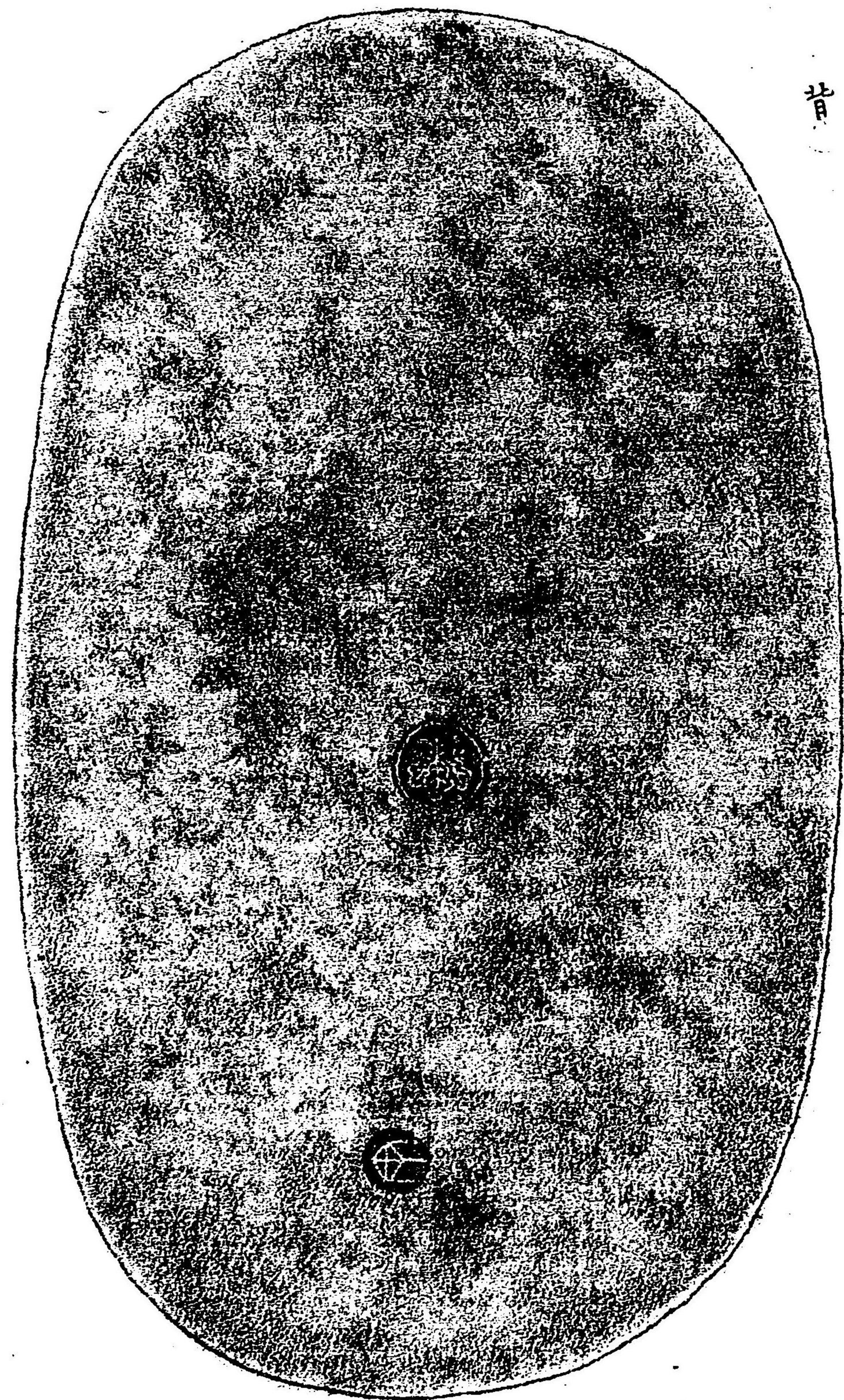
縱五寸四分
横三寸三分
重四拾四錢貳分

面



三貸圖案所掲ノ
圖ナリ

背



謹按大佛判ハ豐太閣大佛供養ノトキ造
タリト云フ説アリ又一説ニハ秀頼大佛

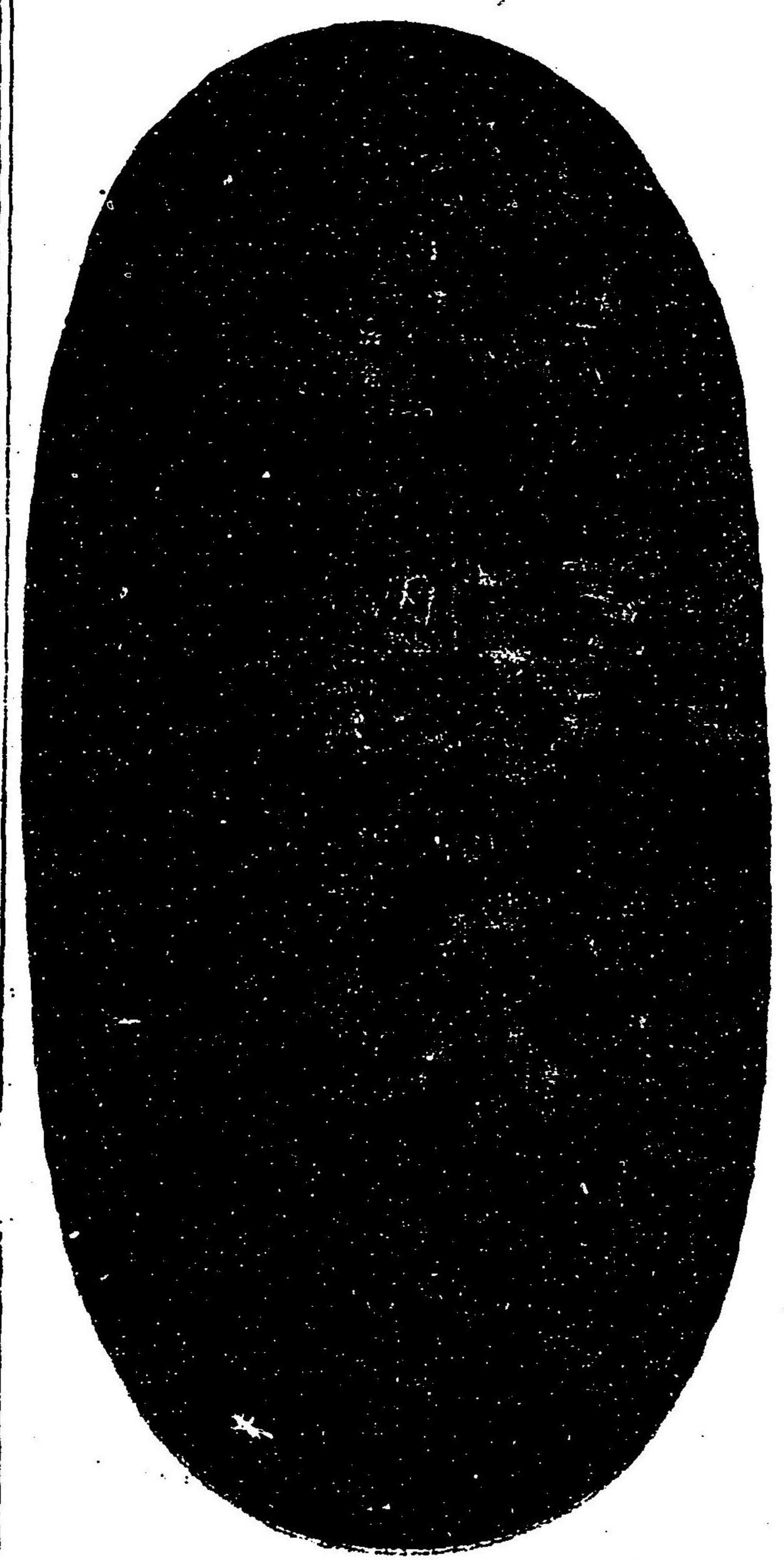
再建ノトキ黄金千枚法馬ヲ毀テ之ヲ造
リタリトイフ

駿河所造銀判

縦四寸四分
横貳寸貳分
重四拾三秀

三貸圖景所揚ノ
圖ナリ

面



背

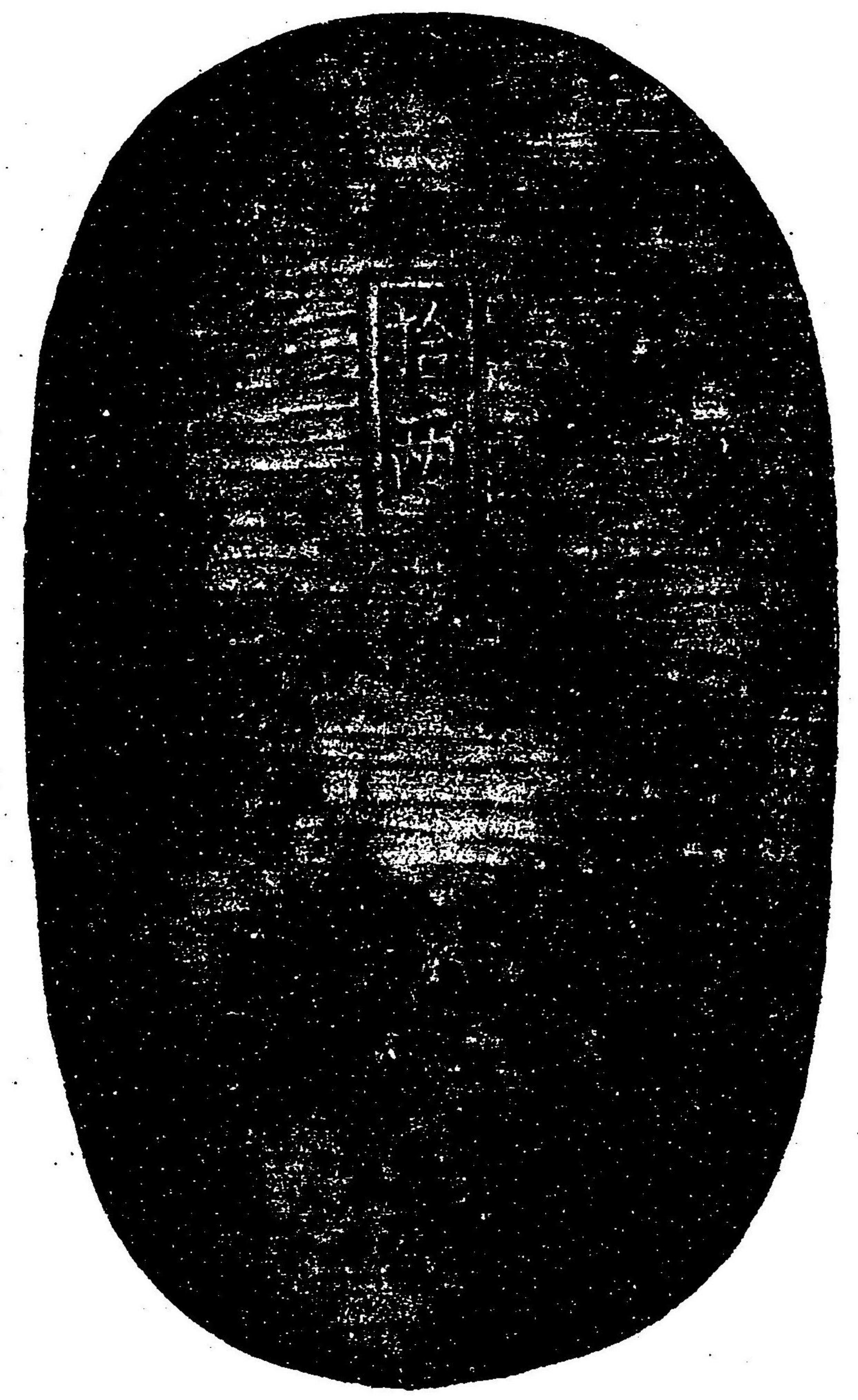


駿河所造銀判

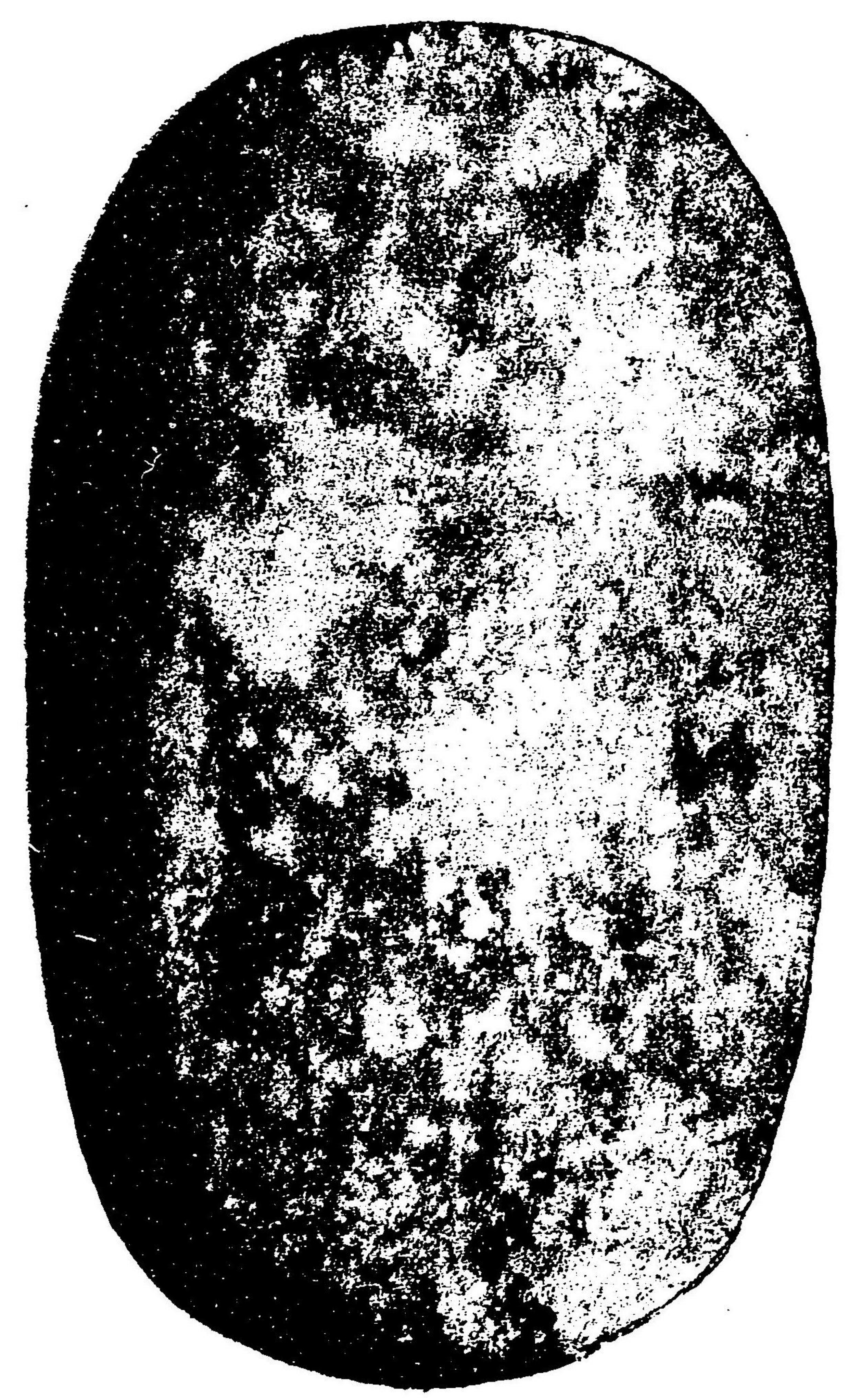
縱四寸四分
橫貳寸六分五厘
重四拾三錢

三貨圖彙所掲ノ
圖ナリ

面



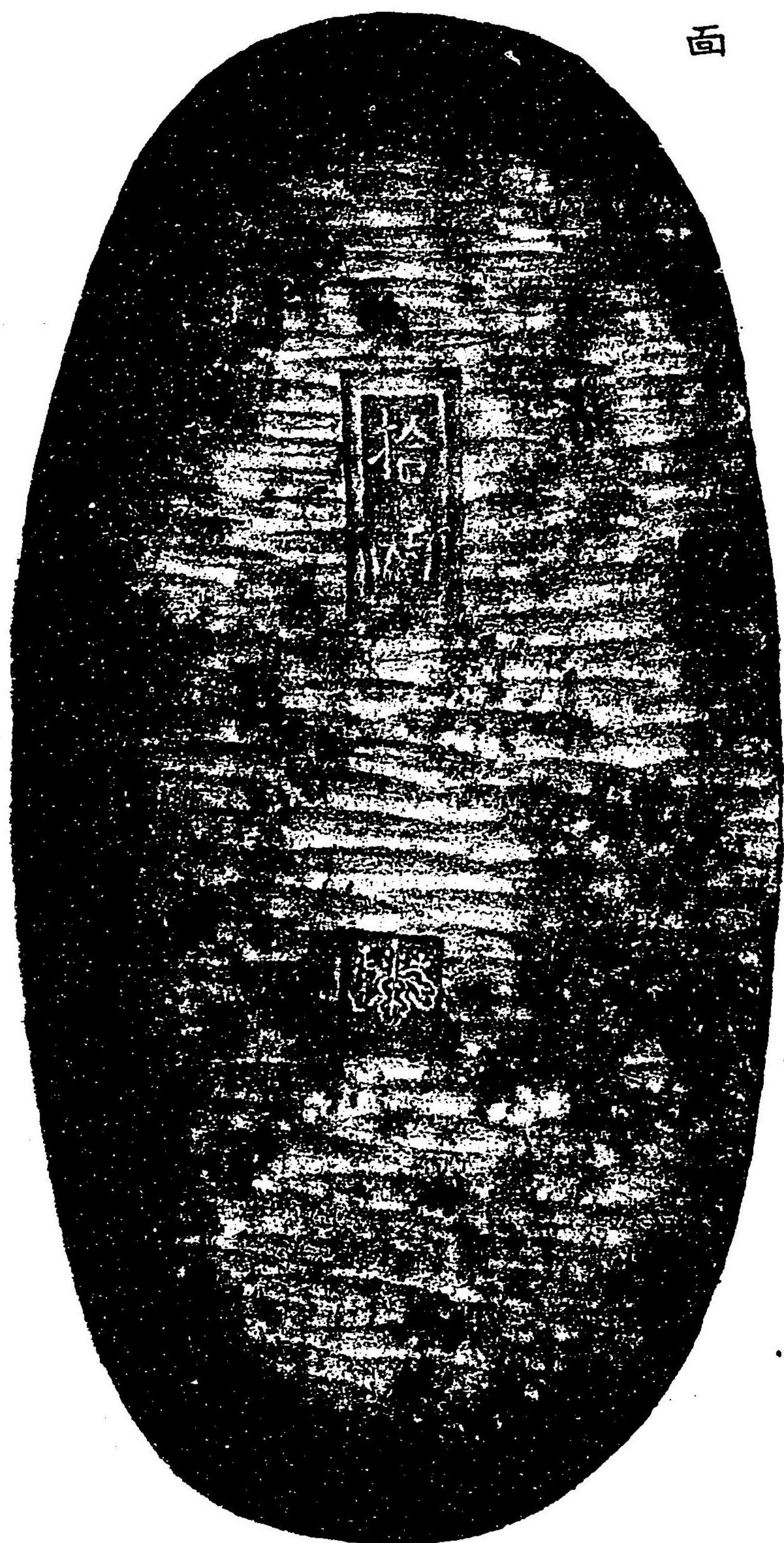
背



駿河所造銀判

縱五寸貳分
橫貳寸六分五厘
重四拾三兩

面



三貨圖彙所掲ノ
圖ナリ

背



駿河所造銀判

縱四寸五分
橫壹寸九分五厘
重四拾三錢

三貨圖景所掲
圖ナリ

面

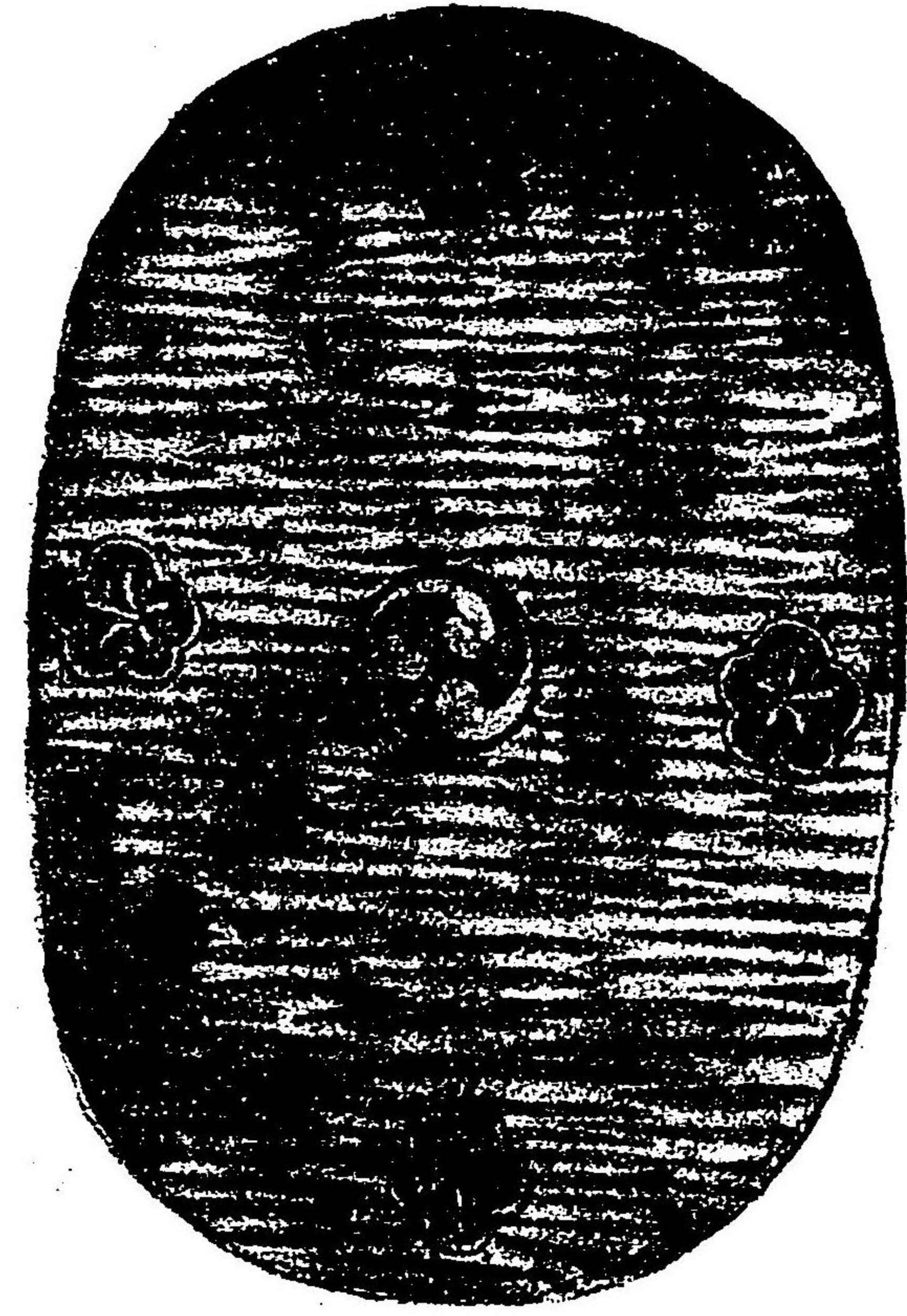


背



三貨圖彙所掲ノ
圖ナリ

面



駿河所造銀五兩判

縱貳寸七分
横壹寸八分五厘
重貳拾壹錢五分

背



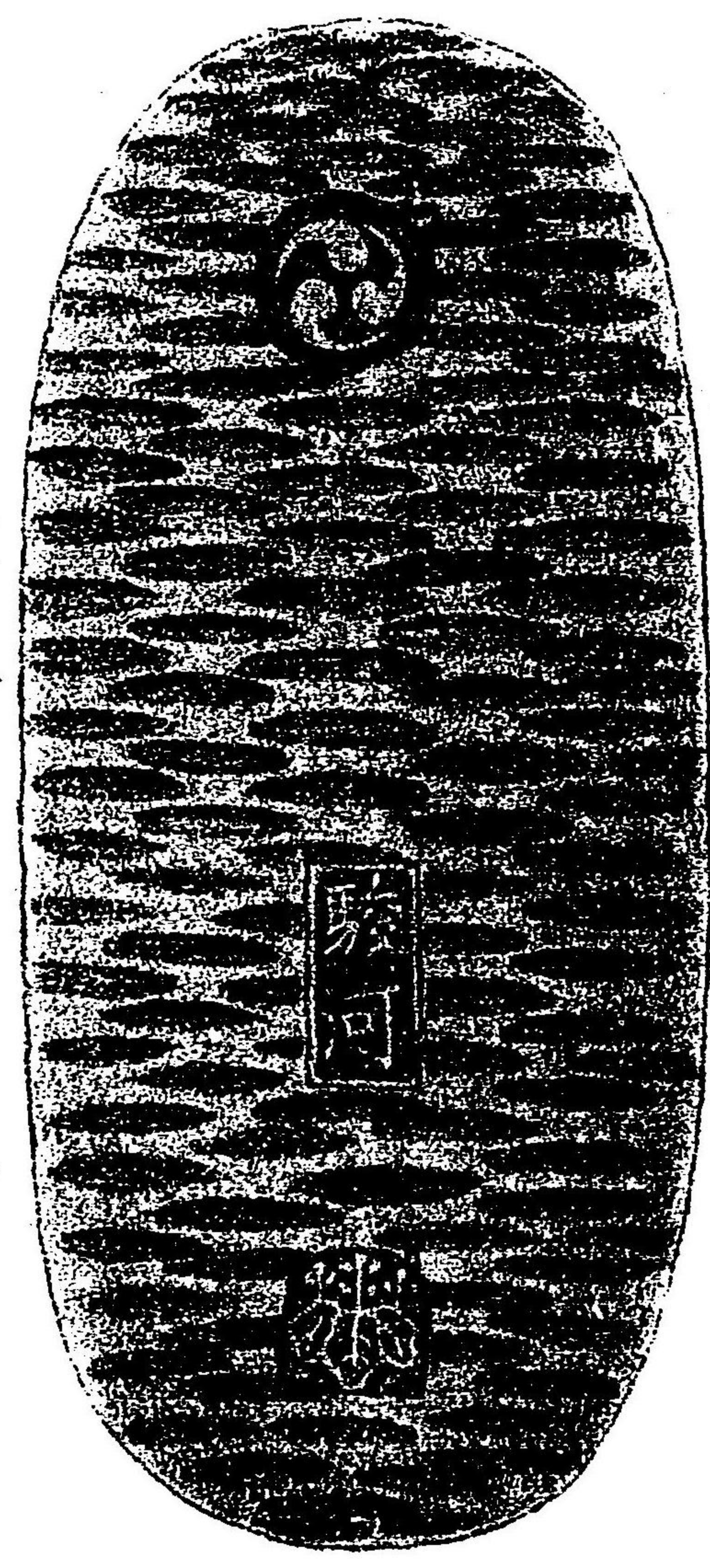
謹按右ノ銀判數種ハ三貨圖彙ニ其圖ヲ
載セテイハク文祿中徳川氏ヨリ豊臣氏

ニ贈リタル白銀三千枚ハ是ナラントナ

駿河所造黄金五兩判

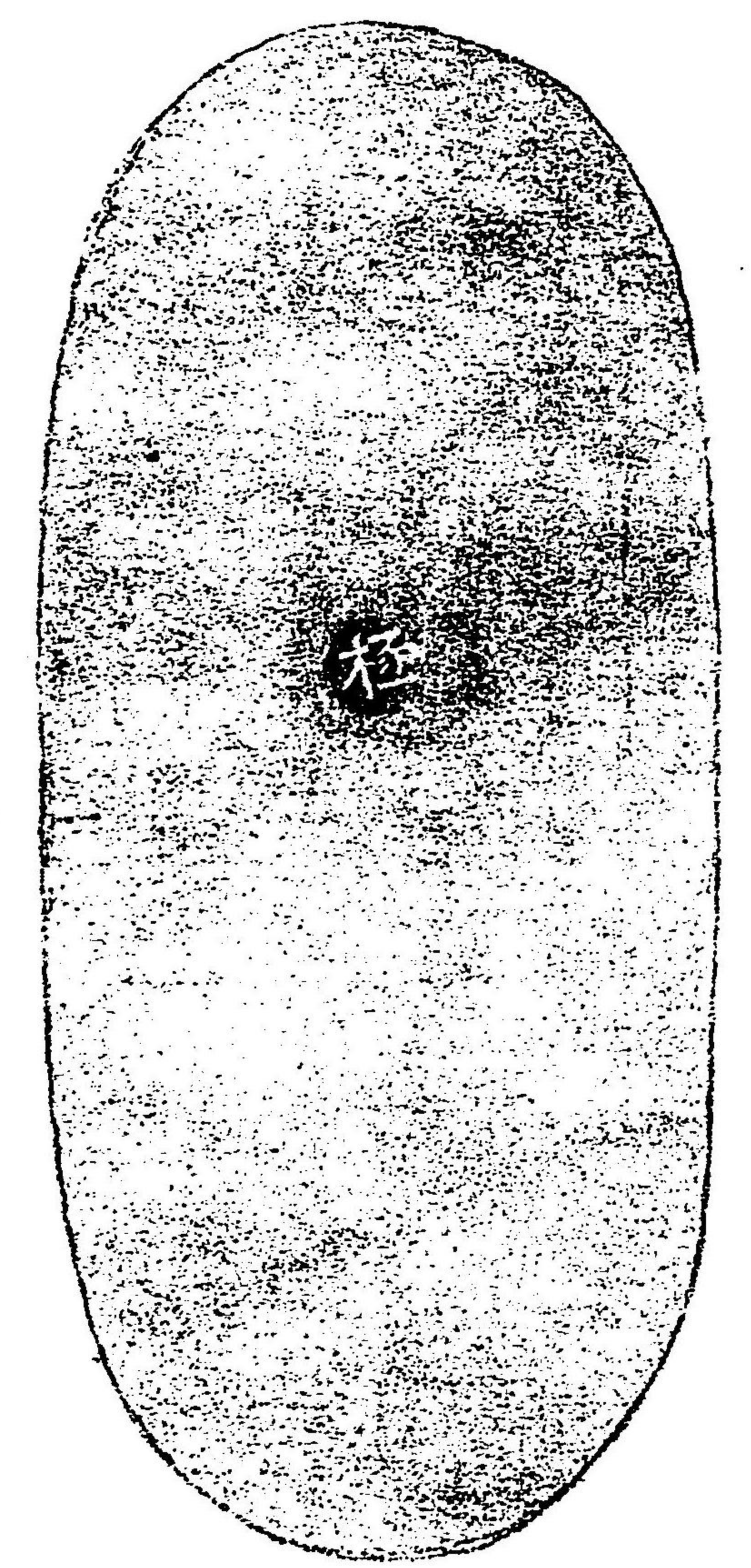
縦三寸七分五厘
横壹寸六分九厘
重貳拾貳錢

面



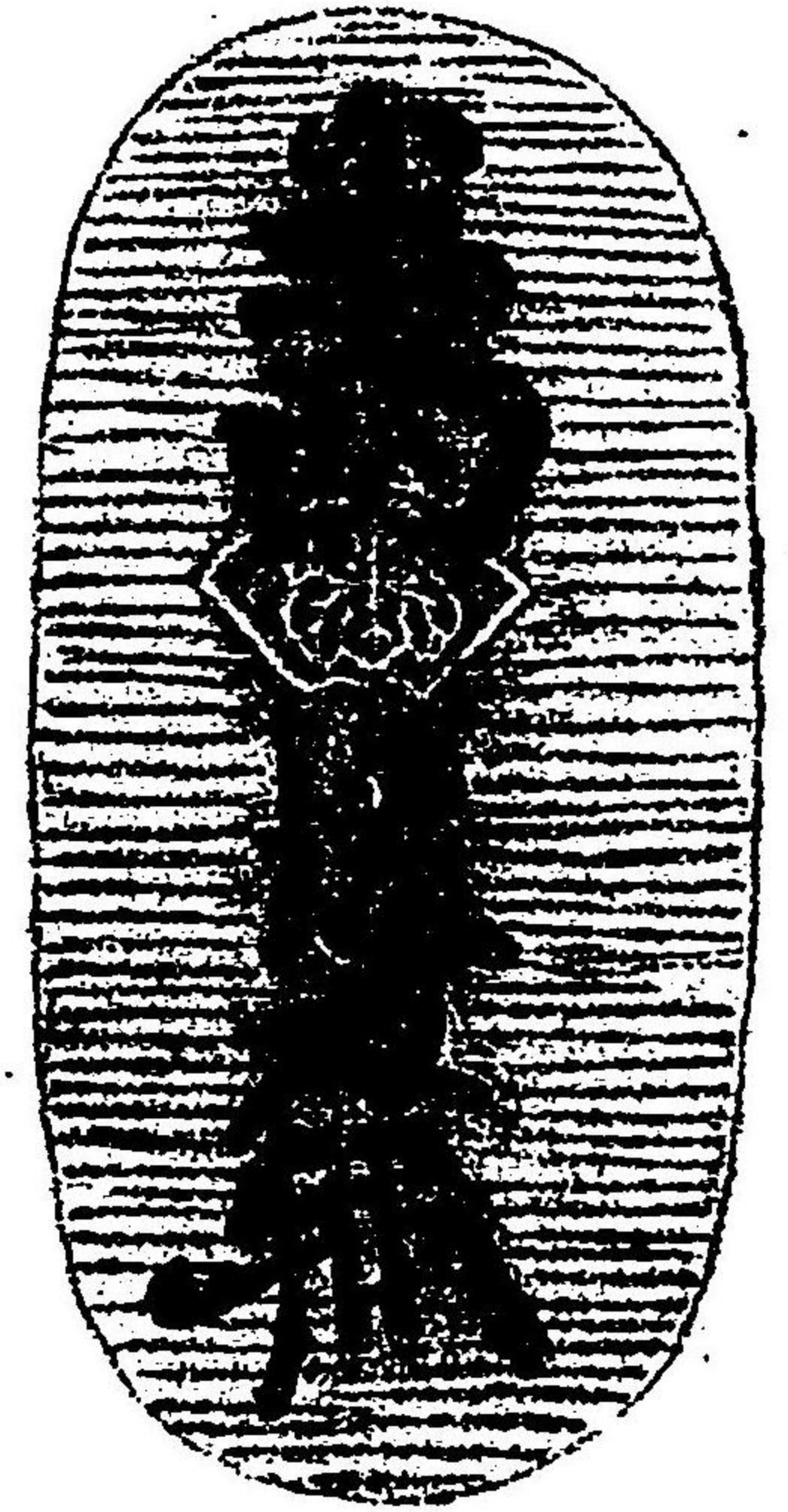
三貨圖彙所掲
圖ナリ

背



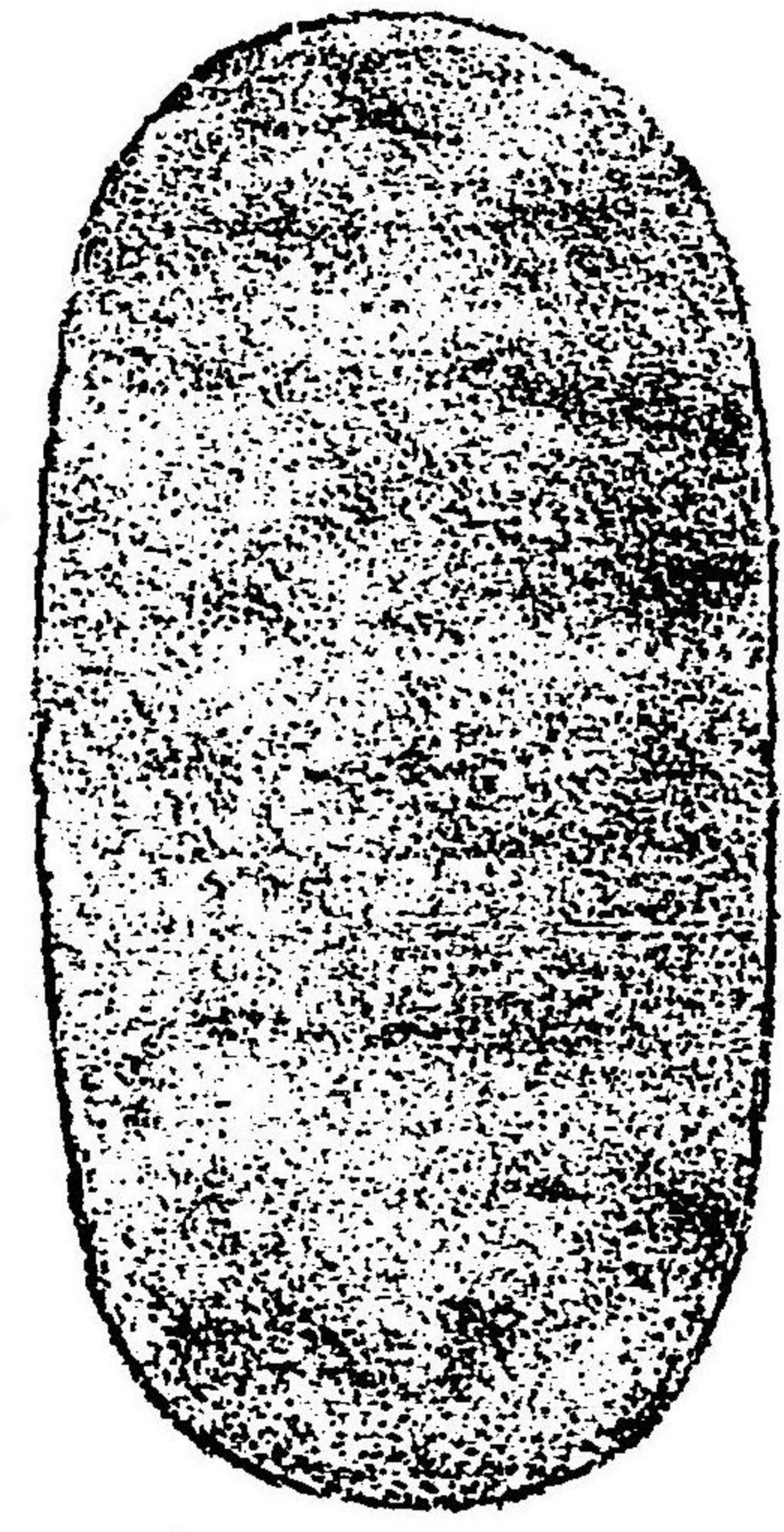
半兩判金

面



縱貳寸貳分
橫壹寸壹分
重貳匁四分

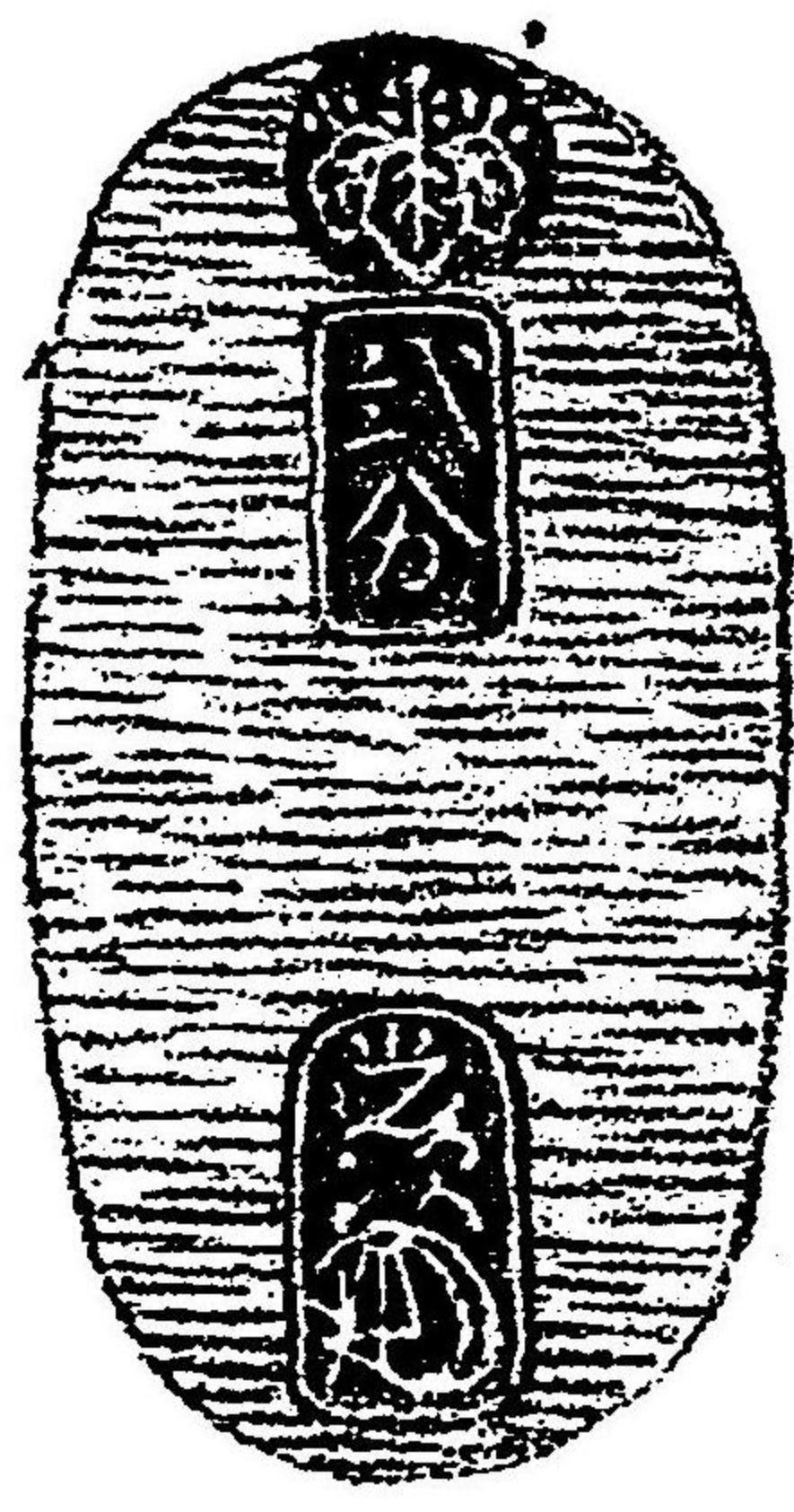
背



三貨圖彙所掲
圖ナリ

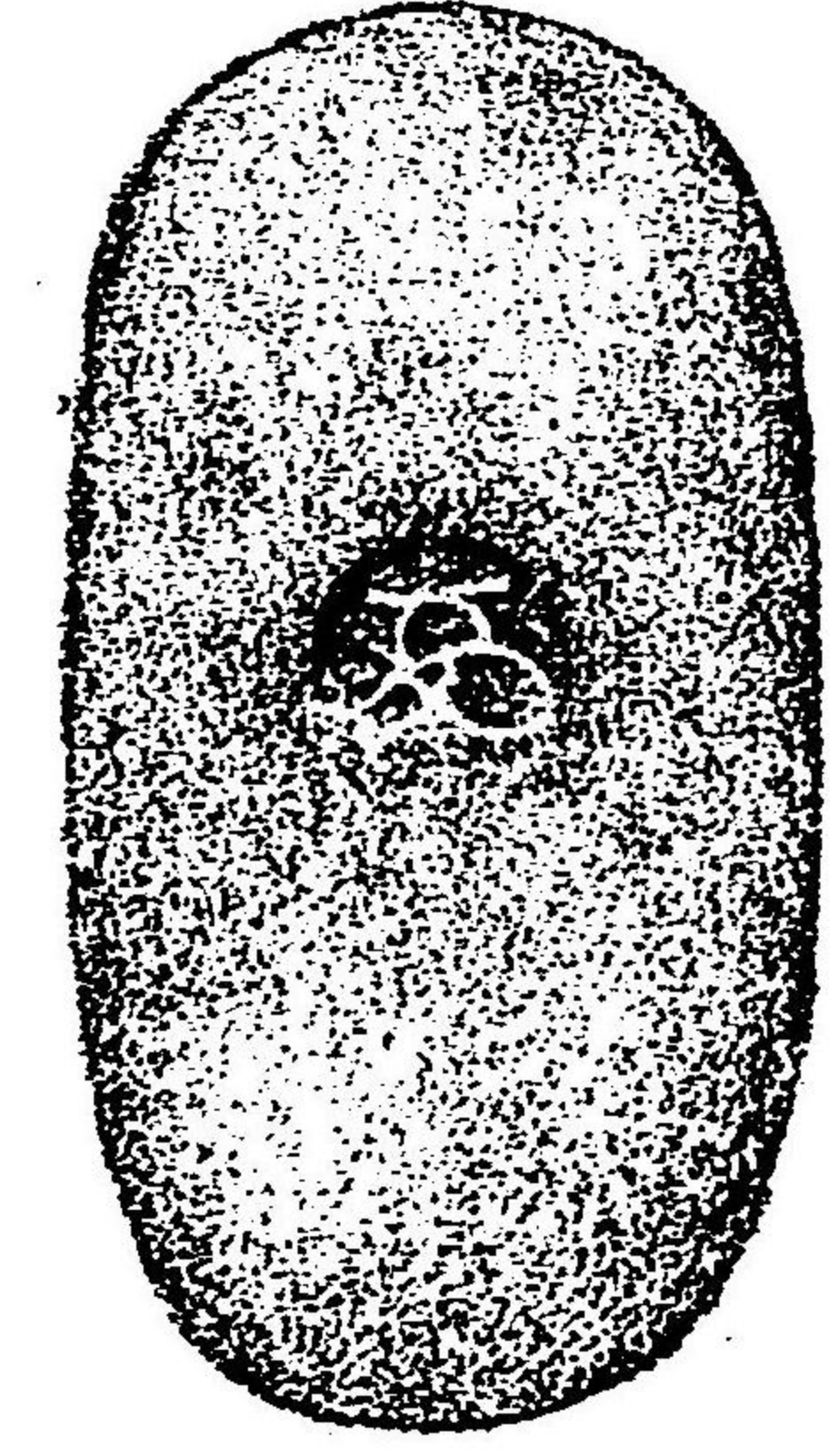
太閤貳分判金

面



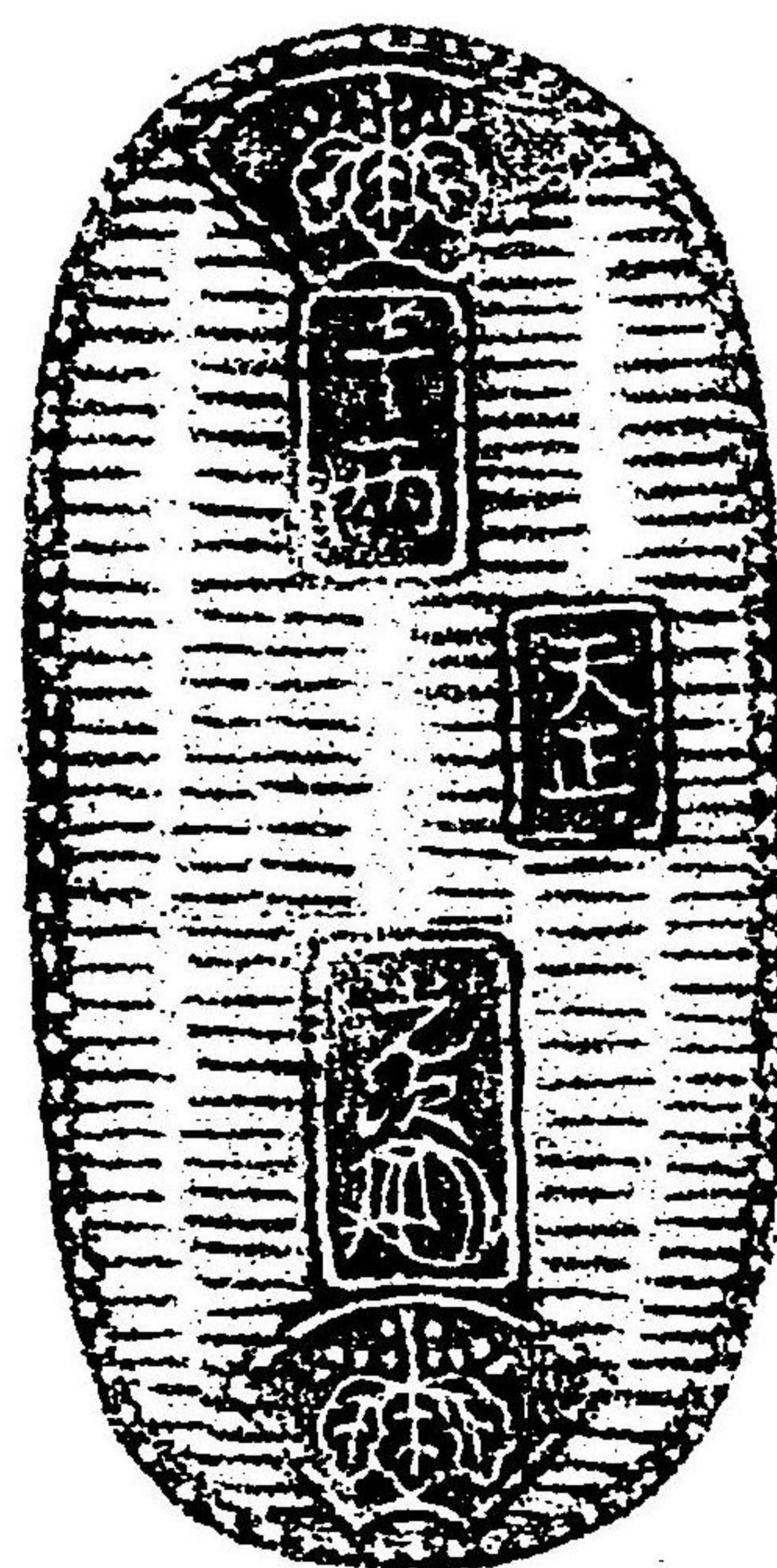
縱壹寸七分五厘
橫九分五厘
重貳匁四分

背



造幣寮所藏ノ品
ナリ

天正小判金



面



背

縦 貳寸貳分
横 壹寸壹分
重 四匁壹分五厘

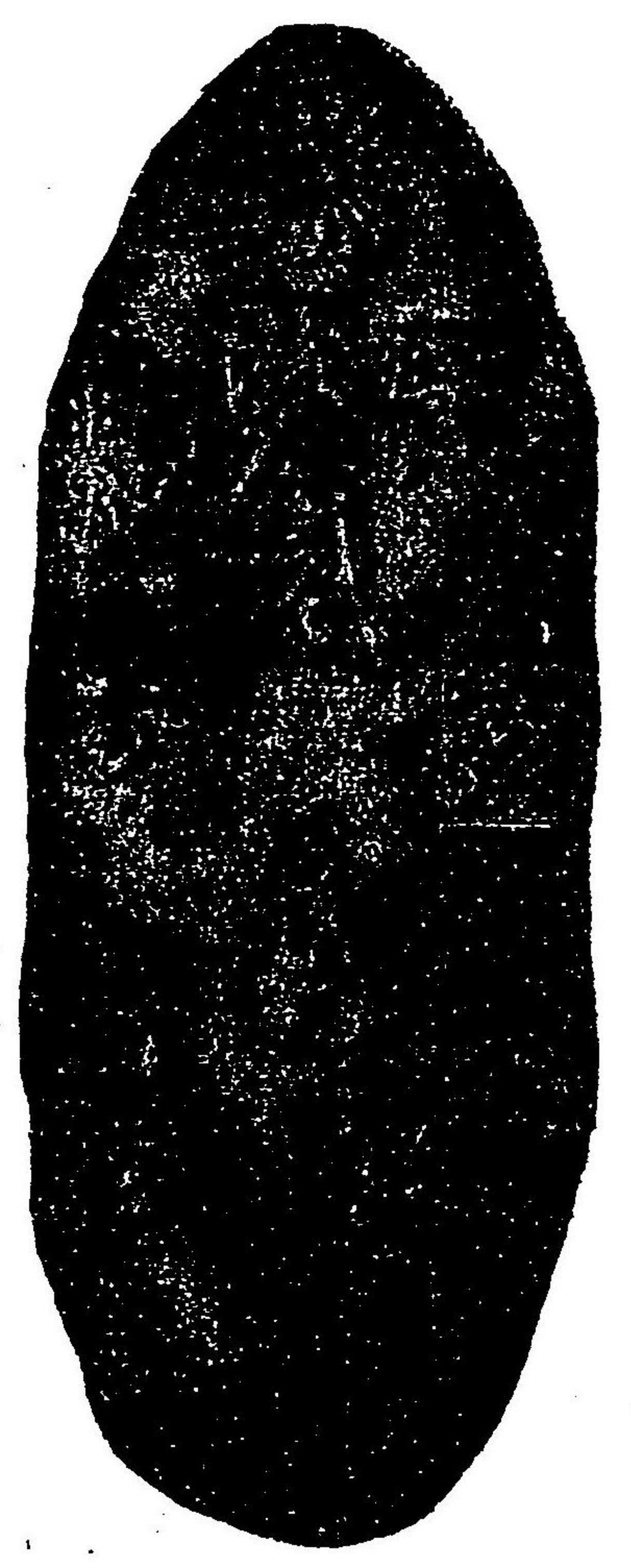
小野組所藏ノ品
ナリ

謹按右天正小判金圖ハ古貨幣ヲ記スル
ノ書ニ大抵之ヲ天正小判金トイフ然レ
トモ先輩之ヲ論シテ是ハ正徳金ヲ摺リ
其縁ニ小丸ヲ打チ天正二字ヲ添ヘ打チ
タルナルヘシトイヘリ其論ノ當否未決
ユヘ姑ラク茲ニ載ス

古丁銀

縱三寸貳分
横壹寸貳分
重四拾三錢

面



背



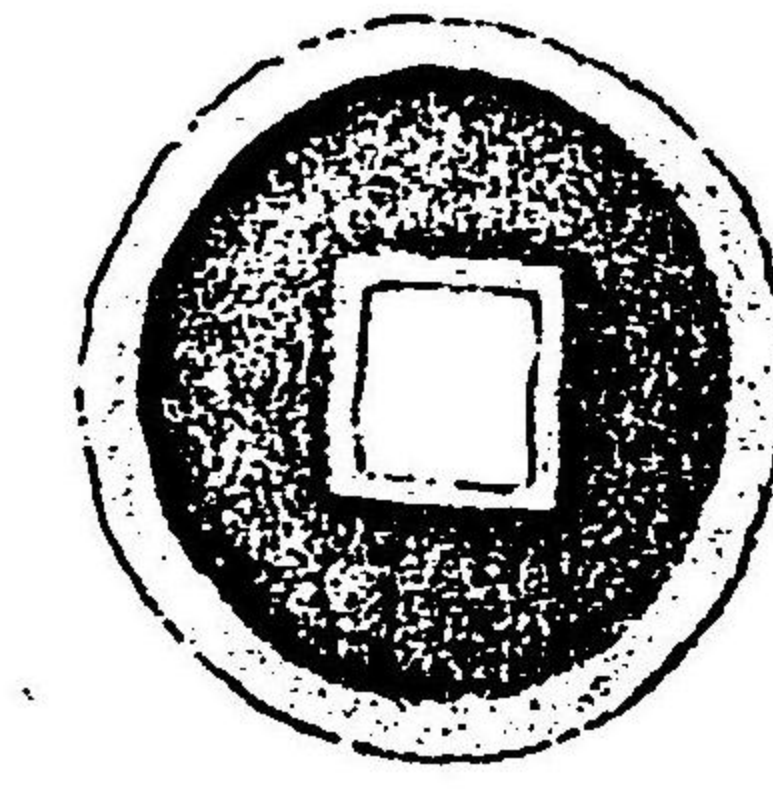
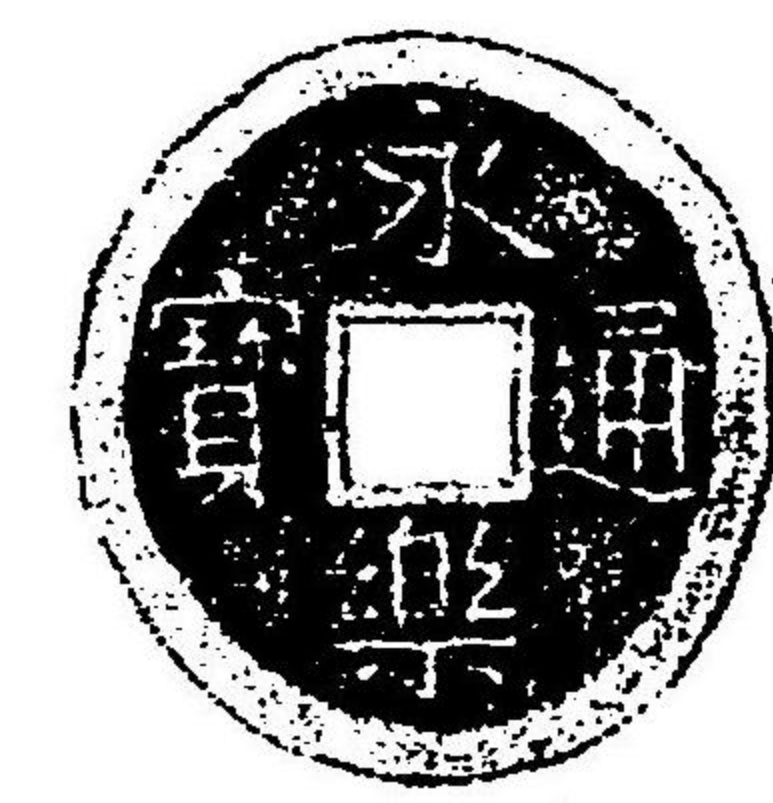
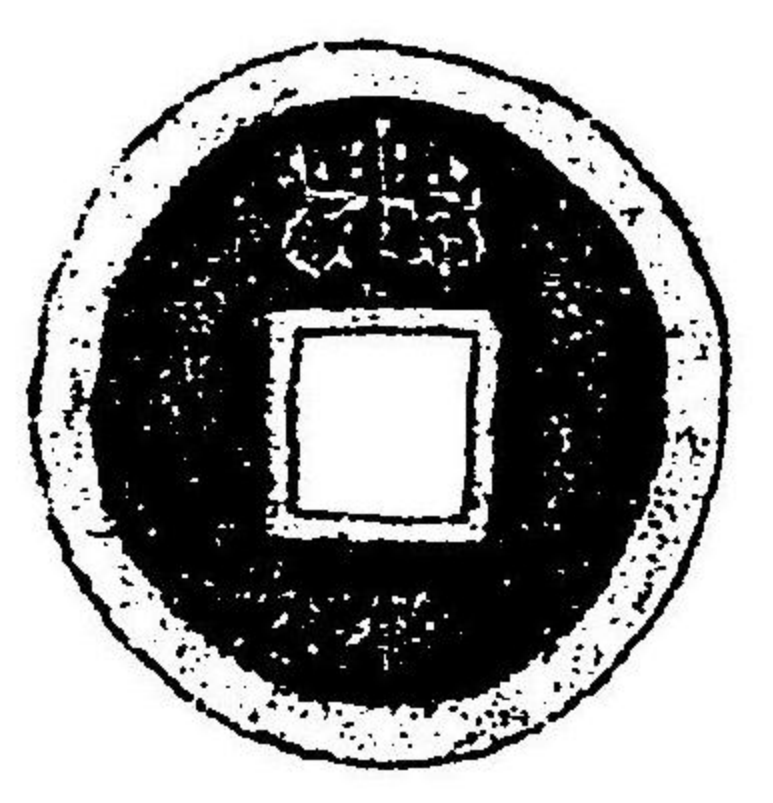
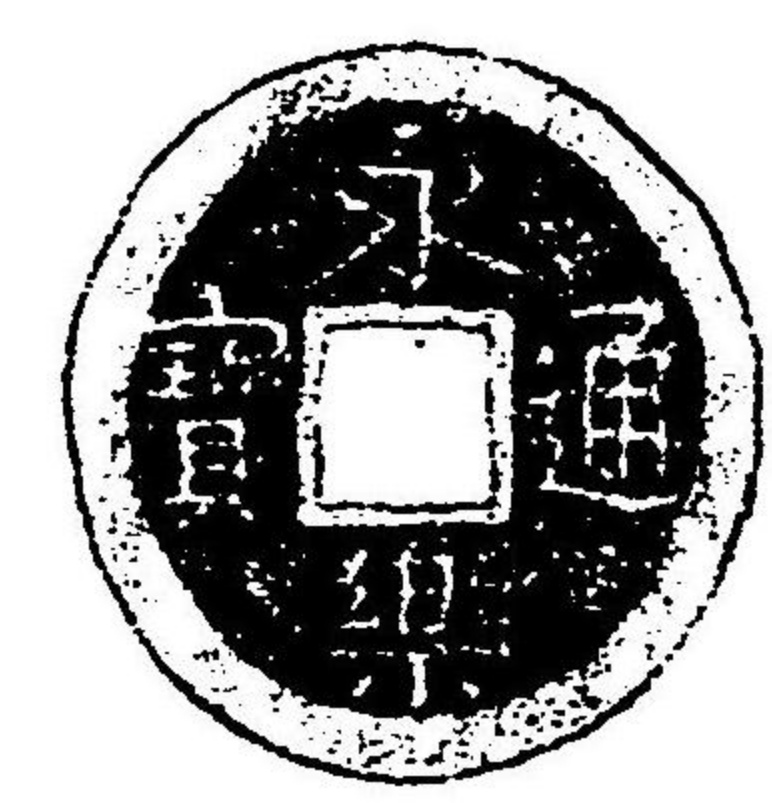
三貨圖彙所掲
圖十リ

謹按右ニ載スル丁銀ハ三貨圖彙ニ其鑄
造ノトキヲ論シテ足利氏ノモノナルヘ
シトイヘリ然レトモ其論明確ナラス今
此圖ヲ見ルニ近世丁銀ノ制作ニ似タリ
是蓋シ天正ノ頃ノモノニテ近世丁銀ノ
制作ノ基スル所ナラン因テ所造ノ年代
未審ナレトモ茲ニ載セ以テ其基スルト
コロヲ示ス

大坂府人成田善
兵衛所藏ノ品ナリ

東京府華族某所
藏ノ品ナリ

永樂金錢

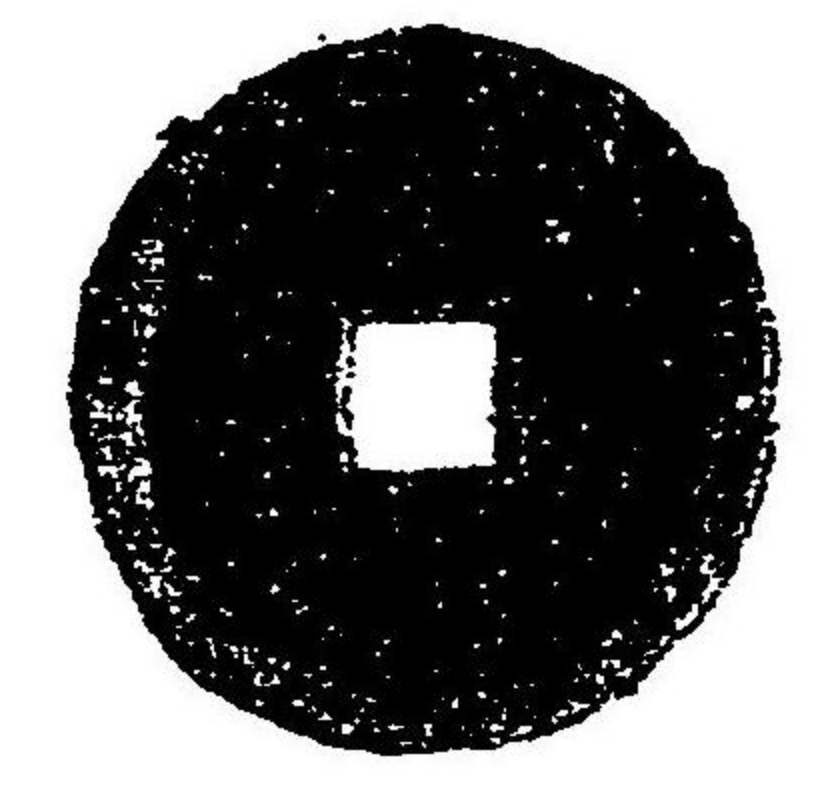
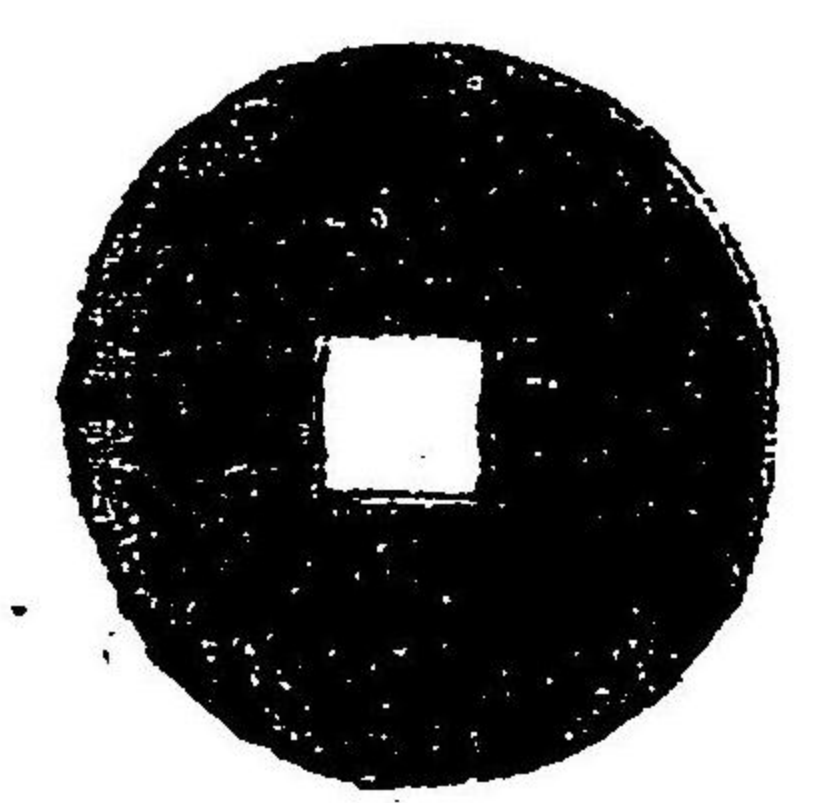


徑八分
重壹毫壹分強

徑八分強
重壹毫

東京府華族某所
藏ノ品ナリ

永樂銀錢



徑八分強
重壹毫壹分

謹接近藤守重筆記 天正十年武田勝頼

甲金オヨビ永樂ノ銀錢十五文ヲ人ニ與
ヘレコトアリト云ヘリ然レハ永樂銀錢
甲州ニアリレト見ユ又續本朝通鑑ニ天
正十八年秀吉金錢一緡ヲ授ケ勝軍ヲ祝
ストアリ又野史ニ秀吉每出銀錢ヲ一巨
囊ニ盛ルトアリ又三貸圖彙ニ永樂金銀
錢ハ豐臣氏ヲ始トシテ其他國々ニテ天
正ノ頃專ラ鑄造シ軍役賞賜ノ用ニ備ヘ
タリトアリ然レハ右永樂ノ金銀錢ハ天
正ノ頃ノモノナルヘシ因テ茲ニ載ス蓋

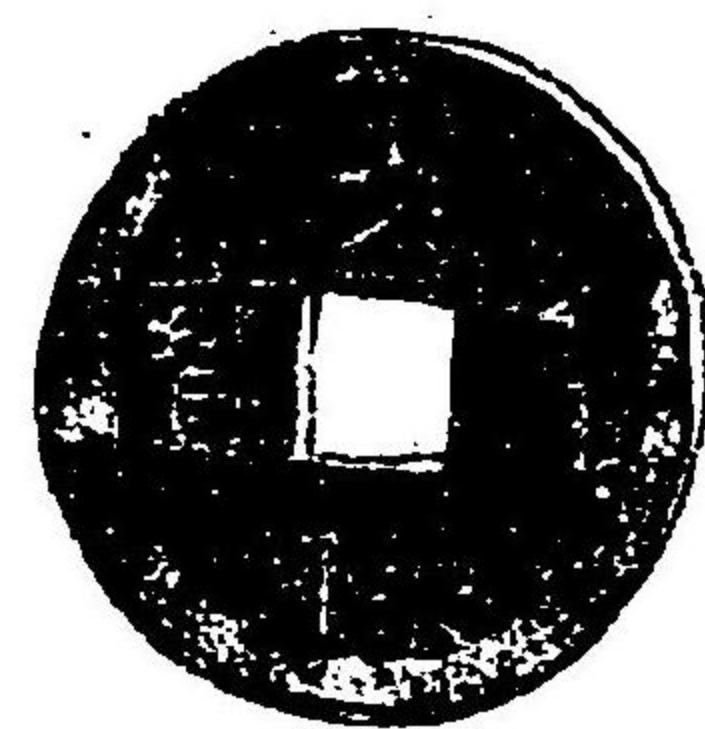
レ永樂錢甚タ多ク本朝ニ輸入セシニヨ
リ永樂通寶トイフコト極テ能ク人ノ耳
目ニ慣レシユヘ錢ヲ鑄ルコトアルトキ
ハ輒モスレハ永樂通寶ノ號ヲ用ヒシナ
リ永樂ノ種類極メテ多キモ之ニ因テ然
ルナルヘシ

辰士
文祿元年文祿通寶錢ヲ鑄ル銀錢及ヒ銅錢ナリ
是歲文祿通寶ノ銀錢及ヒ銅錢ヲ鑄ル

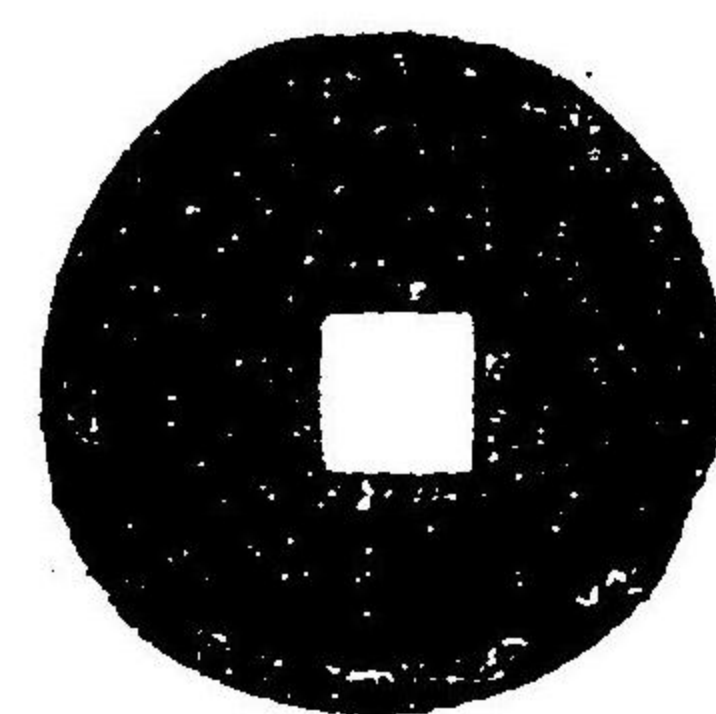
貨
鑑

銀錢

面



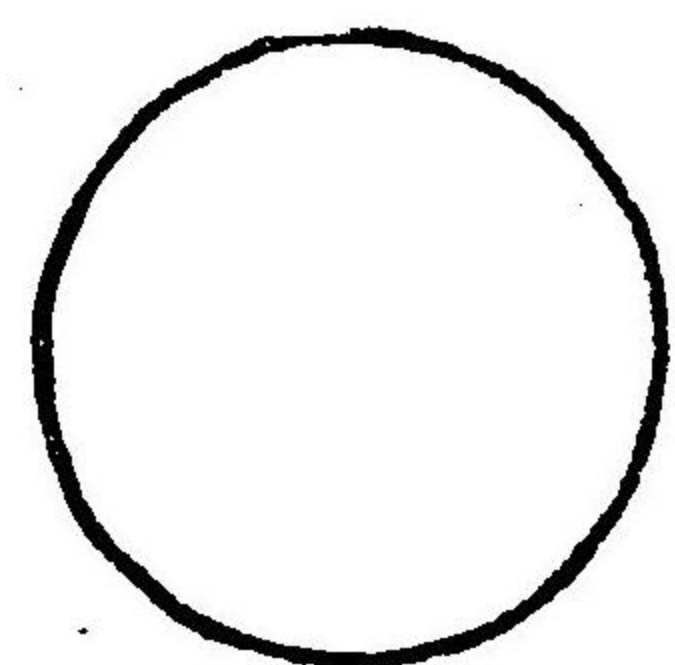
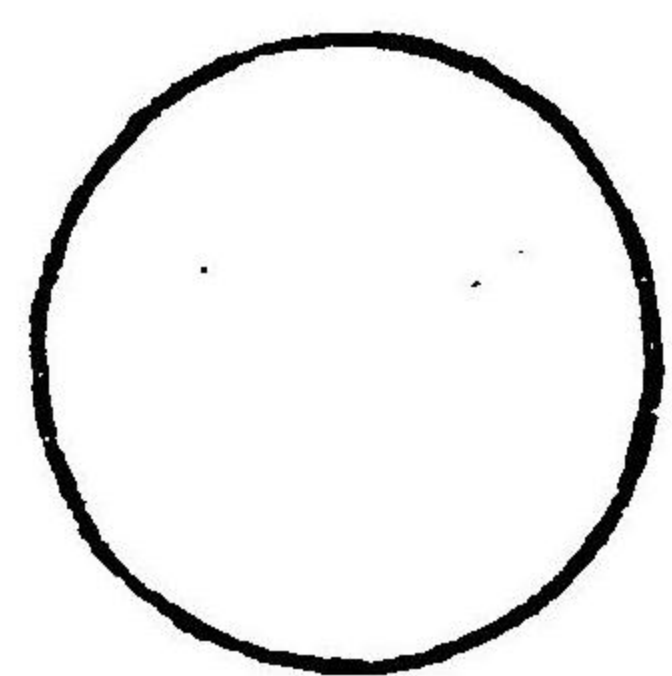
背



徑七分強
重未詳

室貨圖所掲ノ圖ナリ

銅錢



謹按右銀錢ハ一般ノ通用ナラバト思ル
レトモ前輩ノ説ニ從ヒ姑ラク載ス銅錢
ハ未タ其品ヲ見サレハ先ツ假リニ空圈

ヲ設ケ他日之ヲ獲テ補填セントス

未乙

四年駿河墨判小判金及ヒ武藏墨判小判金ヲ鑄造ス○額分判金ヲ造ル

是歳駿河江戸兩所ニ於テ小判ヲ造リ之ヲ駿河墨判武藏墨判トイフ
金吹方手續書 ○額分判金ヲ造ル
金吹方手續書

謹按小判始メハ墨ニテ花押等ヲ書シ慶長六年ヨリ墨判ヲ廢シ刻印ト爲シタリ
左ニ載セタル小判ハ墨ニテ書キシ品ナ

武藏墨判小判



面



背

縦貳寸
横壹寸貳分五厘
重四錢七厘

造幣寮所藏ノ品ナリ

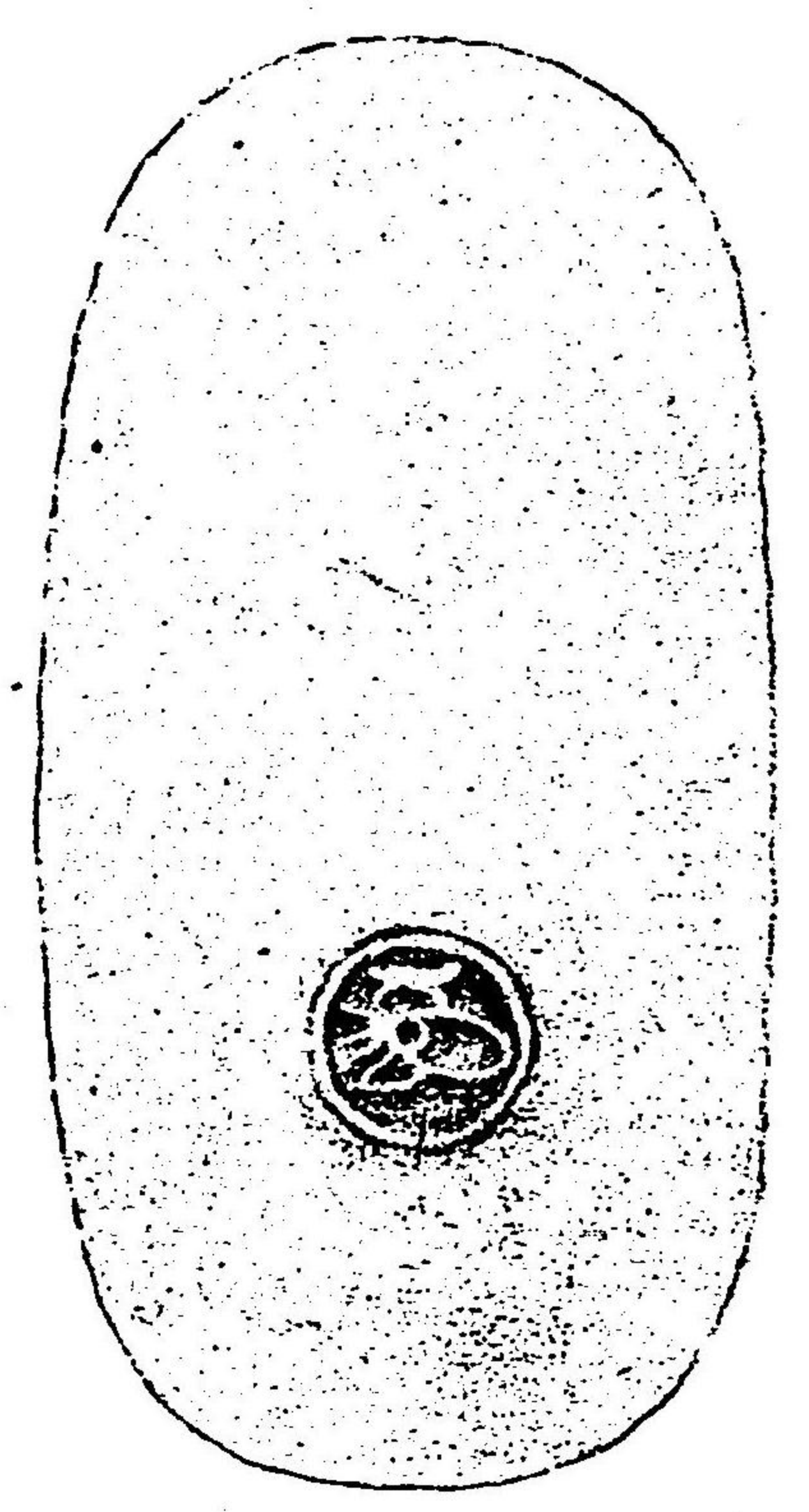
武藏墨判小判

宝貨圖所掲ノ圖
ナリ

面



背



縱貳寸五分
横壹寸貳分五厘
重未詳

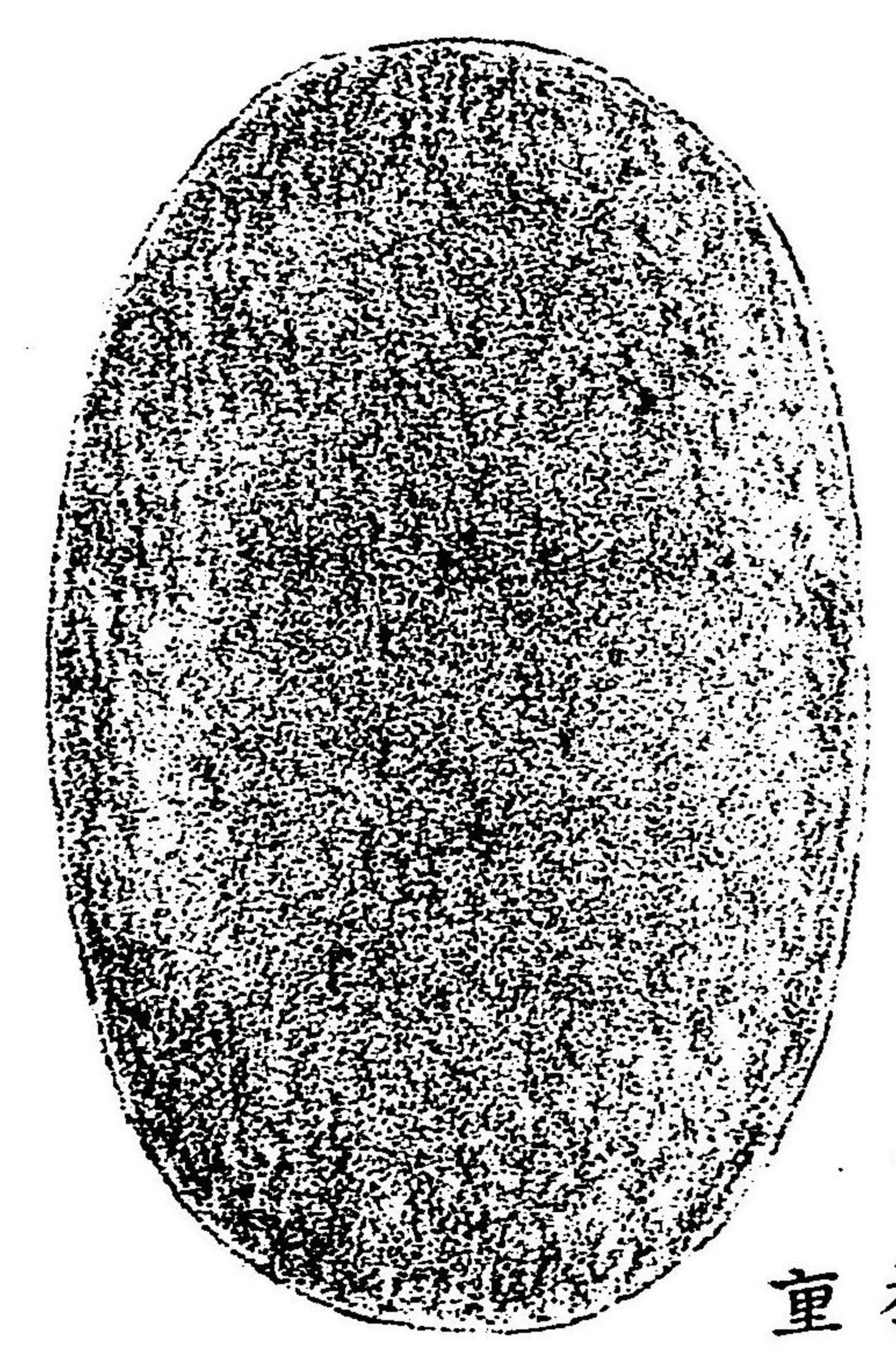
駿河墨判小判

宝貨圖所掲ノ圖
ナリ

面



背



縱貳寸五分
横壹寸六分五厘
重四錢貳分五厘

謹按小判ハ早ク墨書ヲ停廢シタリ然レ
トモ大判ハ舊幕ノホニ至ルマテ墨書ノ
マ、ナリ

亥己

慶長四年一分判金ヲ造ル
是歲一分判金ヲ造ル寶貨
事畧

太坂壹分金



縱六分強
横三分九厘
重壹錢貳分

東京府華族某所
藏ノ品ナリ

東京府華族某所
藏ノ品ナリ

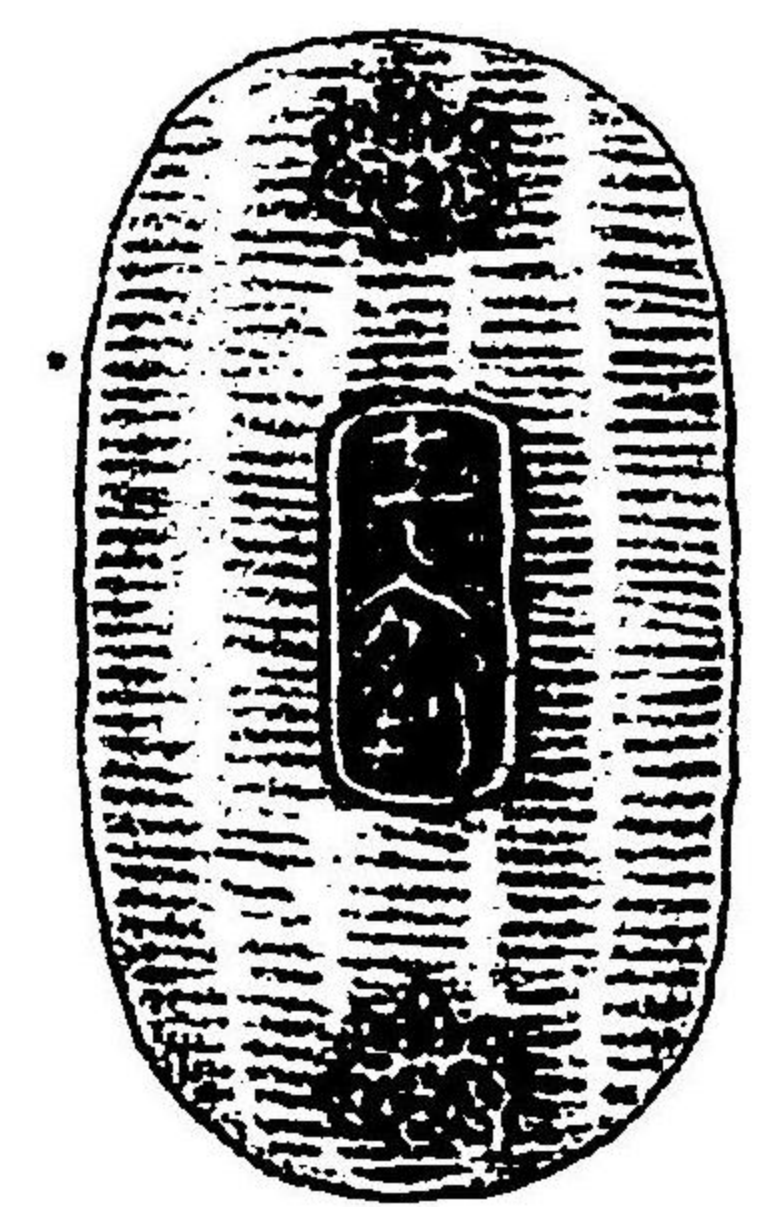


同

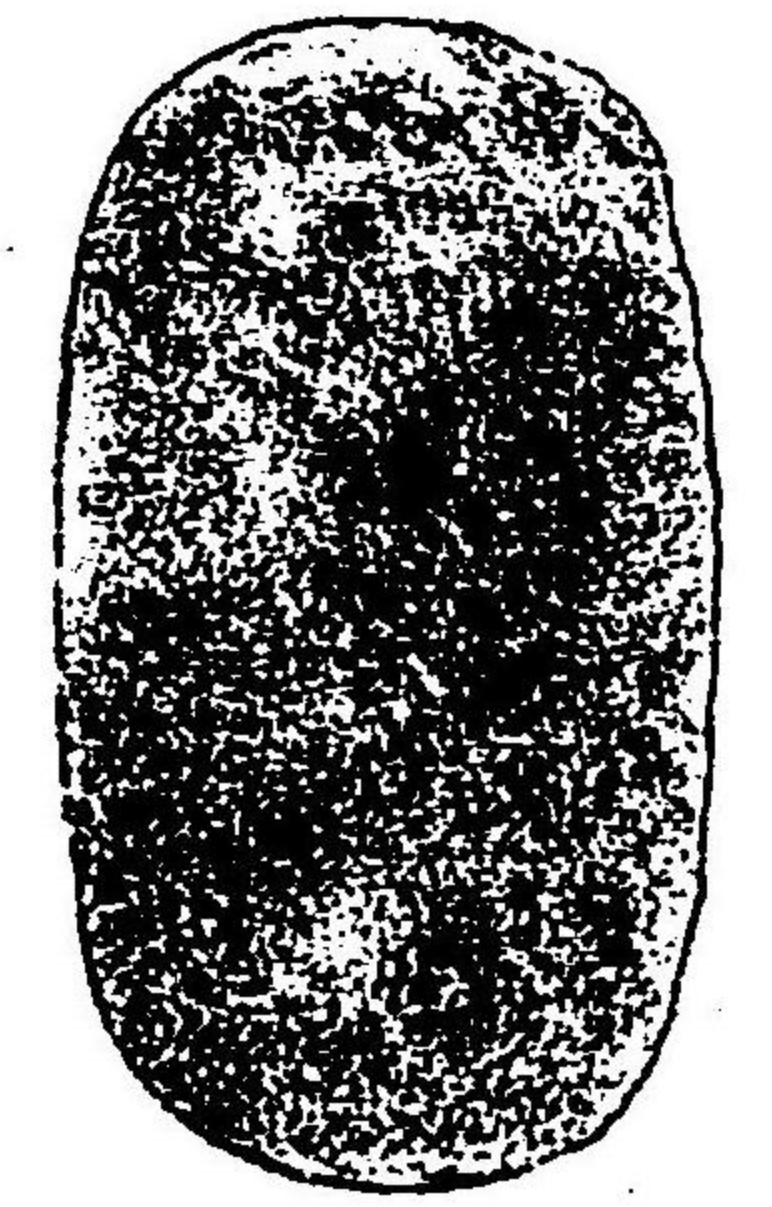


縱六分強
横三分五厘強
重壹錢壹分五厘

離九桐壹分判金



面

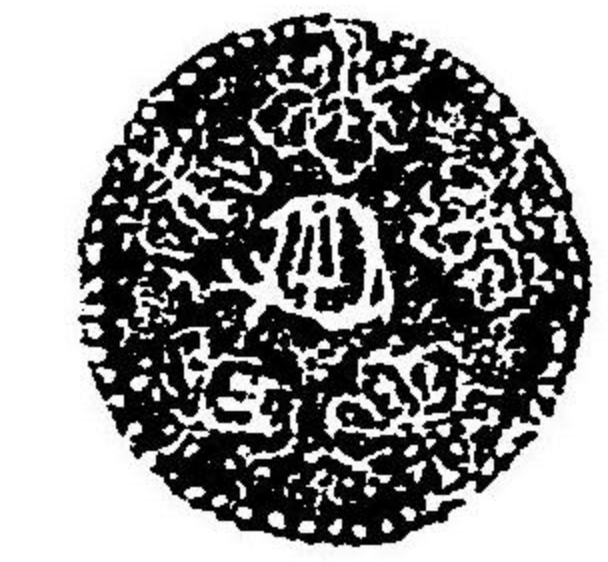


背

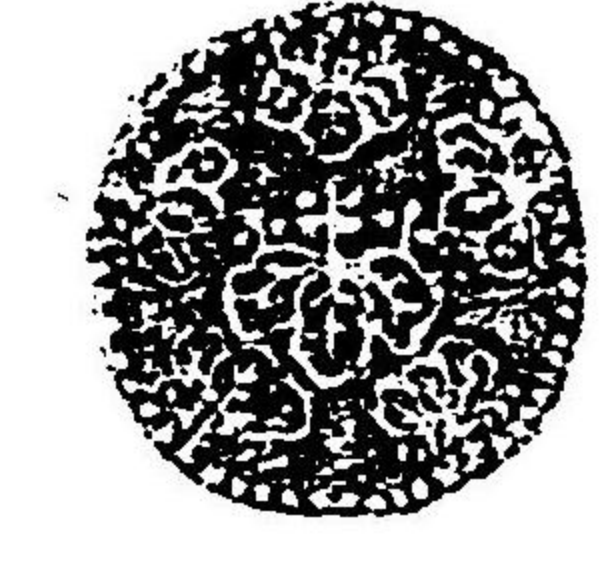
縱壹寸三分五厘
横七分五厘
重壹錢貳分

造幣寮所藏ノ品
ナリ

圓壹分判金



面



背

徑六分
重壹錢貳分五厘

造幣寮所藏ノ品
ナリ

丑辛

六年始メテ銀座ヲ置ク○是歳ヨリ佐渡石見多ク金銀ヲ出ス○大判金小判金一分判金等ノ制ヲ改正ス

是歳是ヨリ先キ灰吹銀行ハレ銀定價ナシ末吉利方曰ク銀價不定ナレハ物價均一ナラス其制ヲ定ムヘシト因テ始メテ銀座ヲ置キ利方ヲ長トシ後藤光次ト共ニ之ヲ管セシム徳川

○是歳ヨリ佐渡石見二國多ク金銀ヲ出ス實記○大判金小判金一分判金丁銀豆板銀等實貨ノ制ヲ改正ス實貨

謹按慶長金ノ簿冊ハ明曆ノ回祿ニ罹リテ烏有トナリタレハ其總額ハ知ル可ラス然レトモ舊貨幣表ニ海外輸出并改鑄ノ總額ヲ計レハ慶長小判一分判ノ鑄造總額大凡千四百七十二萬七千零五十五兩ナリトイヘリ而シテ舊幕ニテ之ヲ改鑄シタル額千零五十二萬七千零五十五兩ナリ又同表ニ慶長大判鑄造ノ額モ簿冊烏有トナリタレハ據ル所ナケレトモ今推考スルニ元祿大判ヨリ多カルヘシ

トイヘリ

慶長金銀貨鑄造年限ハ慶長ヨリ元祿マ
テナリ而シテ其通用ハ元祿七年停止又
正徳四年ヨリ享保三年マテ比較法ヲ以
テ再々通用

慶長金銀貨ハ京江戸駿河佐渡ニ於テ之
ヲ鑄造シタルナリ且又甲州鑄造ノ小判
モ亦之アリ

大判金ニアル十兩後藤ノ字并花押ハ墨
ニテ書キレナリ而シテ舊幕ノトキハ之

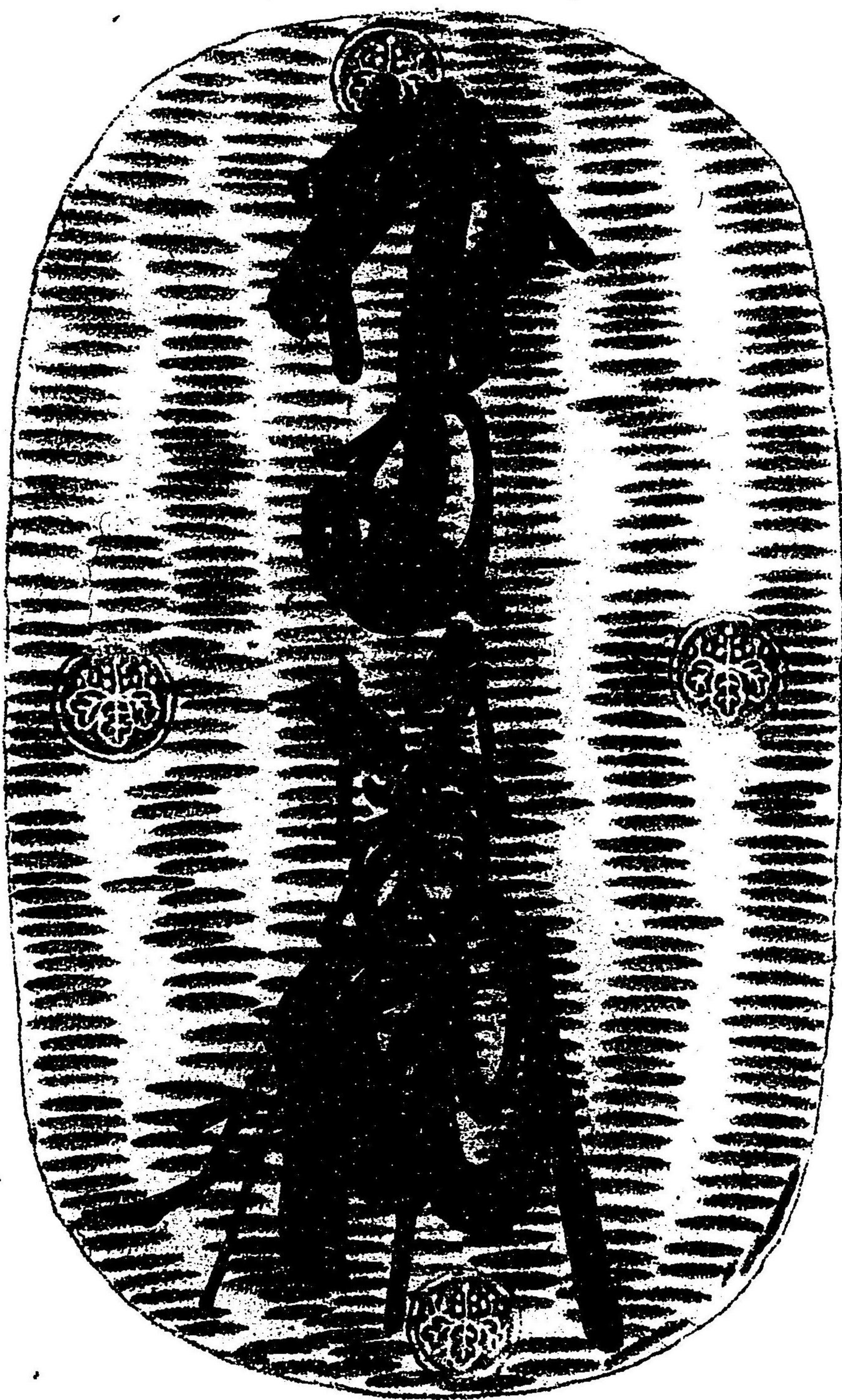
ヲ有スル人若レ誤テ墨書ヲ消シ又ハ損
スレハ後藤ノ家ニ持テ往キ更ニ改メ書
セシムルニアラサレハ通用セズ而シテ
其書キ改メノトキ後藤へ改書價ヲ與ヘ
レコトノ慣例アリレナリ故ニ之ヲ有ス
ル人ハ綿布等ニテ之ヲ包ミ手ニモ容易
スク觸レサル貨ト爲シタリ

慶長大判金

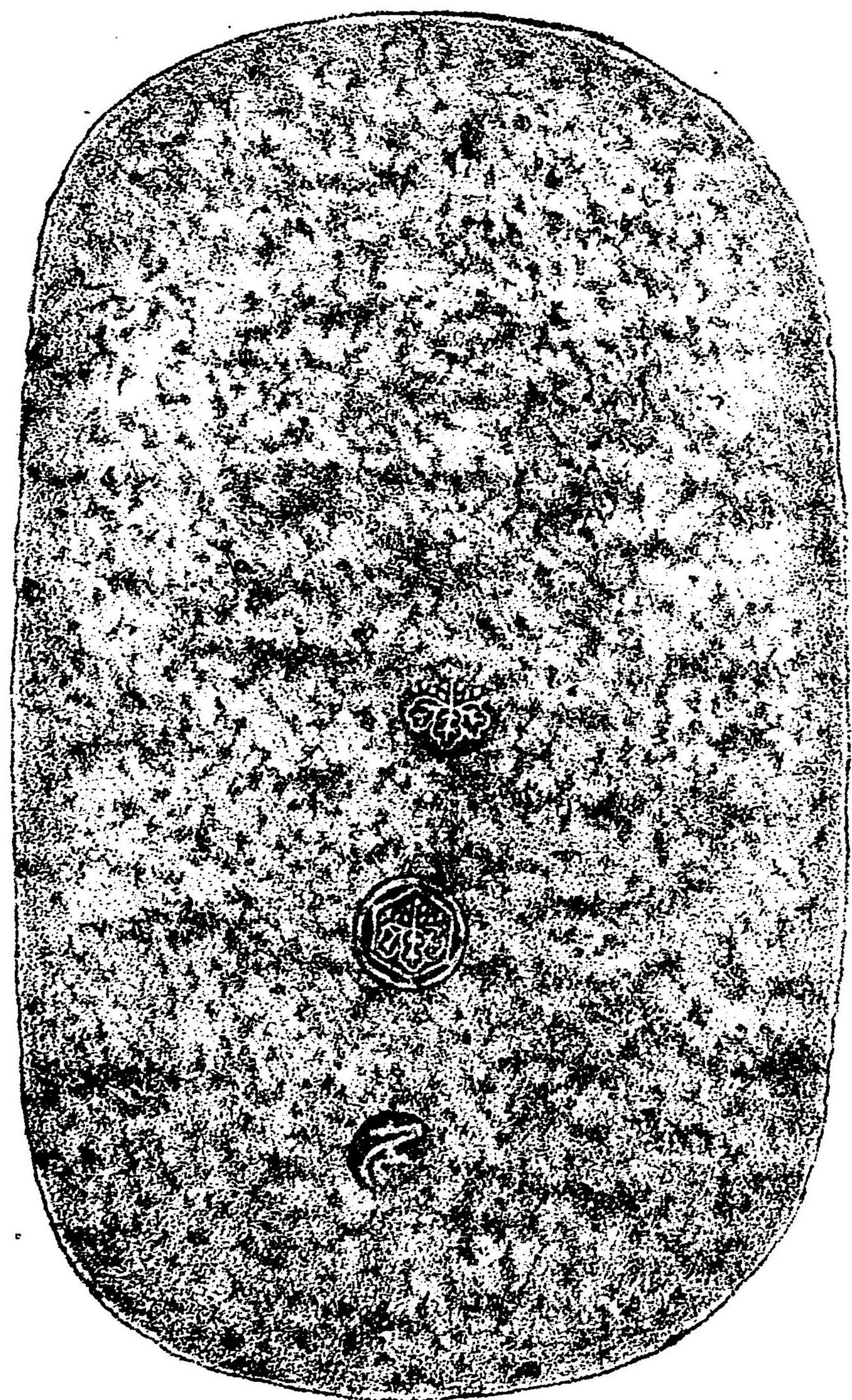
縱四寸八分五厘
横三寸零九厘弱

出納寮所有金ノ
内

面



背

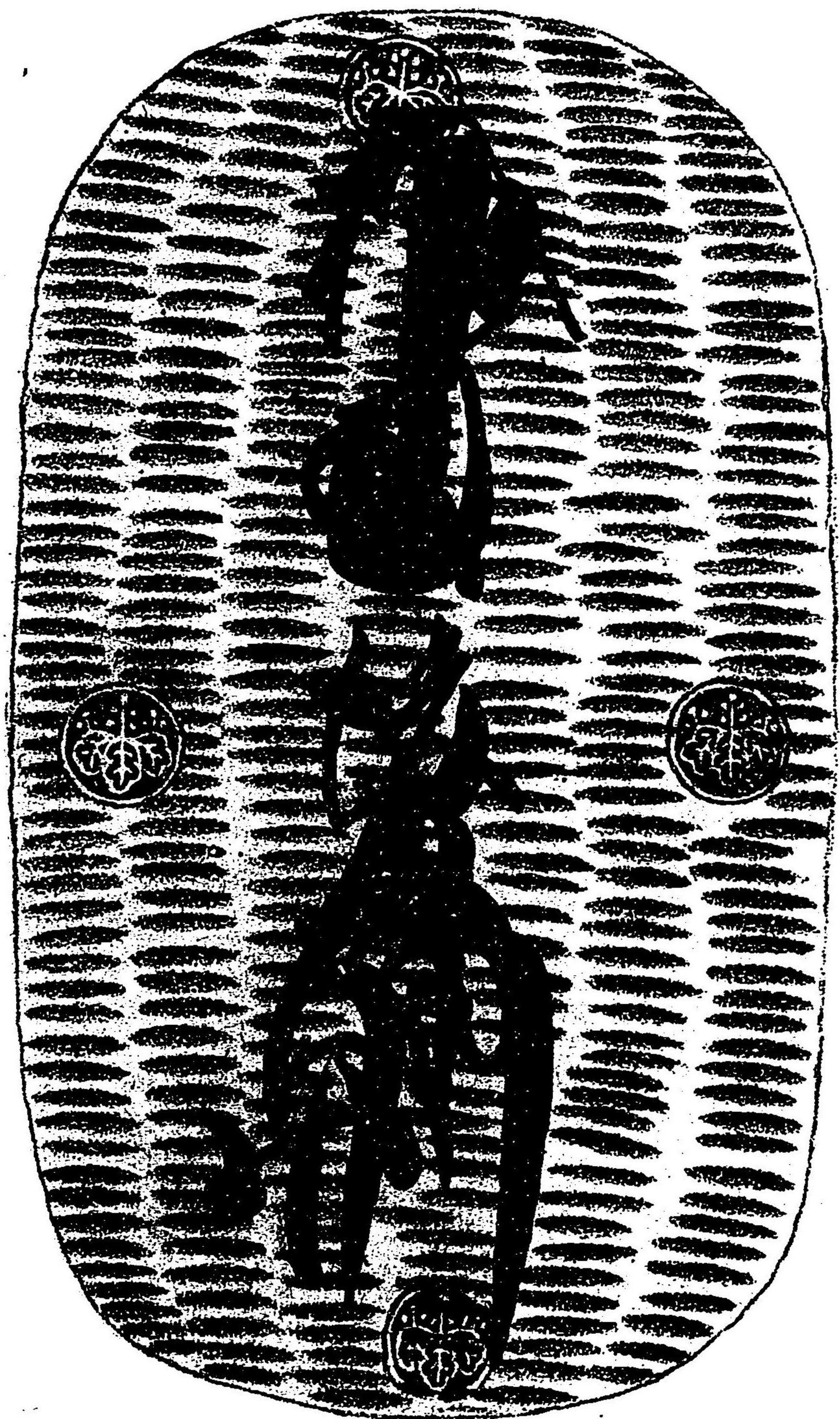


慶長大判金

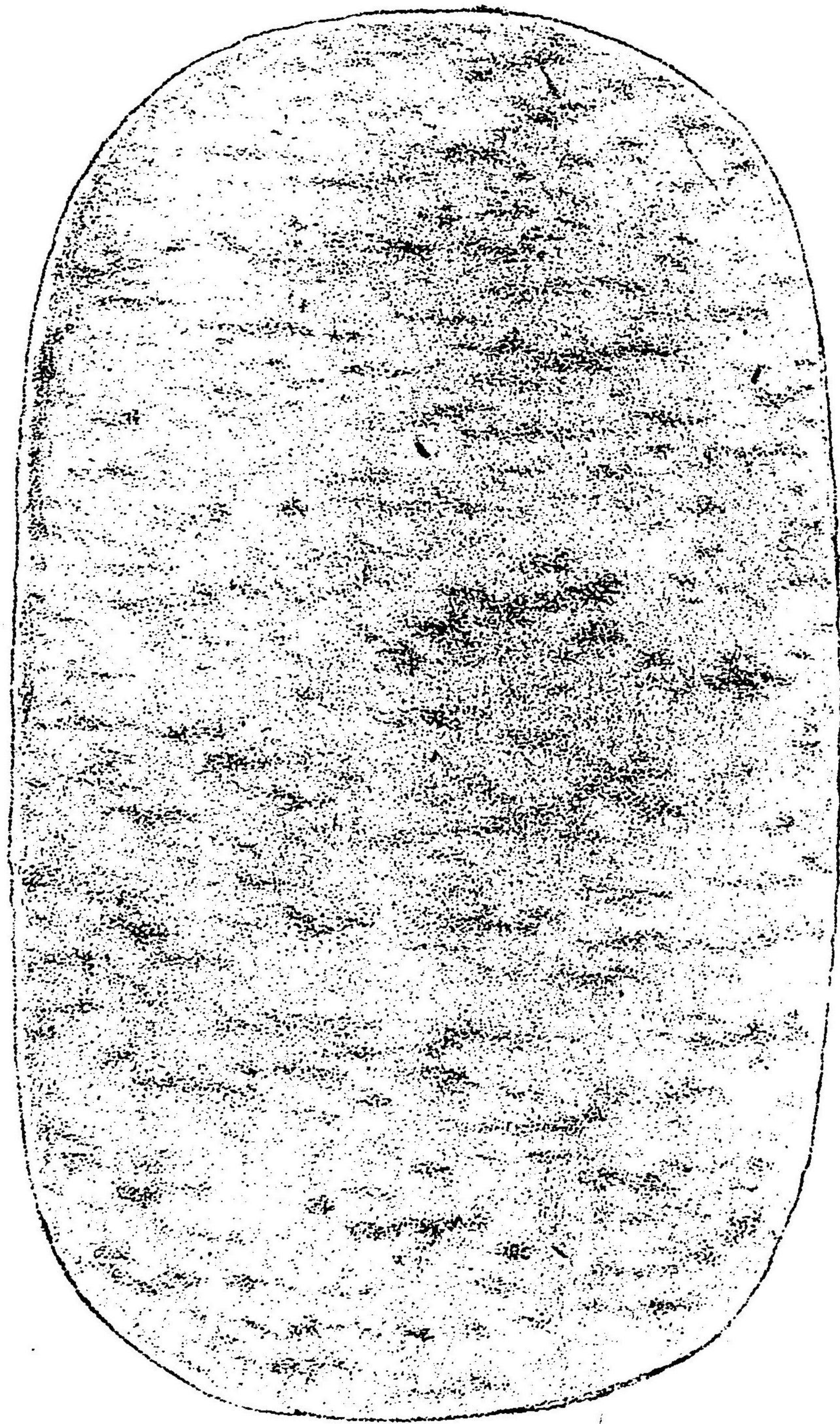
縦四寸七分五厘
横貳寸九分

造幣寮所藏ノ品
ナリ

面



背

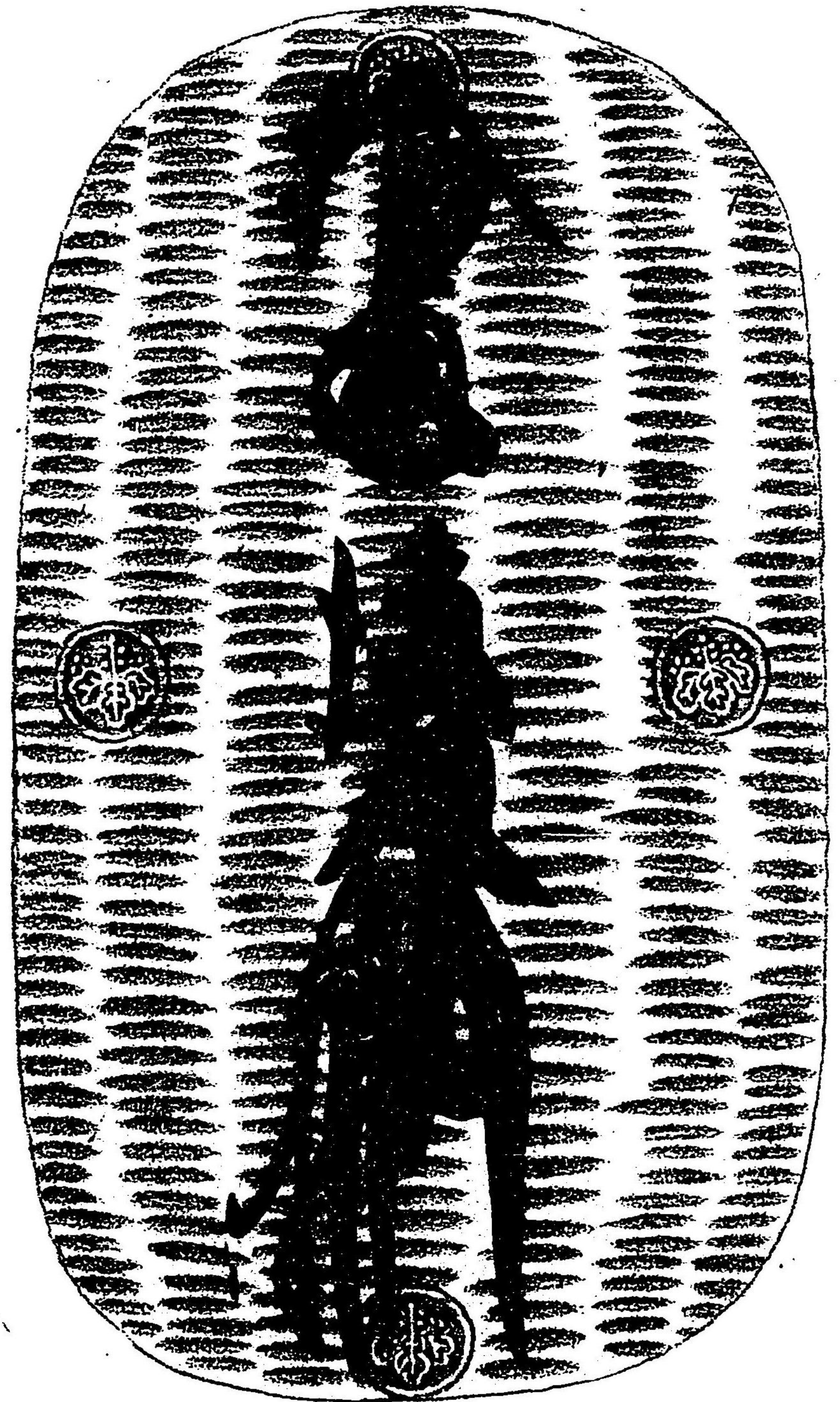


慶長六判金

縱四寸八分
横貳寸九分五厘

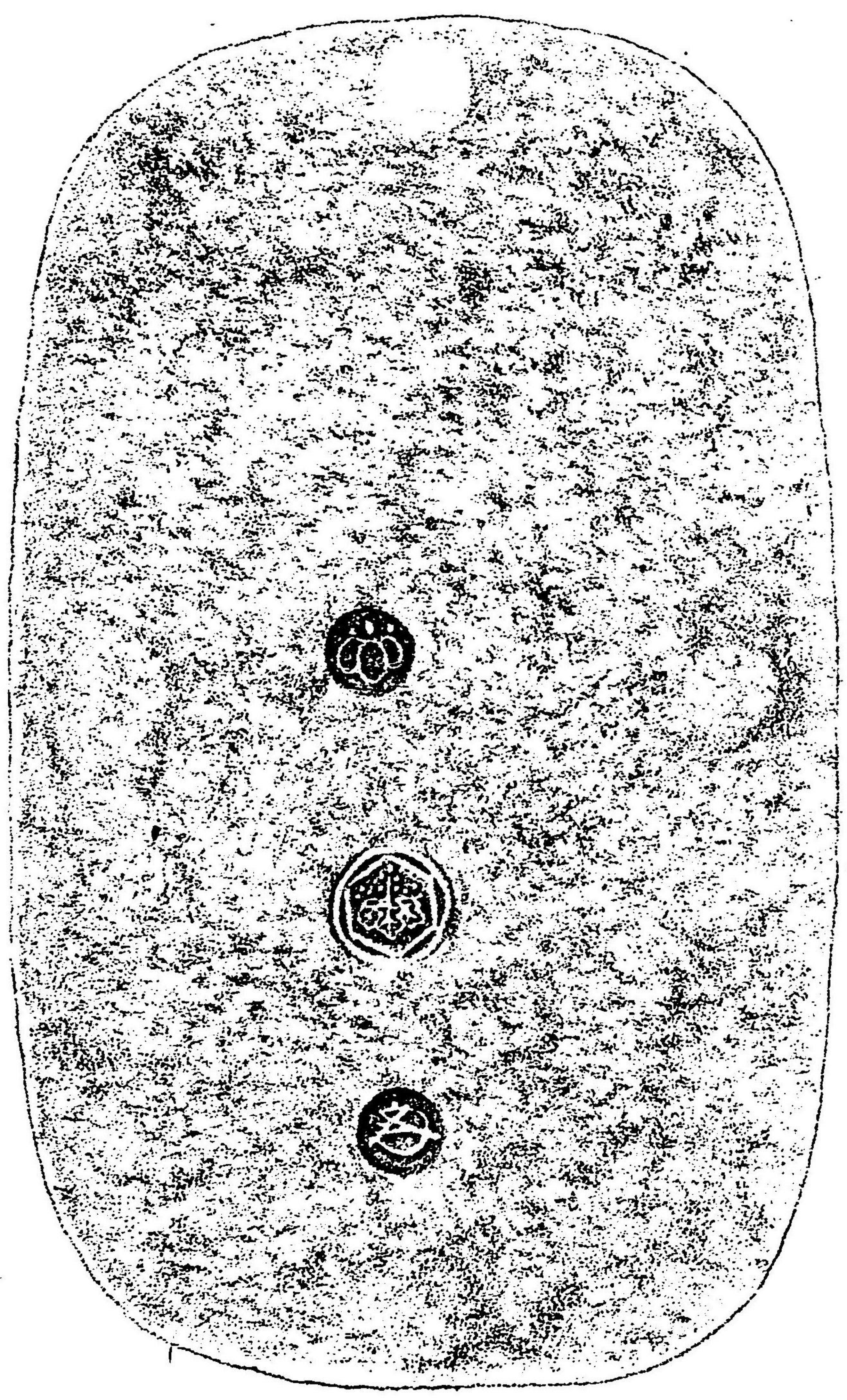
金銀圖錄所掲
圖ナリ

面



又

背



舊金銀貨幣價格表ニ據テ算スレハ慶長大判ノ價格左ノコトレ

一 慶長大判一枚 重四拾四錢零分五厘五二四七六

内 金三十九錢六分零厘五零五九八七二 位千分中 金六七二、零
銀十二錢九分五厘二一三三九四四 銀二九四、零
雜一考四分九厘七八七五零一八四 雜零三四、零

此新貨七十六圓十四錢七三九

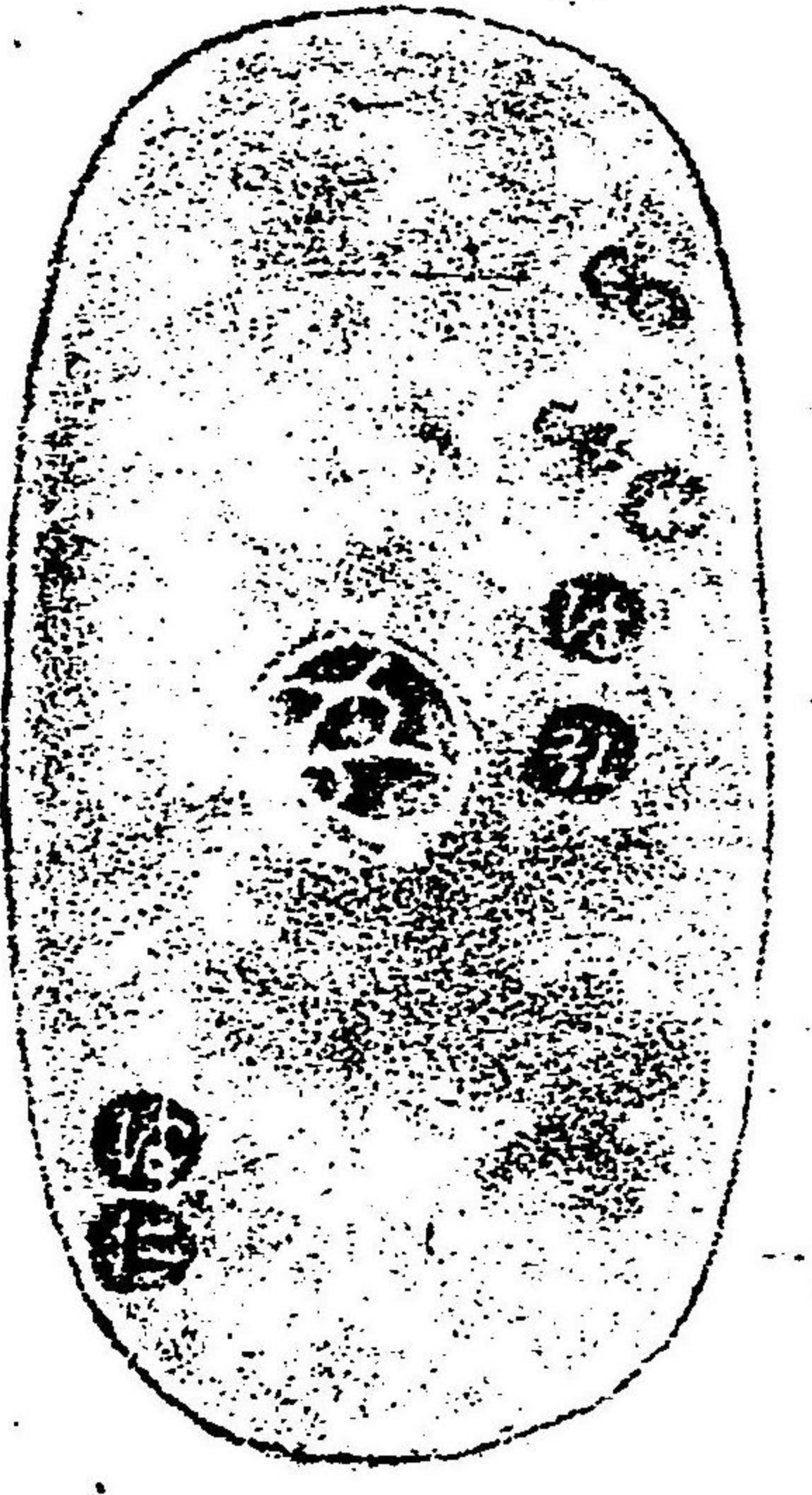
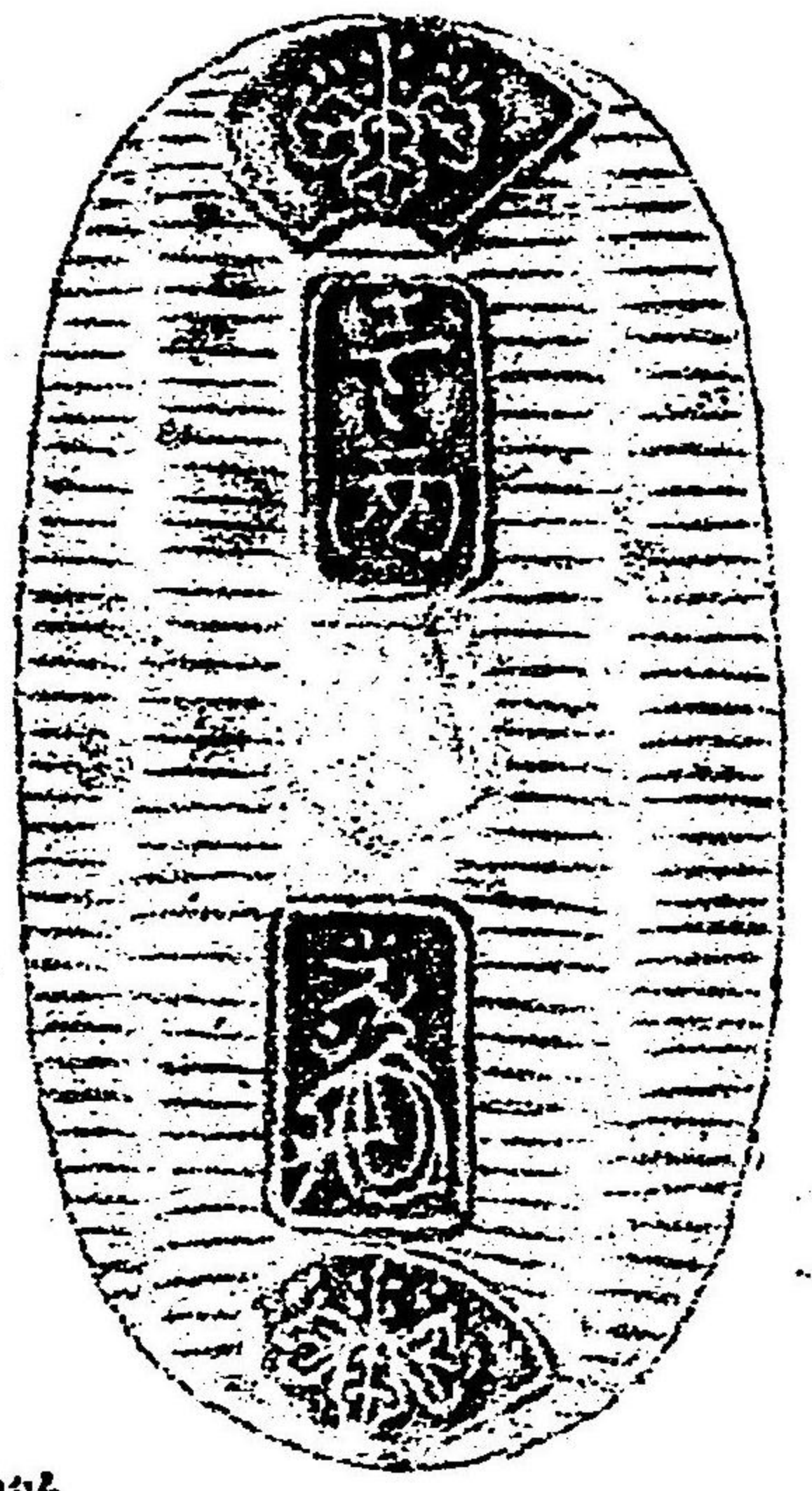
内 五十七錢一零、
七十八錢一五三、
七錢六一四、
精製分析料
鑄造料
試驗辨別料

殘七十四圓七十一錢八六二

但價格表原書「オン」ヲ以テ量目ヲ書ス今、残量目ヲ算シテ之レヲ改書ス

出納寮所有金ノ内

慶長大判金 京座小判
以下皆之ニ働フハレ但一「オン」スハ凡ソ我八錢二分八厘ナリ

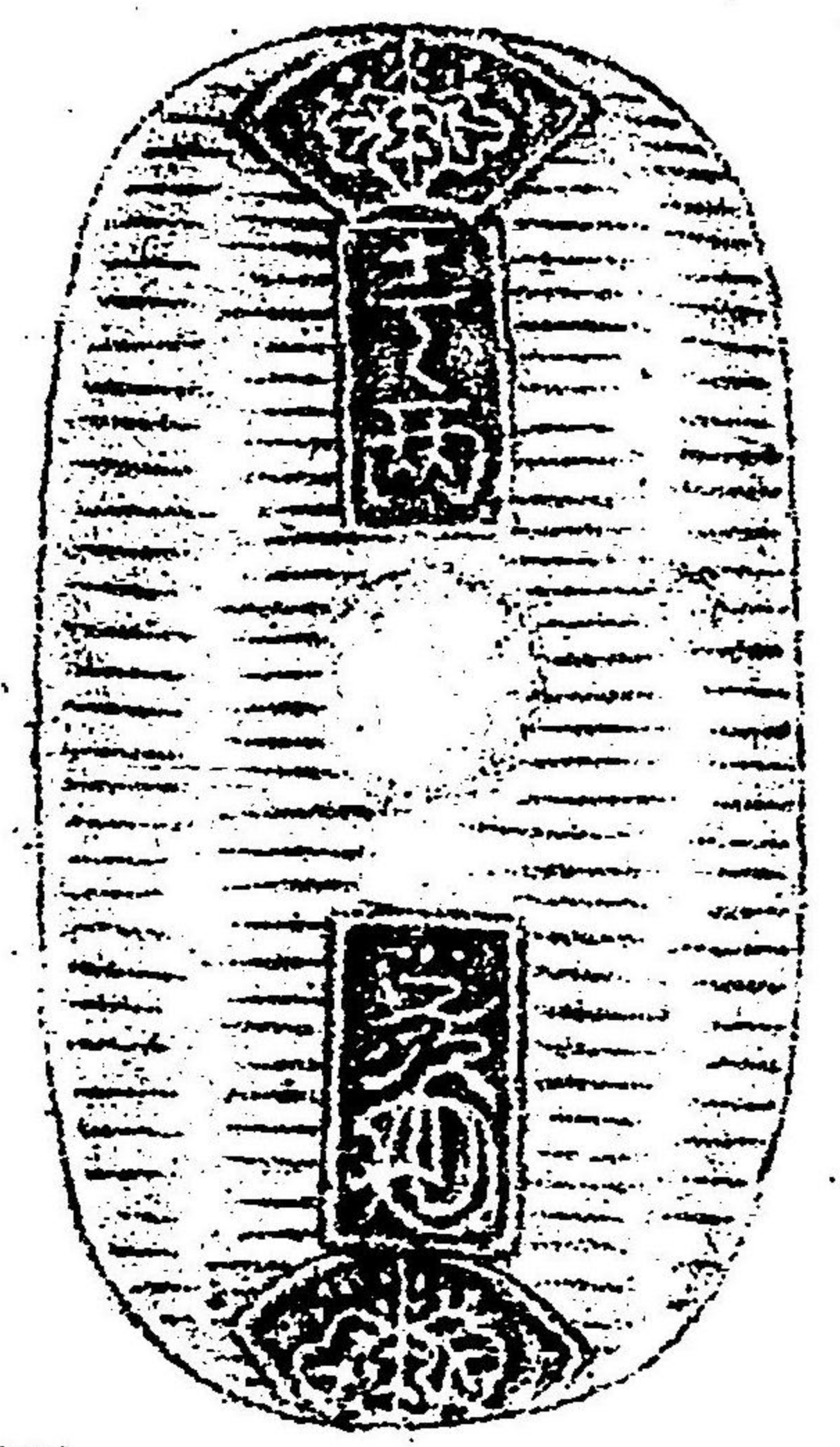


縦貳寸三分
横壹寸貳分五厘

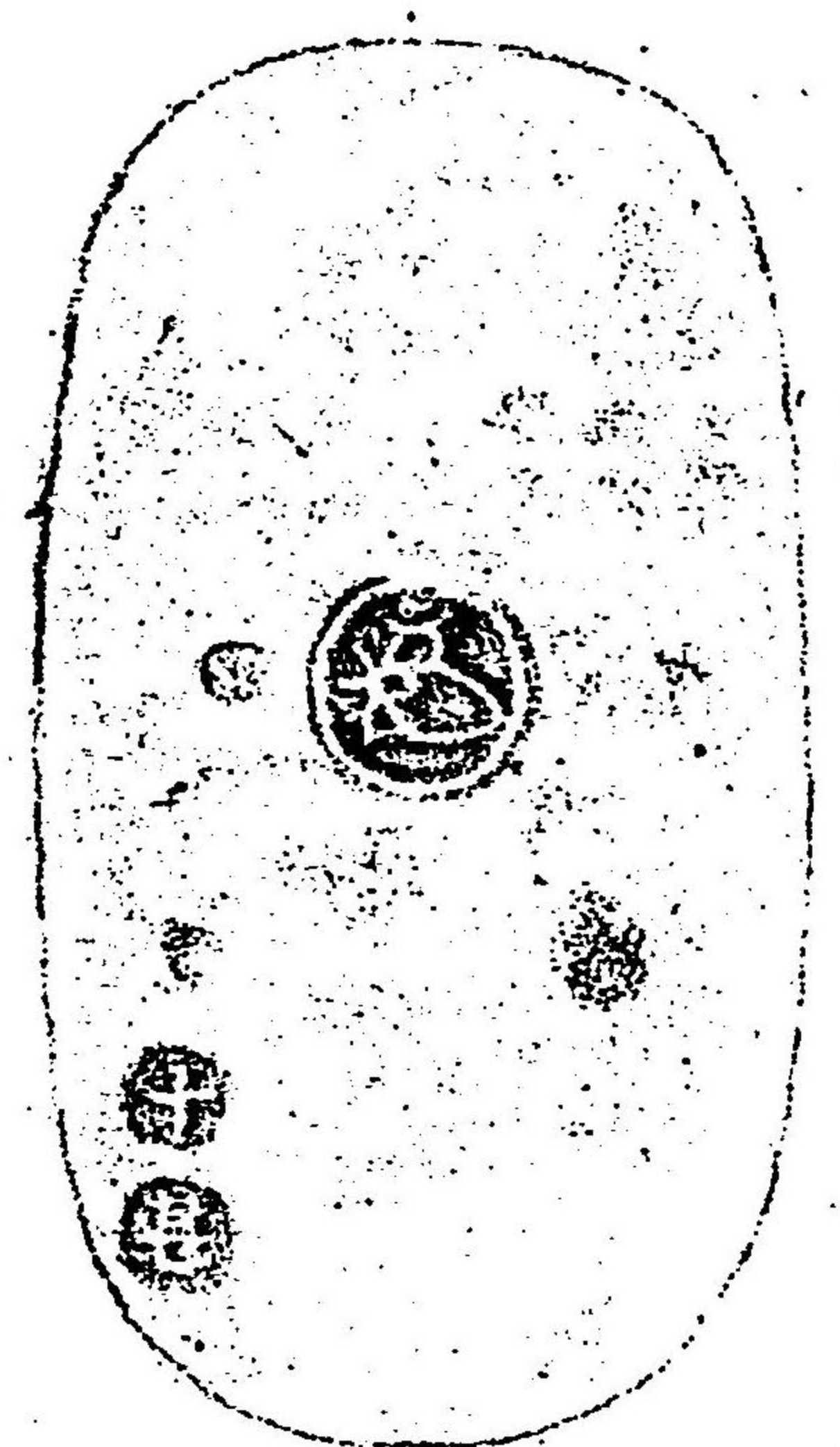
造幣寮所藏ノ品
ナリ

慶長小判金

面



背

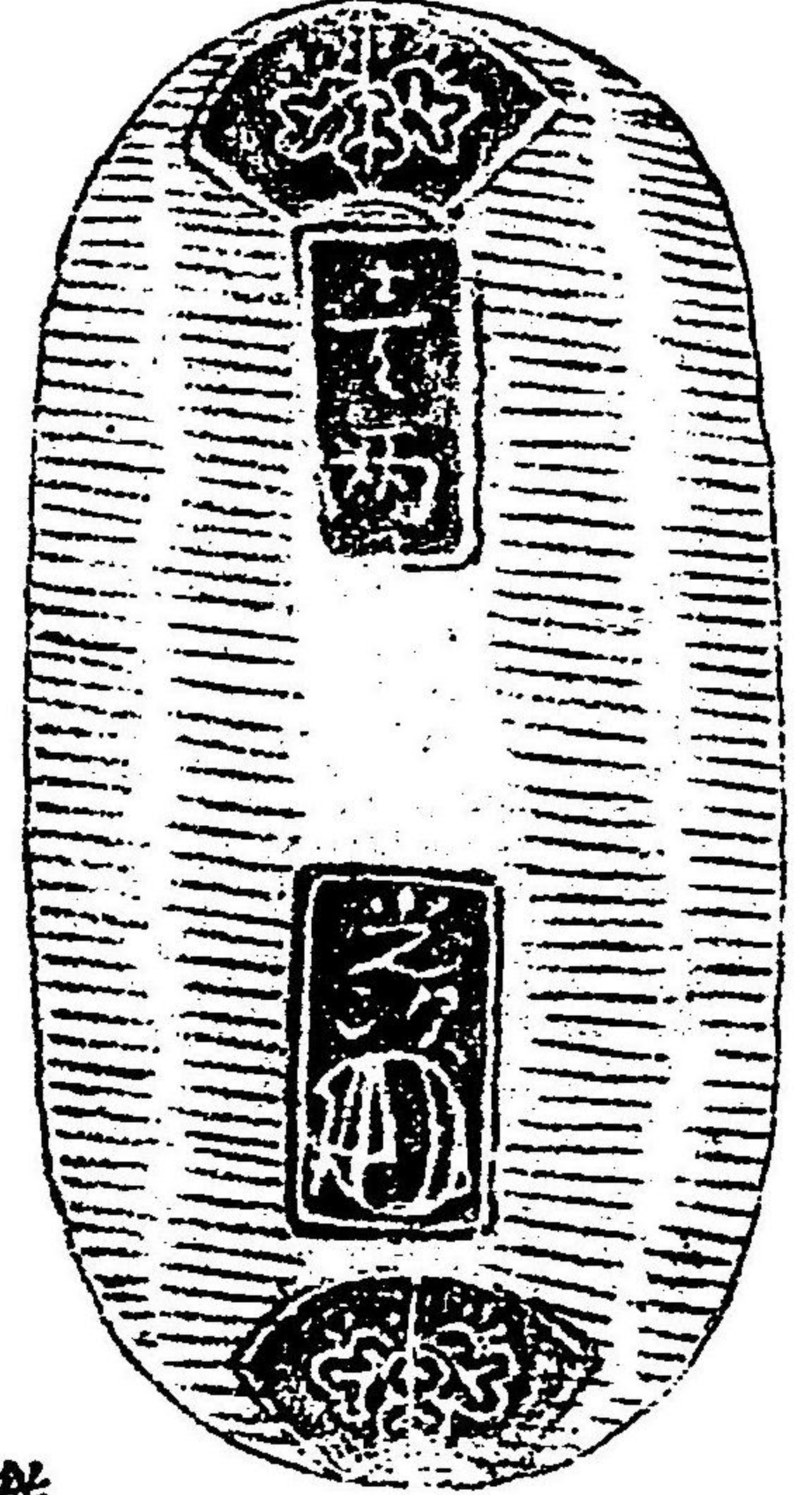


縦貳寸貳分五厘強
横壹寸三分弱

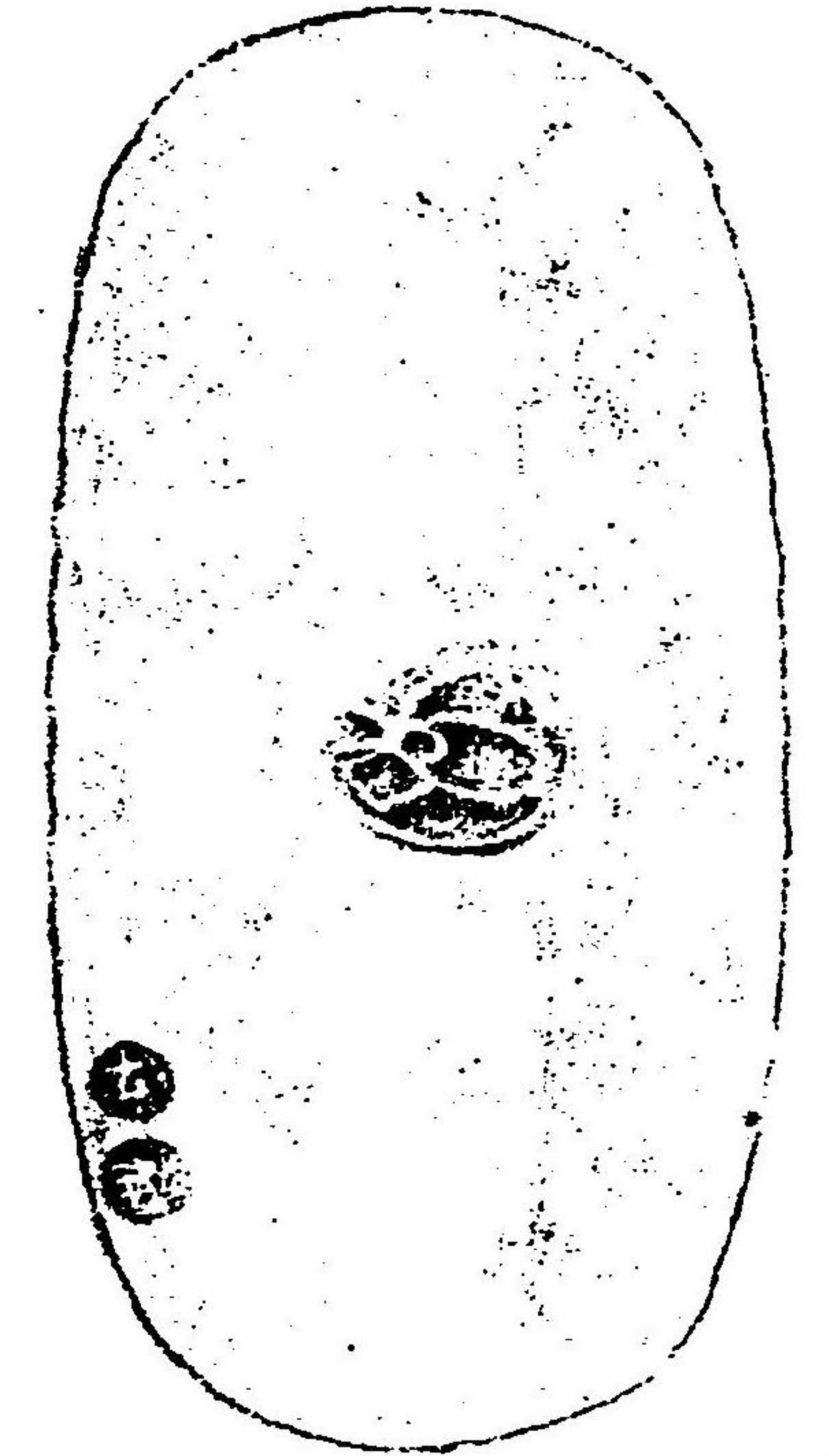
東京府華族某所
藏ノ品ナリ

慶長小判金

面

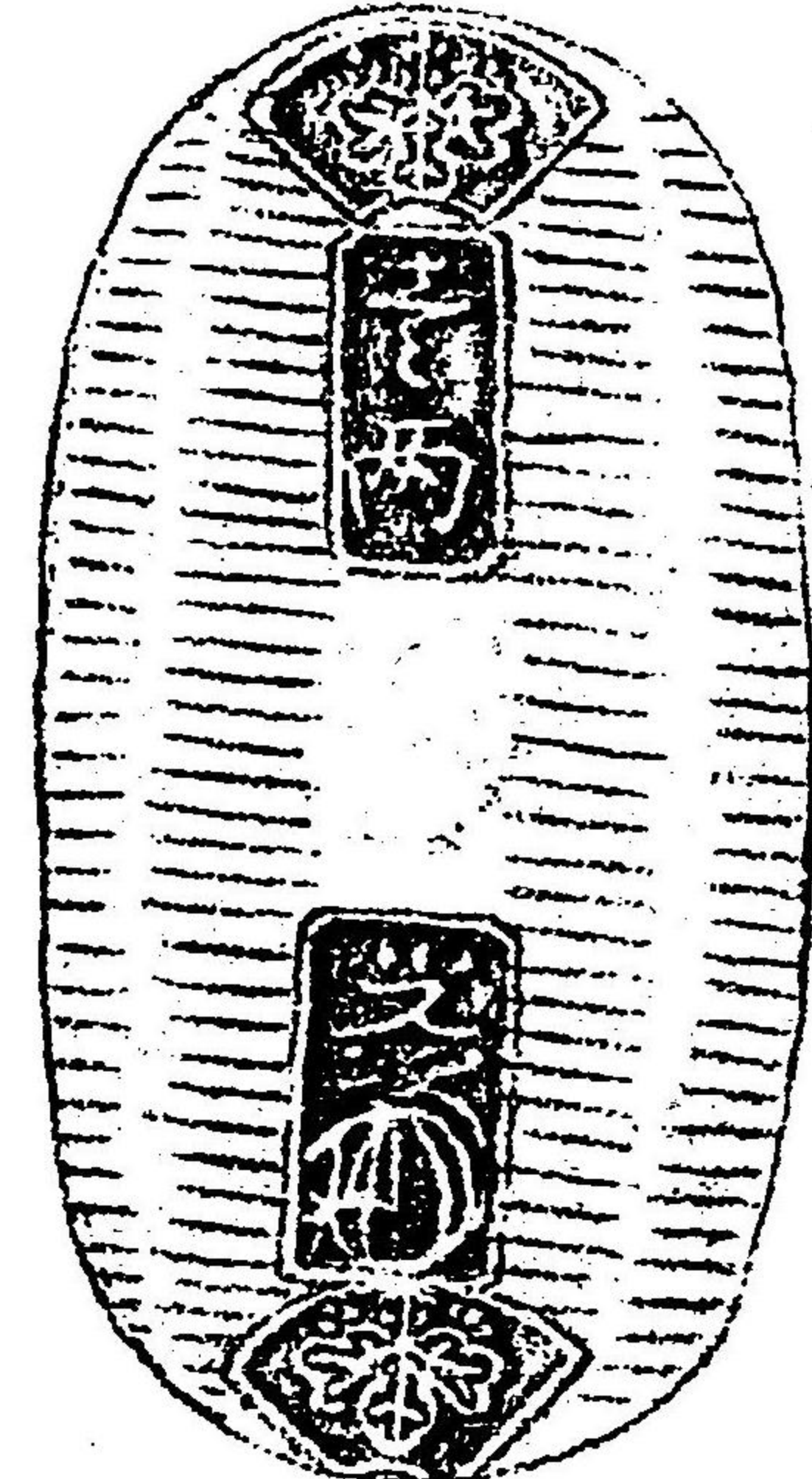


背



縦貳寸三分強
横壹寸貳分五厘弱

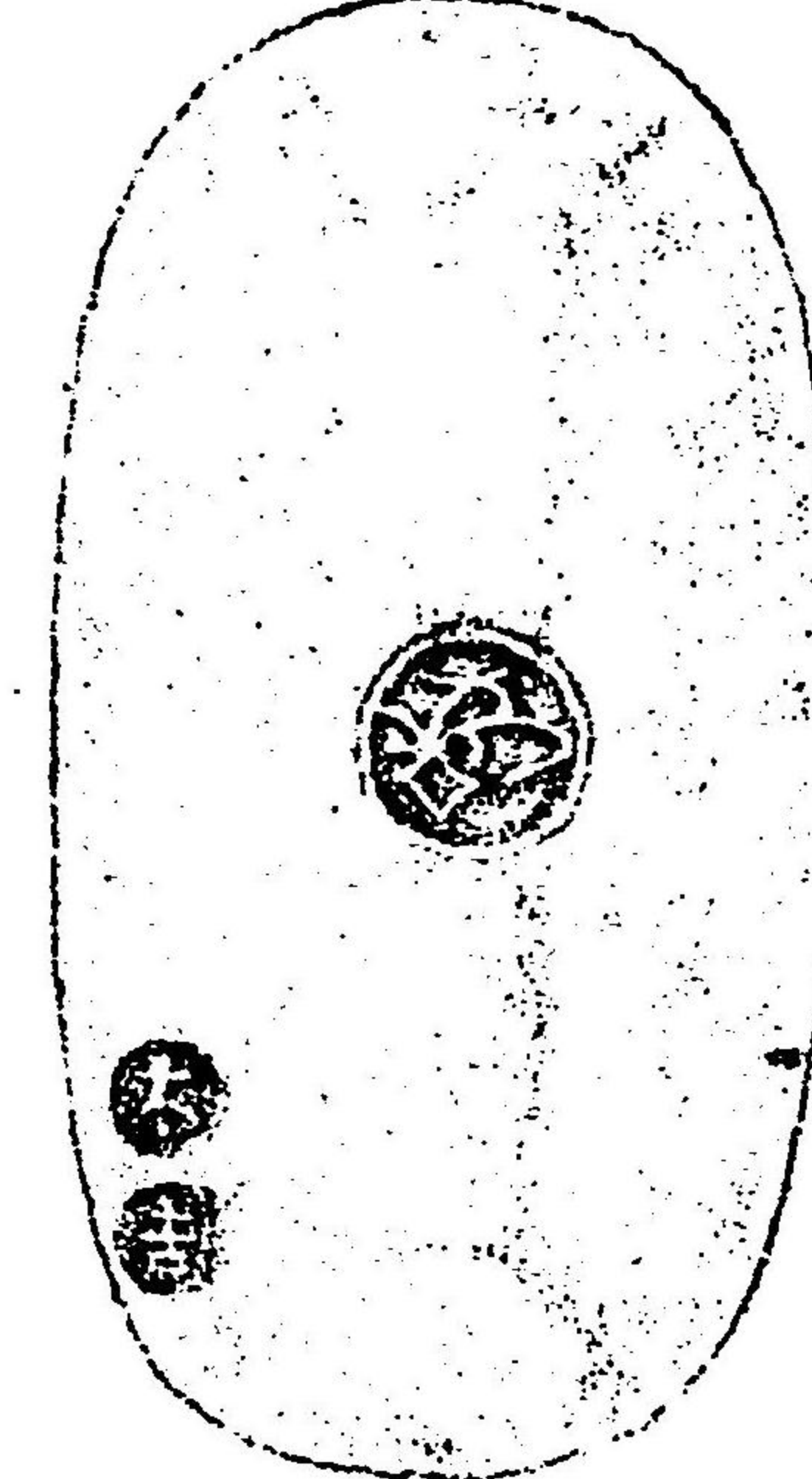
慶長小判金



面

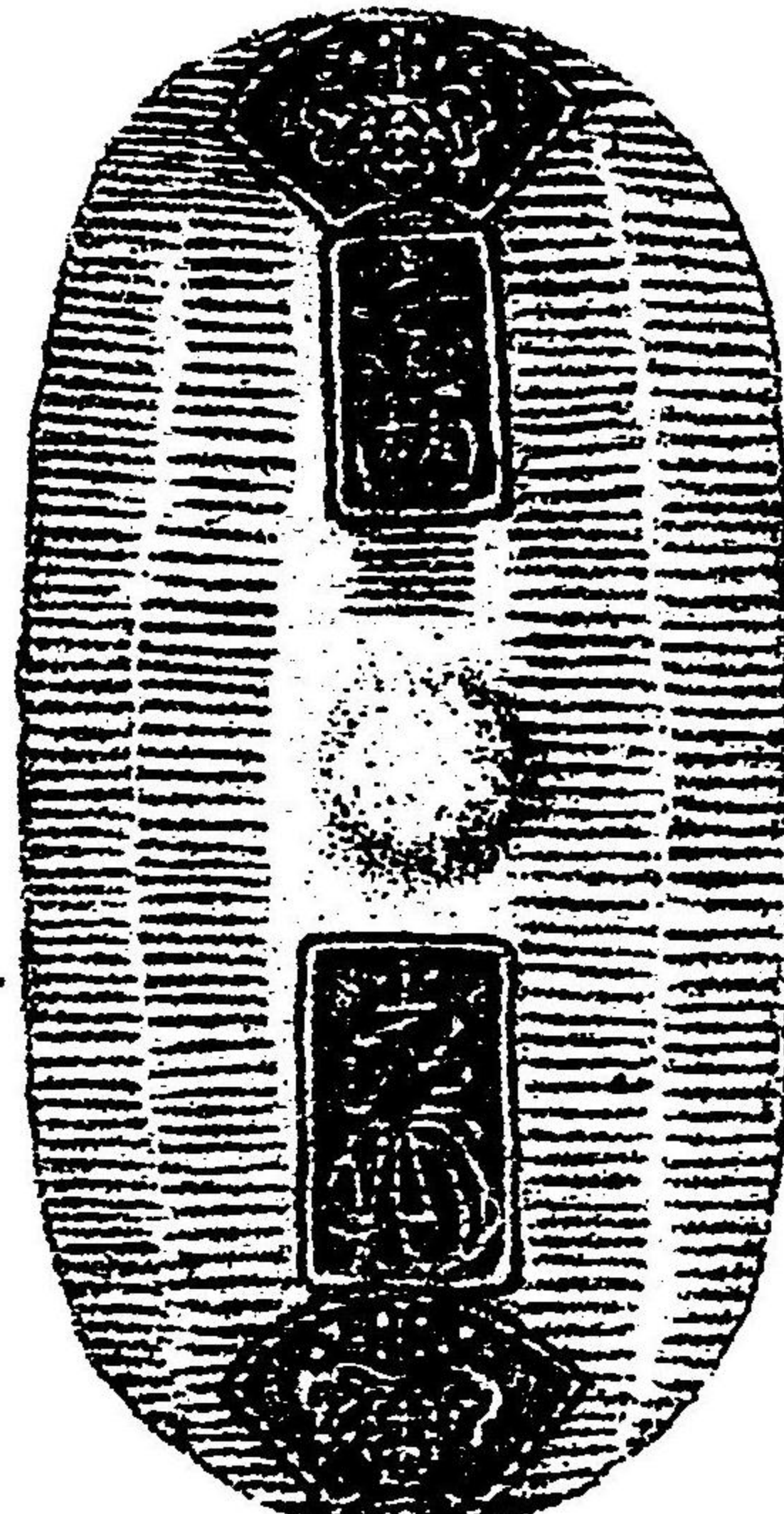
縱貳寸貳分五厘弱
横壹寸貳分五厘

東京府華族某所
藏ノ品ナリ



背

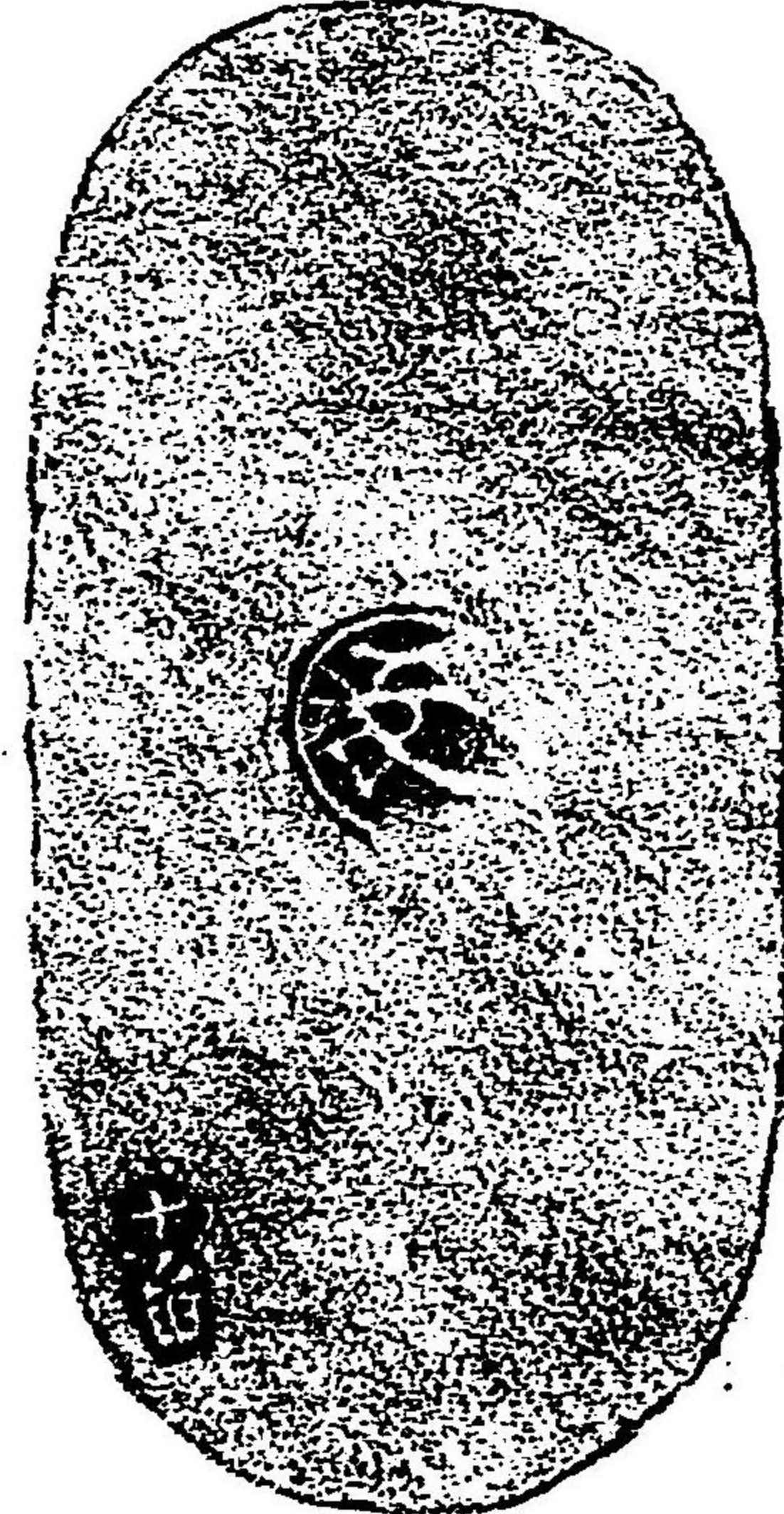
慶長小判金



面

縱貳寸三分五厘
横壹寸貳分強

東京府華族某所
藏ノ品ナリ

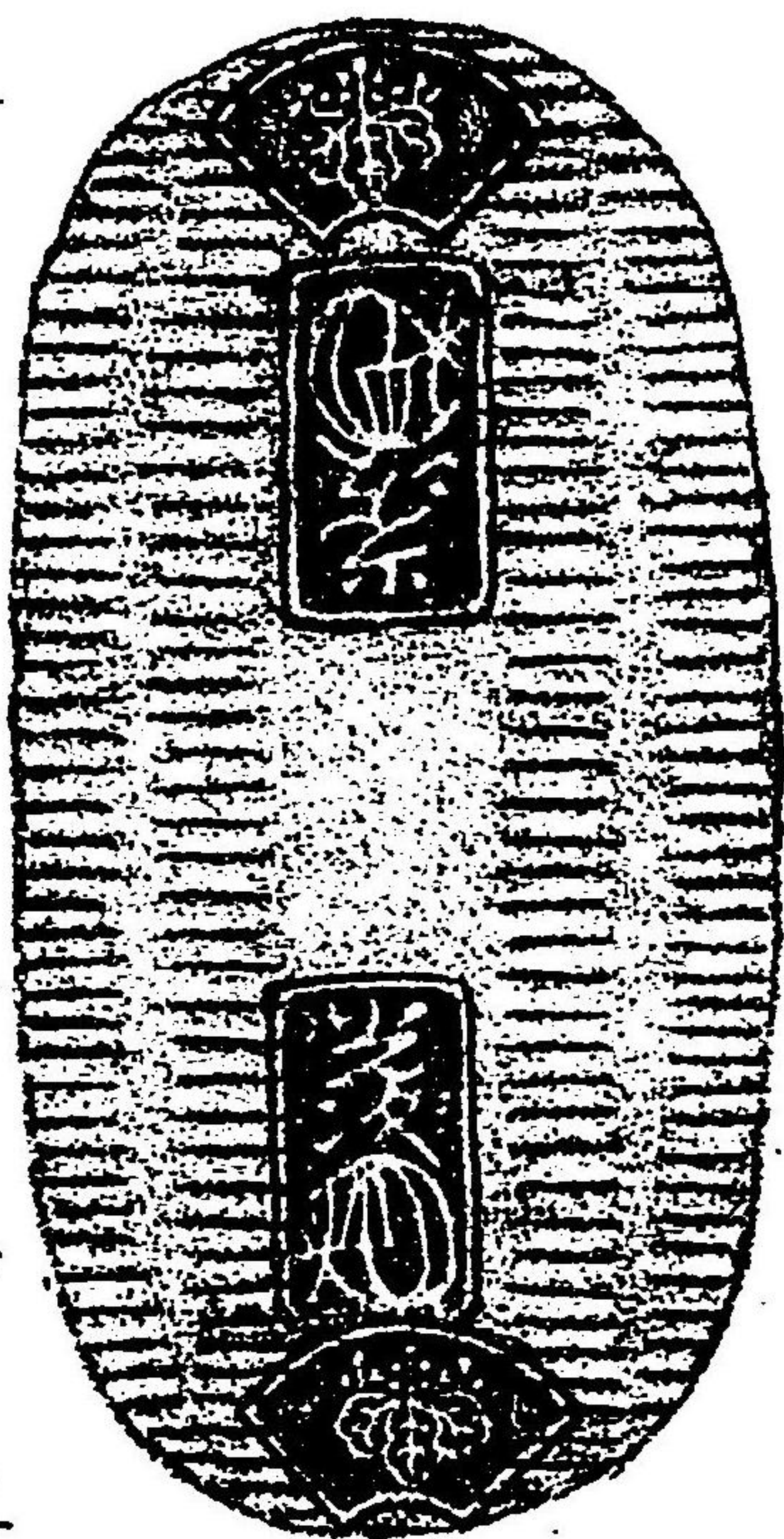


背

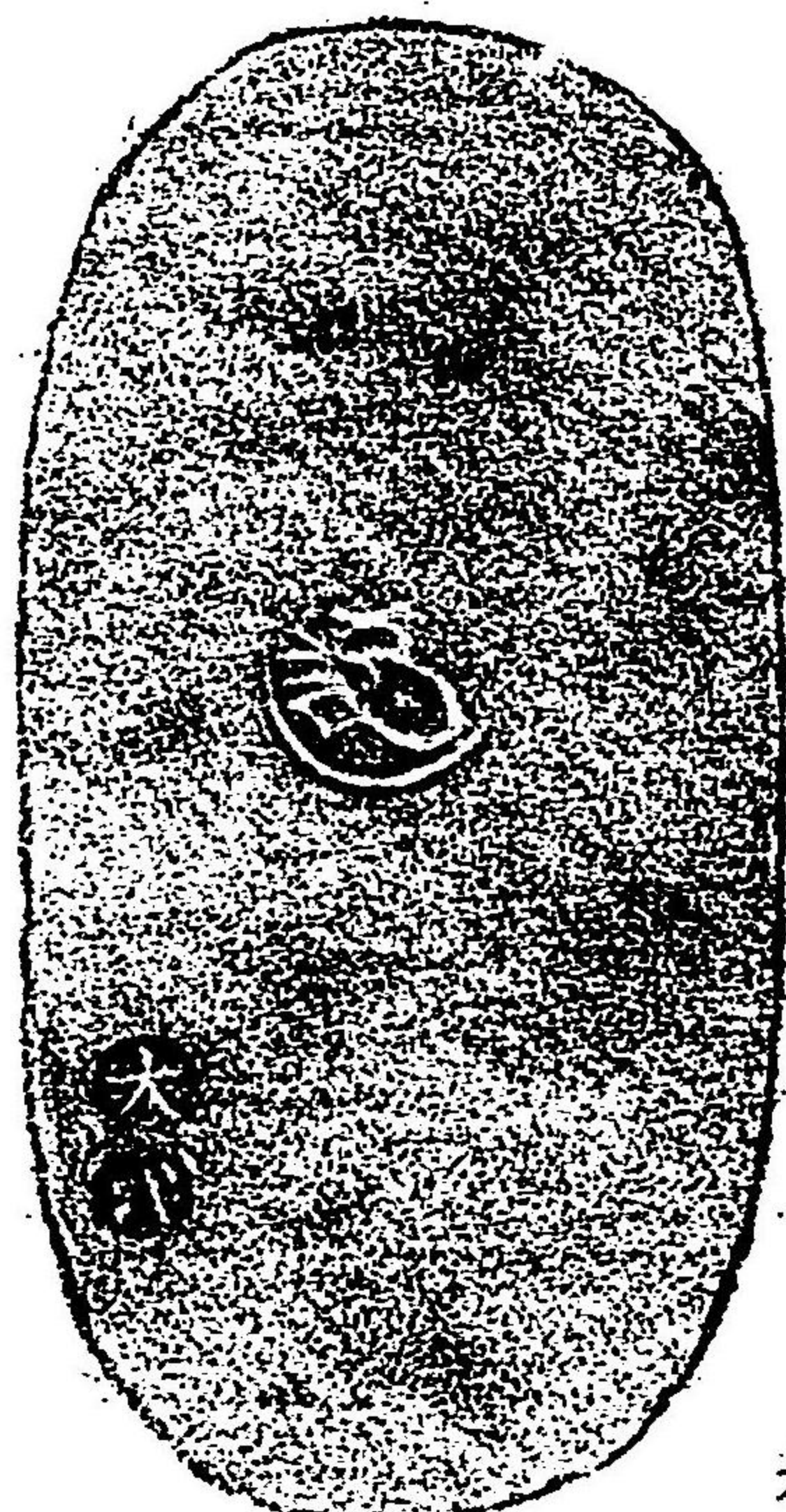
東京府華族某所
藏ノ品ナリ

慶長小判金

西



背

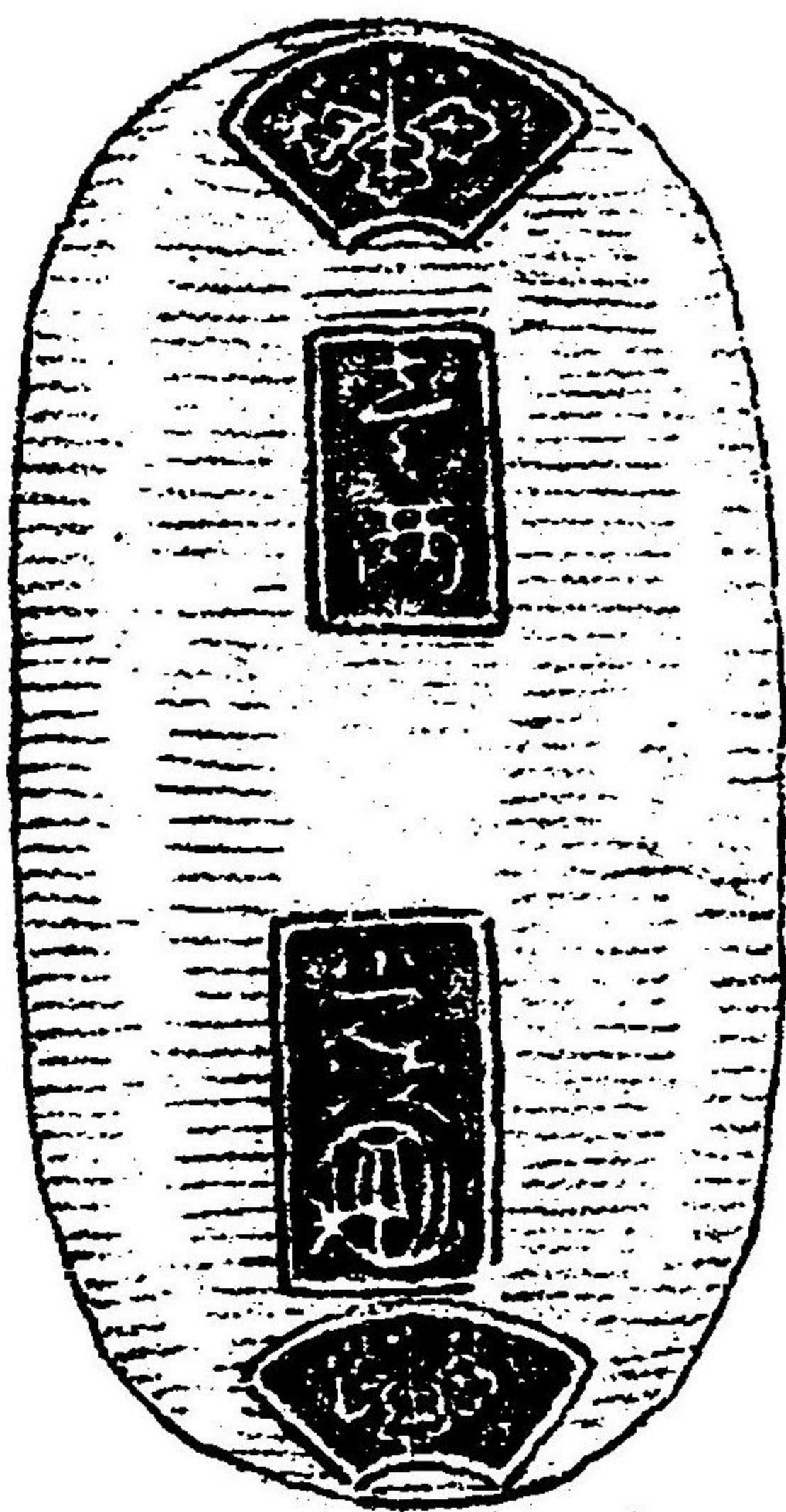


縦貳寸三分五厘
横壹寸貳分強

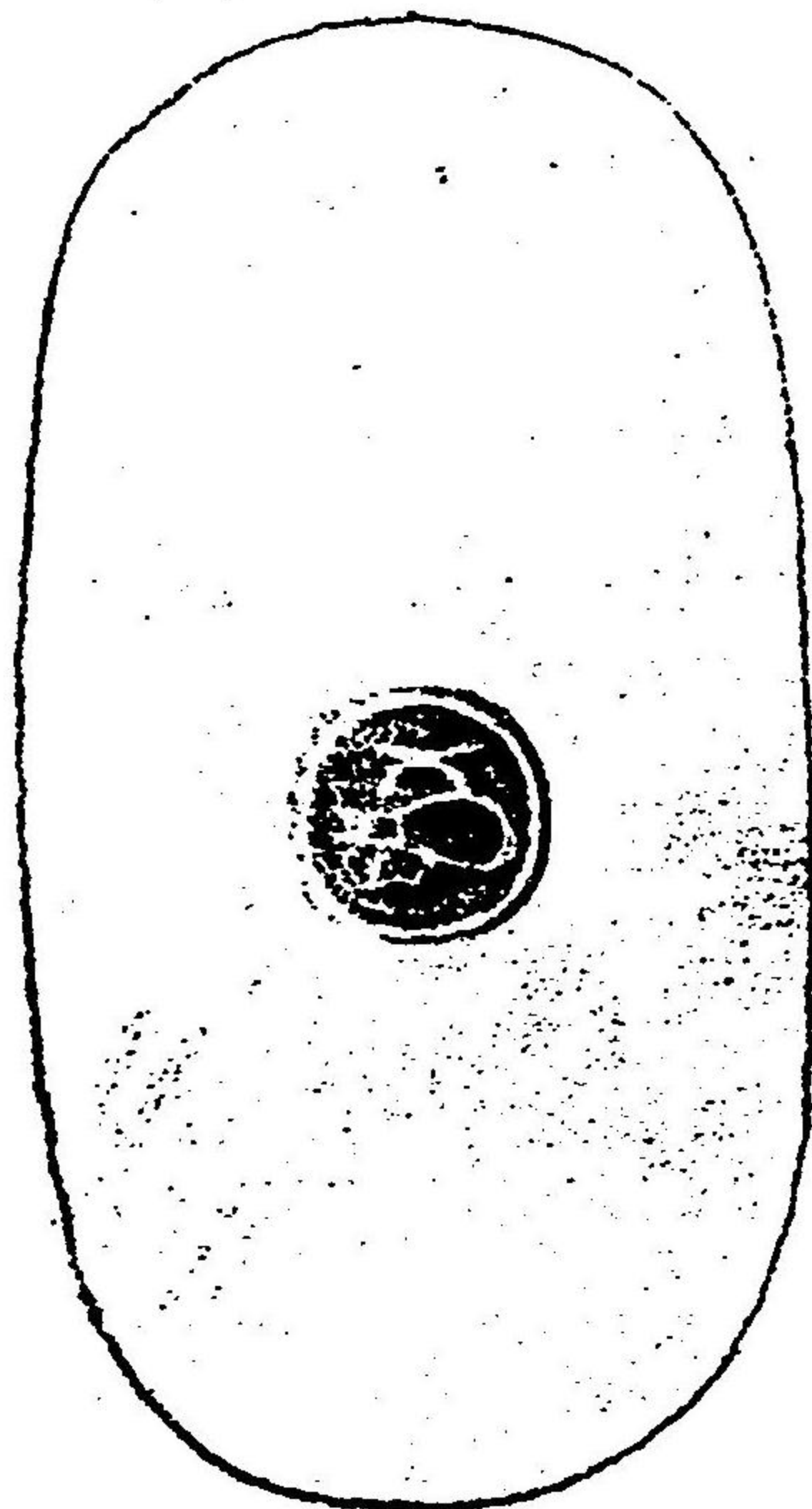
宝貨圖所掲ノ圖
ナリ

慶長駿河小判金

面



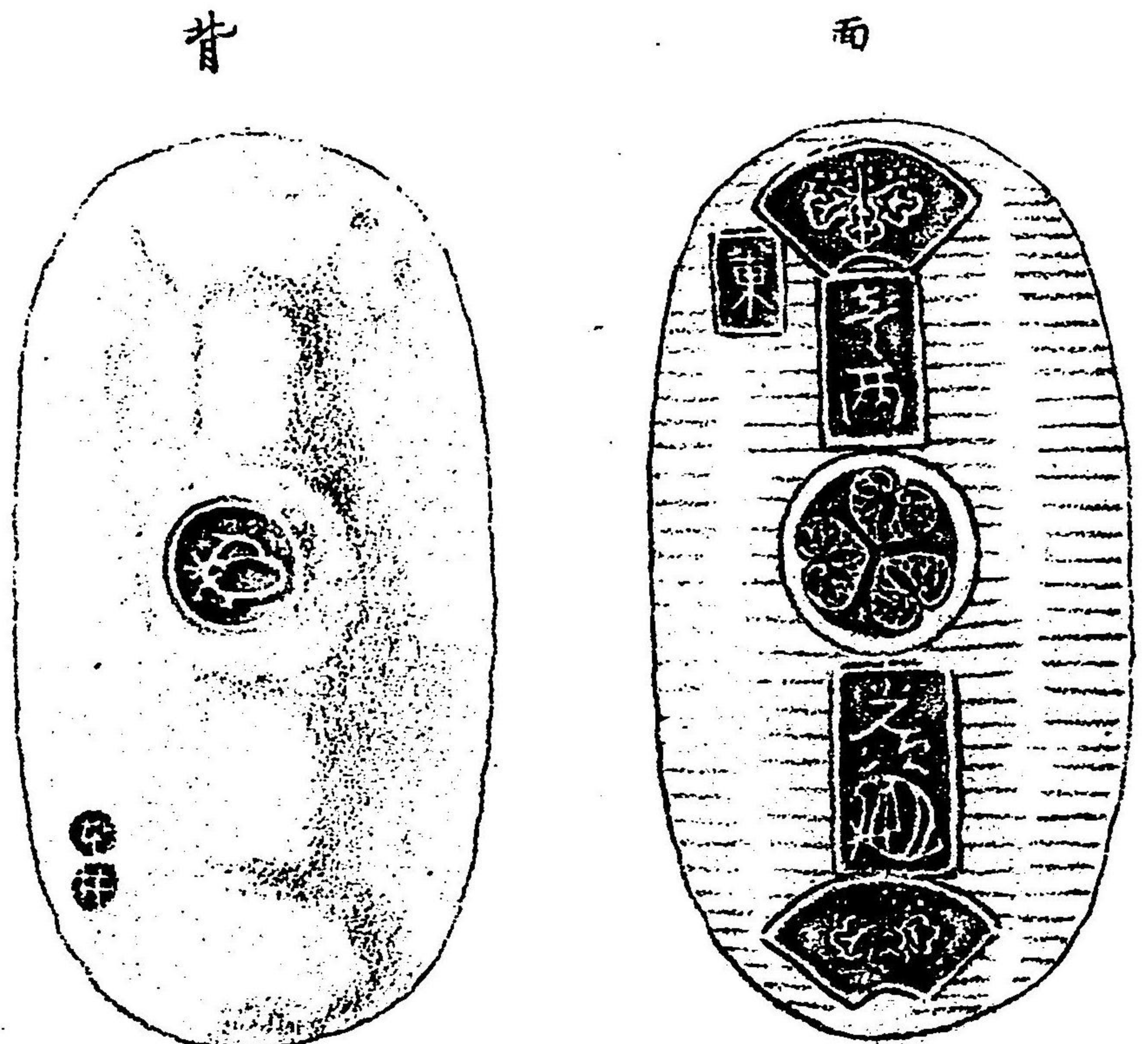
背



縦貳寸三分
横壹寸貳分五厘弱

慶長小判金

三貨備覽所掲
圖ナリ



縦貳寸三分
横壹寸貳分五厘強

謹按三貨備覽ニ右葵號ノ小判圖ヲ載ス
其說ニ是ハ慶長小判ノ下範ナリ云々ト
アリ蓋シ種々試鑄シタル内ノ一ナルヘ
レ

舊金銀貨幣價格表ニ據テ算スレハ慶長小判
ノ價格左ノコトシ

一 慶長小判十兩 重四十七匁三分零厘零四九三六

内 金四十零匁五分三厘二七九二九六五八四 位千分中 金八五六九
銀六匁七分四厘零三二零三三八 銀一四二五
雜二厘八三八零二九六一六 雜零零零六

此新貨百零二圓五十四錢九八四

內 七十六錢九一二
一圓零三錢五九三
十零錢二五五

殘百零零圓六十四錢二二四

精製分料
鑄造分料
試驗分料
析解分料

慶長壹分判金



縱五分五厘
橫三分強

出納寮所有金

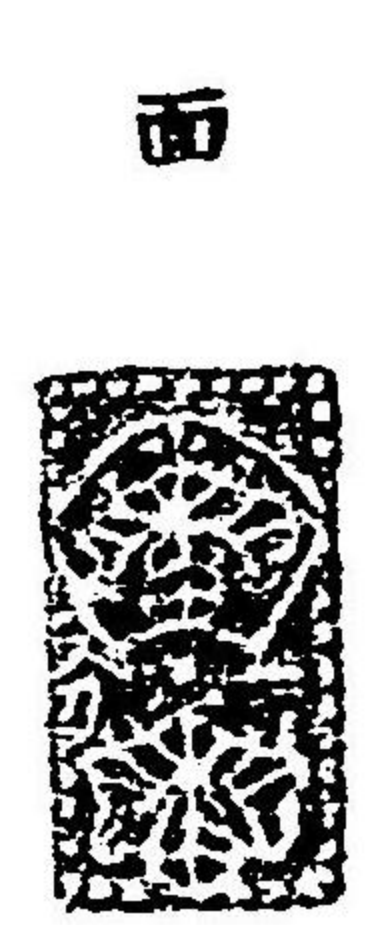
出納寮所有金

慶長壹分判金



縱六分強
橫三分五厘

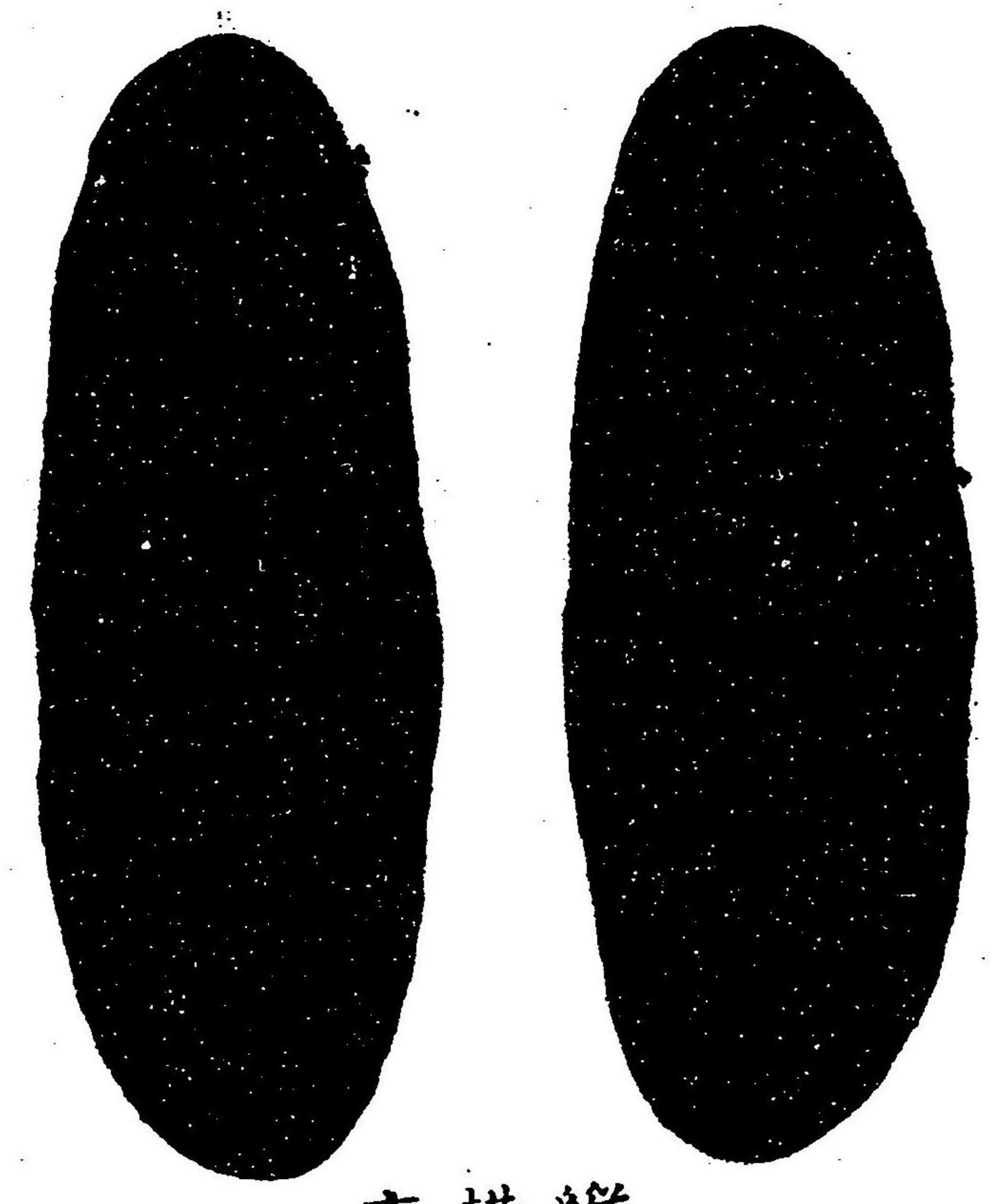
出納寮所有金



縱五分五厘
橫三分強

慶長一分判十兩ハ慶長小判十兩ト價格同
ケレハ之ヲ畧ス

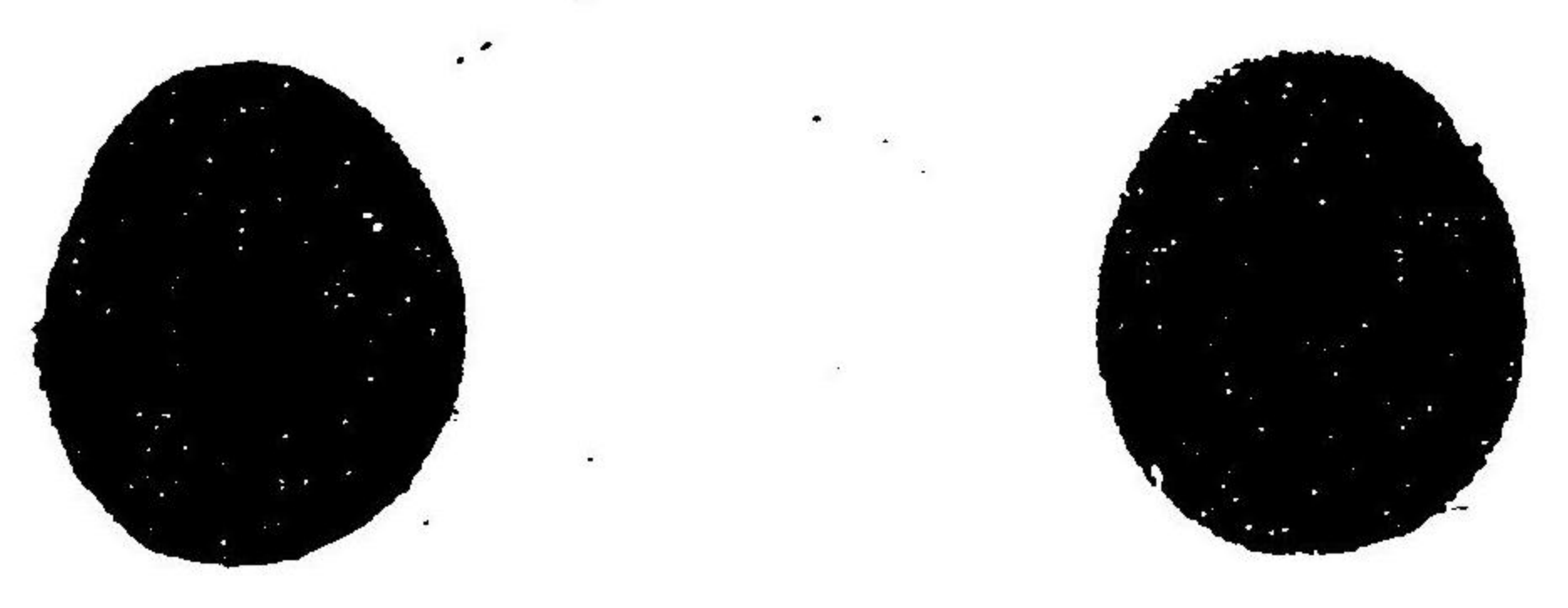
慶長丁銀



縱貳寸六分五厘
横壹寸
重三拾九匁

造幣寮所藏ノ品
ナリ

慶長豆板銀



縱六分強
横五分
重三匁五分

造幣寮所藏ノ品
ナリ

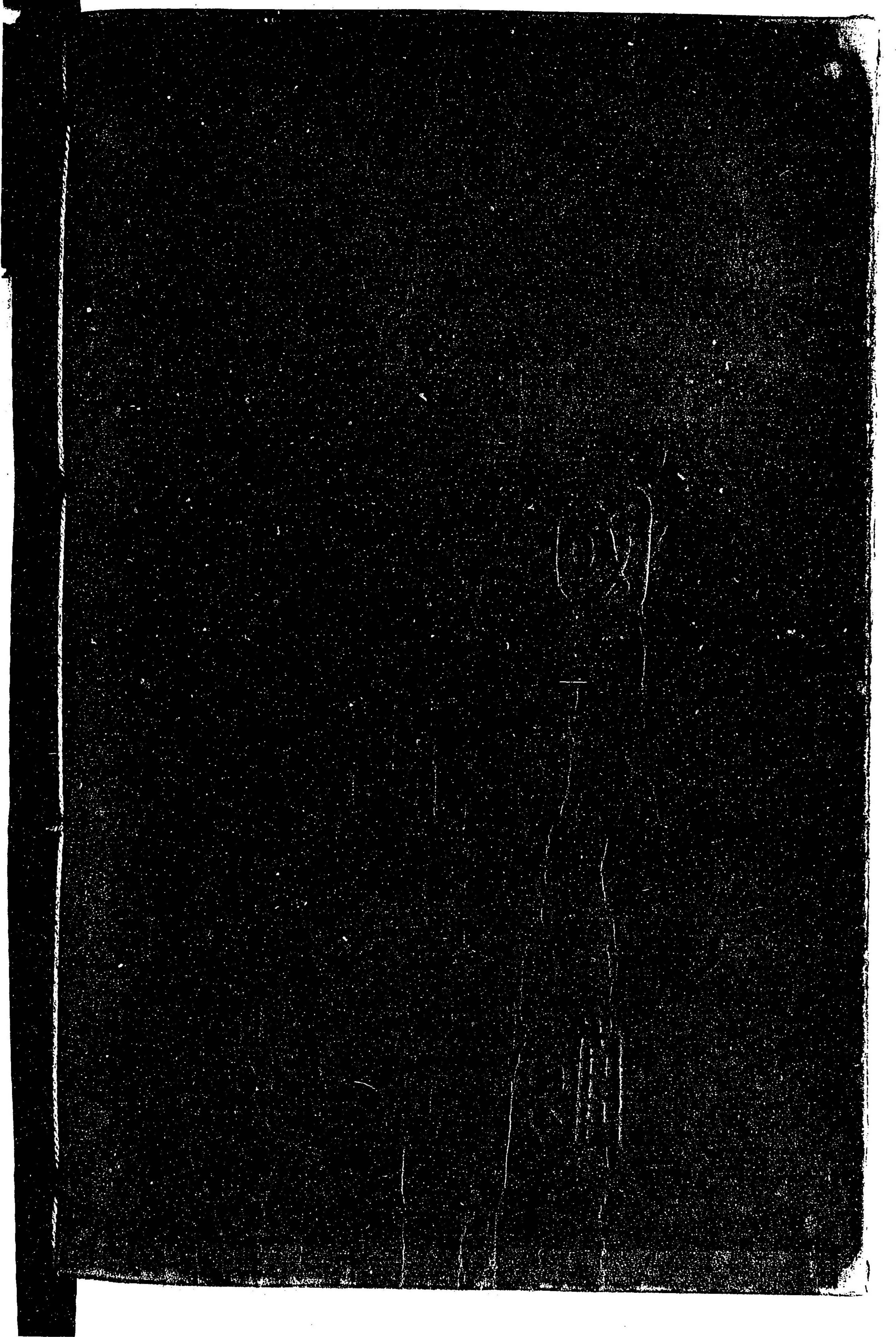
謹按豆板銀丁銀ハ蓋レ煎傾ノマヽニテ
 大小輕重元ヨリ一ナラス貸率モ精確ナ
 ラサレトモ姑ラク舊記録ニ載スルトコ
 ロニ據レハ左ノコトレ即慶長銀ノ貸率
 ハ百分中銀八十分銅二十分ナリト是只
 大凡ヲ云フノミナレトモ參考ノタメ記
 ス是ヨリ以下ノ豆板銀丁銀ニ於ルモ亦
 只大凡ヲ云フノミナリ
 舊貨幣表ニ慶長銀ノ鑄造大凡ノ總額百
 二十萬貫目ナリト云ヘリ

舊幕ノトキ丁銀豆板銀ヲ用ルニハ重四
 十三匁ヲ以テ銀一枚ト定メシユヘ丁銀
 ノ重ノ不足ナルニハ豆板ヲ足シ四十三
 匁トシテ之ヲ一枚包トイヒ又丁銀ノ重
 ノ有餘ノモノハ三枚包又ハ五枚包ノト
 キ大小輕重ヲ平均シテ一枚四十三匁ニ
 當ルコトヲ定制トセシナリ
 慶長丁銀豆板銀大凡ノ貸率ハ參考ノタ
 メ右ニ記シタレトモ舊金銀貨幣價格表
 ニ丁銀小玉銀量目駁雜定一セス隨テ一

個ノ價格ニ至リ各不同ヲ生シ預メ定メ
カタレ故ニ比較表ニ掲ケス一般ノ地金
ト看做ストアリ然レハ慶長以來ノ豆板
銀丁銀皆ナ之ニ準スヘシ是レハ凡例ニ
モ掲ケ載セタレトモ因ニ記ス
慶長以來ノ貨幣ヲ精究セント欲スル人
ハ此卷ヲ始メトシテ綱ニ依リ目ニ傍テ
驗看セハ之ヲ知得スヘシ

大日本貨幣史卷四終

206
23
40



206
23
40

大日本貨幣史

三四